昭和24年3月19日 昭和27年6月25日印刷
第3種郵便物認可 昭和27年7月1日發行

建築と社會

The Architectural Association of Japan

7

新建築紹介其の他
アール・プロット博士邸 …… 1
ノースウエスタン火災相互保険ビル …… 4
新日本工業デザイン展示会 …… 23
記事欄
沖縄工事の実情 特に電気工事に就いて……吉岡一意……6
沖縄の電気工事に就いて……栗原信虎……12
沖縄の衛生設備工事に就いて……斉藤光夫……14
沖縄通信……浅沼茂夫……16
工業デザイン問題……石川純一郎……19
自然に帰れ……リヒアルト・ノイトラ……27
ノイトラ氏を迎へて……上野伊三郎……29
ノイトラ的・ライト的……村野藤吾……32
同行三日の記（NEUTRA氏への理解のために）……増田友也……34
RICHARD J.NEUTRAについて…徳田鐶……39
NEUTRA& AMERICA……林野全孝……40
ハガキ回答……編集委員会……42
第四回国土建設週間実施要領……建設省……45
竹腰会長のM・R・A便り……47
創立35年記念事業ニュース……48
会務……50
建材価格表……関西建材会編……61

1952 Vol. 33

日本建築協會

アスファルトタイルは割れるから使ふのは止めよう!

・・・・・と言はれる方があるそうです. 未だ日本では製造を初めてから日が浅いので危惧の念もあるのです.
アメリカでは床工事の80%がアスファルトタイルを使用してゐるそうです 当社の**"三星印アスファルトタイル"**はU.S.Federal Spec. SS-T-306aに依って試験室で製品を嚴密に検査して出荷して居り, 此の規格を常に凌駕して居ります. アスファルトタイル御使用の際は**"三星印"**と特に御指定下さい. 仕上り後変色したり割れたとかの苦情は決してありません.
當社品はアメリカ製品にも品質に於ては遜色がなく寧ろ優つてゐると自負して居ります. 欠点は未だ値段が高いことです. 今工場ではコスト引下に努力中です.

三星印

田島応用化工株式会社

東京・足立区小台町633 TEL.代表.王子(81)2330
大阪・西区京町堀上通 1-14 TEL.代表.土佐堀(44)0810

会　　告

建材審査証明書発行の件

予て申出に係る三星印石綿ギルソイドルーフイングについて審査の結果下の通り証明書を発行した。

優良証明書　27年度第1号

1. 品名　三星印石綿ギルソイドルーフイング

1. 製品社名　田島応用化工株式会社

昭和26年10月10日提出された資料につき本会建材審査委員会に於て審査の結果此製品は別記特徴に依り優良と認める。

昭和27年6月9日

特徴概記

1. 原紙の抄造に同社特許の無機性化学繊維を使用しあるため、アスファルトの浸透率が極めて良好である。
2. 原料が無機質であるから腐蝕せず永久性がある。
3. ギルソイドがアスファルトの熱で容易に溶解するので、施工上気泡を生ずる憂は少くルーフイングとアスファルトとの密着は非常によい。
4. 上掛（コーチング）用アスファルト特製MBコムパウンドを使用してあるため、夏期でも常温では附着しない

社団法人日本建築協会々長　竹腰健造　以上

同上建材審査委員会委員長　置塩章

昭和26年度中発行した建材審査優良証明は下の通りである。

1. 昭和26年10月5日　製品社名　日本セメント防水剤製造所　品名　**セメント防水剤ウオータイトB号**　吸水度並耐圧強度良好にして浸透遮断率高度なるものと認める。
2. 昭和27年1月11日　製品社名　合資会社佐村木商店　品名　**新型実用新案　平安瓦**
3. 昭和27年1月11日　製品社名　ナニワ瓦株式会社　品名　**ナニワS瓦**
4. 昭和27年1月11日　製品社名　オーケー商会　奥村丈太郎　品名　**実用新案　横架材胴附サポート**　従来の鴨居等接合構法の改良に着想された此金物は優良と認める。
5. 昭和27年2月17日　製品社名　朝日石綿工業株式会社　品名　**特製朝日波型スレート**（水圧機による加圧製品）
6. 昭和27年2月17日　製品社名　田島応用化工株式会社　品名　**三ツ星印アスファルトタイル**
7. 昭和27年3月11日　製品社名　磐城コンクリート工業株式会社　品名　**波型石綿スレート**（水圧機による加圧製品）

新刊「プラスチツクスとビニロン」パンフレツト発行

本会記念事業の一として五月から各地で開催の建築講習会は至る所盛会であるが、其テキスト中材料部内の一節にある合成樹脂については特に来聴者の注意を喚起、各地共終講後サンプルに集中質問殺到され多大の興味を呼び好評を博している。本会出版委員会では予而このパンフレツトの出版を企画していたが、この現象に鑑み急ぎ発刊する事とした。即ち題してプラスチツクスとビニロンとし四六版約50頁にアクリライト、メラミン（デコラ）、ビニール（硬質、塩化）等建築資材として関係あるものを納めた内容極めて平易に簡潔に要領を得、然も余り専門的に亘らぬ便利な小冊子である。

このパンフレツトは今後開催の講習会に持参、テキスト補助として発売するが尚一般希望者にも広く頒布する。建築関係者が是非一本を座右にされる価値あるものと信じ、お奨めする次第である。但し本パンフレツトは再版しないから希望の方は売切れない内至急申込まれたい。

1部定価　70円　〒8円　但本会員は1部に限り送料共　60円

会　　告

創立35年記念事業後援申込芳名

創立35年記念事業も各位の御後援により着々進行しつつありますことを厚く御礼申上げます。本日現在に於ける申込を賜つたものは下記の通りであります。尚御申込洩れの向も何卒絶大の御援助を賜り本事業の完遂に御協力下さいますようお願い申上げます。

昭和27年6月20日

記念事業委員会委員長　資金部長　東畑謙三

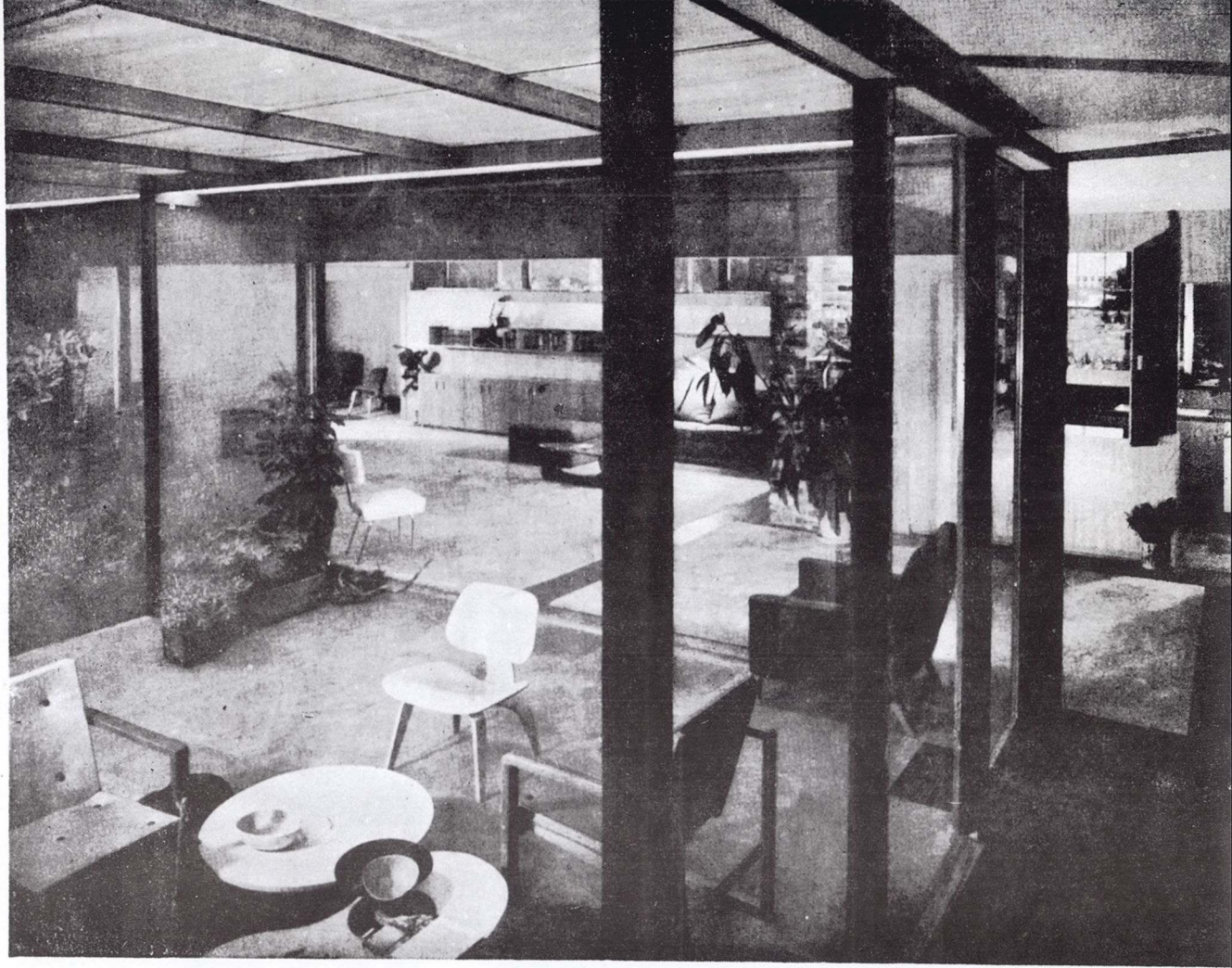
◎申込芳名並金額（申込受付順）

東洋洋瓦株式会社殿	20,000
池田建材殿	10,000
田島応用化工株式会社殿	50,000
浜田理一殿	1,000
神谷新一殿	1,000
小林建設株式会社殿	1,000
株式会社大阪防水建設社殿	3,000
T.Y防水工業株式会社殿	2,000
黒川化学工業所殿	2,000
大日特殊建材工業所殿	2,000
工藤甚五郎殿	300
清水一雄殿（東京）	1,000
山本良雄殿	500
加田安彦殿（高知）	300
やよひスレート株式会社殿	10,000
今田隆人殿（山口）	300
元木貞治殿	1,600
中谷至広殿	300
佐久間逸治殿	500
落合勇一殿	300
竹腰健造殿	10,000
熊本喜代司殿（中国）	300
中野順次郎殿	1,000
株式会社大阪建築事務所殿	30,000
池田宮彦殿	300
高橋慶夫殿	300
前内文二郎殿	300
柴川伝槌殿（高松）	500
福田万亀雄殿	1,000
荒川市次殿（東海）	300
中島茂右衛門殿（京都）	300
株式会社明和工務店殿（兵庫）	3,000
株式会社竹中工務店九州支店殿（九州）	3,000
池田谷久吉殿	300
池田武彦殿（長野）	300
林金房殿	300
左谷米三郎殿	300
大阪土木工業株式会社殿	1,000
小林盛太殿（東京）	300
久保田種吉殿	300
石橋健市殿（和歌山）	100
株式会社村田硝子店殿	10,000
株式会社山本建材社殿	10,000
株式会社藤本工務店殿	1,000
岩佐直則殿（兵庫）	1,000
山本窯業商店殿	10,000
野中駒市殿	1,000
田村享殿（兵庫）	500
株式会社　河野組殿	3,000
内外土木建材社殿	10,000
ナニワ瓦株式会社殿	5,000
上島八助殿（東京）	300
吉嶺誠丸殿（東海）	1,000
竹内さく殿（兵庫）	300
大西正一殿（兵庫）	300
速水逸夫殿	300
竹内孝殿	1,000
鹿島建設株式会社九州支店殿（九州）	3,000
吉田安三郎殿	1,000
徳永硝子株式会社殿	50,000
伊東五郎殿	1,000
野沢石綿セメント株式会社殿	50,000
東洋陶器株式会社大阪営業所殿	30,000
栗原工業株式会社殿	50,000
千賀正人殿（東京）	300
喜多村義雄殿（九州）	1,000
藤勝治殿	300
鈴木広好殿（中国）	1,500

板井公威殿（九州）	300
大谷木　広殿（東京）	300
野崎謙三殿（仙台）	600
株式会社熊谷組福井出張所殿（福井）	3,000
内藤多仲殿（東京）	1,000
阪口貞一郎殿	300
上林博雄殿	300
芳川時男殿（中国）	300
堅田静雄殿（兵庫）	500
保園源三殿（東京）	3,000
東畑謙三殿	3,000
東畑建築事務所殿	30,000
浅海電気産業株式会社殿	50,000
飯塚源吉殿（松江）	1,000
井上工材株式会社殿	20,000
石井建材有限会社殿	5,000
株式会社平田タイル本社殿	10,000
大和工業株式会社殿	5,000
和田木材工芸株式会社殿	1,000
株式会社平山木工所殿	1,000
上谷製作所殿	1,000
島村佐次郎殿（和歌山）	3,000
日本板硝子株式会社殿	50,000
村野・森建築事務所殿	30,000
日新工業株式会社大阪支店殿	50,000
藪中一良殿	300
岩本博行殿	1,000
渡　実幸殿（京都）	300
桑田硝子株式会社殿	5,000
高野アスファルト工業株式会社殿	3,000
近畿電気工事株式会社殿	80,000
荻野賀一殿	300
梅野三蔵殿（九州）	500
赤江久寿彦殿（九州）	1,000
中村収次郎殿（高松）	1,000
高島太郎殿	300
島田啓太郎殿（九州）	600
武田径一殿（今治）	1,000
株式会社建材社大阪支店殿	50,000
今林彦太郎殿（兵庫）	1,000
中西瀝青産業株式会社大阪営業所殿	2,000
株式会社久保商店殿	20,000
株式会社　明正社殿	2,000
東建商会殿	2,000
日建設計工務株式会社殿	50,000
岩崎甚太郎殿	1,000
株式会社大阪吉川商店殿	3,000
株式会社室谷商店殿	10,000
安田レール株式会社殿	5,000
丸尾建材株式会社殿	5,000
山東商会殿	3,000
栗本栄一殿	1,000
赤坂建材店殿	5,000
株式会社中央商会殿	5,000
岩元工業株式会社殿	5,000
小西　岬殿	300
光井福松殿	300
高岡建設株式会社殿	3,000
伊丹久吉殿	1,000
谷口尚武殿	1,000
中央電気工業株式会社殿	30,000
株式会社ヤマト電気商会殿	30,000
藤岡正一殿（中国）	3,000
合資会社佐村木商店殿	5,000
菅沢英夫殿（札幌）	300
合資会社奥村重兵衛商店殿	10,000
株式会社東京興業貿易商会大阪支店殿	3,000
工藤電気工業株式会社殿	50,000
藤坂捨治郎殿	1,000
池田達雄殿	1,000
近畿建設興業株式会社殿	10,000
東海電気土木株式会社殿	30,000
旭硝子株式会社大阪支店殿	30,000
株式会社大阪電気商会大阪暖房商会殿	80,000
大林芳郎殿	1,000
株式会社三晃商会殿	30,000
富永長治殿（東京）	300
大鉄工業株式会社殿	20,000
大島応用化学工業株式会社殿	15,000
飯田賢次殿	300
のこよし金物店殿	2,000
浅井美装加工所殿	1,000
株式会社ケントク殿	10,000
亀井株式会社殿	10,000
株式会社　大林組殿	100,000
株式会社竹中工務店殿	100,000
株式会社　鴻池組殿	60,000
株式会社　銭高組殿	60,000

株式会社　松村組殿	60,000
西松建設株式会社関西支店殿	40,000
株式会社　淺沼組殿	40,000
株式会社戸田組大阪支店殿	30,000
鉄道建設興業株式会社大阪支店殿	30,000
株式会社　奥村組殿	30,000
株式会社藤木工務店殿	30,000
大日本土木株式会社大阪支店殿	20,000
島藤建設株式会社大阪支店殿	20,000
佐藤工業株式会社大阪支店殿	10,000
株式会社新工務店殿	10,000
株式会社郷組大阪支店殿	10,000
株式会社　神崎組殿	10,000
株式会社　森本組殿	10,000
三井建設株式会社大阪支店殿	10,000
長建設株式会社大阪支店殿	10,000
株式会社　中島組殿	10,000
東　　政　二　殿（富山）	300
山　邑　励　二　殿	1,000
木　下　茂　平　殿（松山）	500
岡　田　孝　男　殿	1,000
寺　戸　常　三　郎　殿（東海）	300
渡　辺　啓　之　殿	300
株式会社井上浄夫商店殿	10,000
株式会社石田建材店殿	2,000
株式会社大和商会殿	2,000
株式会社金剛商会殿	2,000
米谷セメント化工株式会社殿	2,000
石川建築事務所殿	15,000
大阪コンベス建材社殿	1,000
岡　本　全　男　殿	1,000
立工産業株式会社殿	5,000
三　徳　鋳　工　所　殿	2,000
安　宅　順　一　殿	500
宮　地　米　三　殿（兵庫）	1,000
淡陶株式会社大阪支店殿	30,000
東洋リノリユーム株式会社殿	50,000
日　野　勝　好　殿	1,000
長谷川信太郎殿（兵庫）	500
滝　沢　真　弓　殿	1,000
西林石材工業株式会社殿	5,000
潮　田　銀　郎　殿（九州）	300
頴　屋　毅　一　殿	1,000
真　口　恒　夫　殿	1,000
宇部厚型スレート株式会社殿	10,000
大仏建材株式会社殿	2,000
不二建設株式会社殿	10,000
落　藤　藤　吉　殿（札幌）	1,000
宇　治　田　政　雄　殿（和歌山）	300
富　松　助　六　殿（　〃　）	600
貴　志　満　二　殿（　〃　）	1,000
瀬　村　禎　二　殿（　〃　）	1,000
布　袋　国　雄　殿（　〃　）	1,000
児　島　正　積　殿（　〃　）	1,000
栗　林　一　馬　殿（　〃　）	1,000
梶　野　正　春　殿（　〃　）	1,000
山　崎　庄　一　殿（　〃　）	1,000
島　田　正　己　殿（　〃　）	1,000
大　橋　武　雄　殿（　〃　）	1,000
薮　本　芳　一　殿（　〃　）	1,000
第一工業株式会社大阪支店殿	30,000
株式会社清水工業所殿	10,000
株式会社桐田商会殿	30,000
株式会社大阪城口研究所殿	10,000
加藤建設株式会社殿	3,000
山　口　伊　作　殿（京都）	300
井　上　善　博　殿（九州）	500
玉置産業株式会社殿	10,000
株式会社原田商店殿	10,000
株式会社谷本商店殿	2,000
宮　飼　克　二　殿（兵庫）	300
株式会社栄興商会殿	20,000
株式会社朝日工業社殿	30,000
株式会社西原衛生工業所大阪支店殿	30,000
本　館　三　次　郎　殿（和歌山）	300
吉　本　濤　渡　殿	300
荒　川　義　夫　殿（京都）	300
吉　田　信　武　殿（兵庫）	1,000
徳　永　正　三　殿	300
大　倉　三　郎　殿（京都）	500
吉　川　清　一　殿（東海）	1,000
星　　広　文　殿	1,000

以上6月20日現在

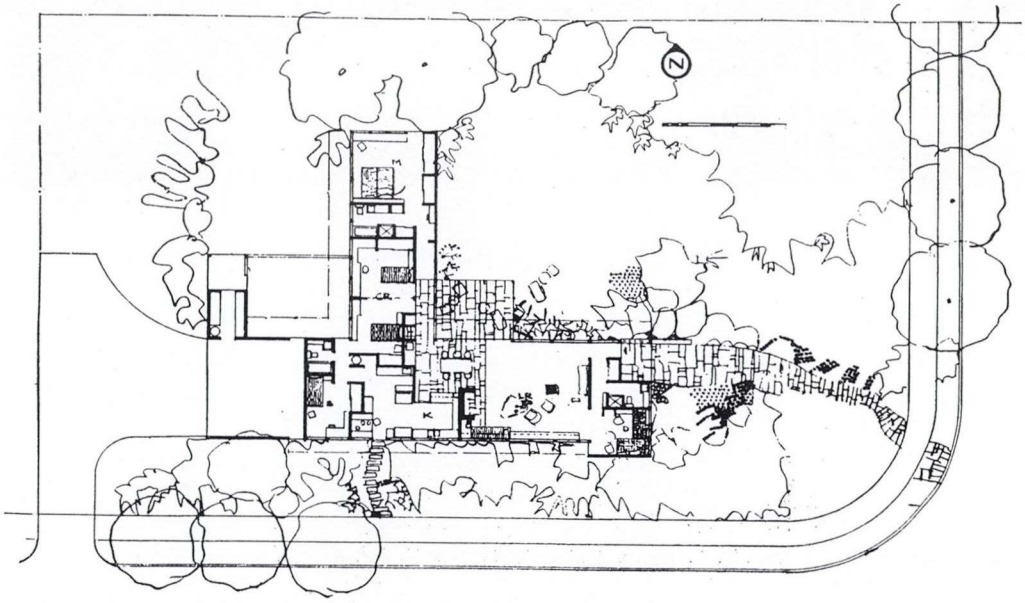


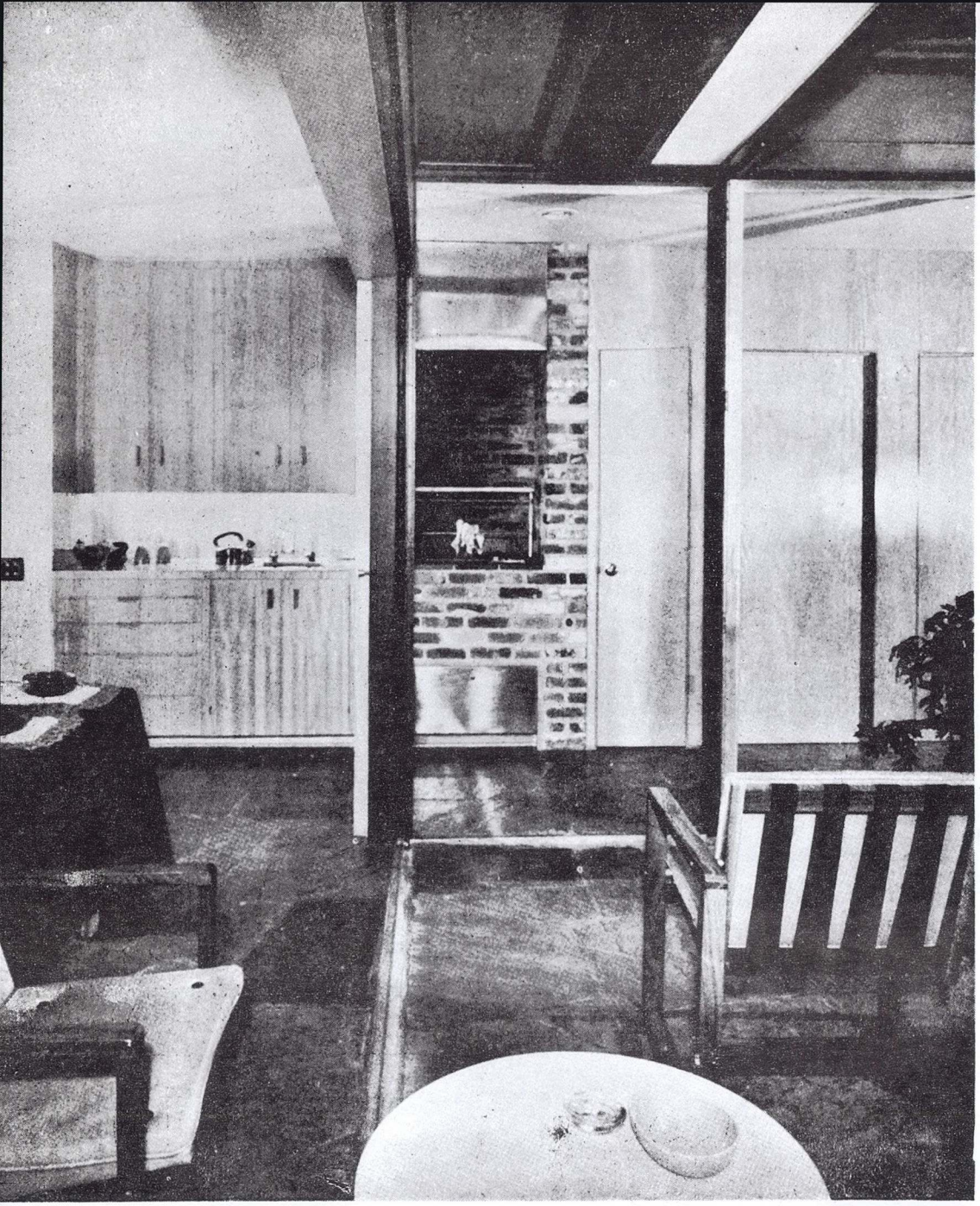
居　間

アール●ブロッド博士邸　カリフォルニア　設計リヒアルト●ノイトラ

RESIDENCE FOR DR. MR. & MRS. E. L. BROD, ARCADIA, CALIFORNIA　Richard J. Neutra, architect

(ARTS & ARCHITECTURE誌 MAY, 1952.)



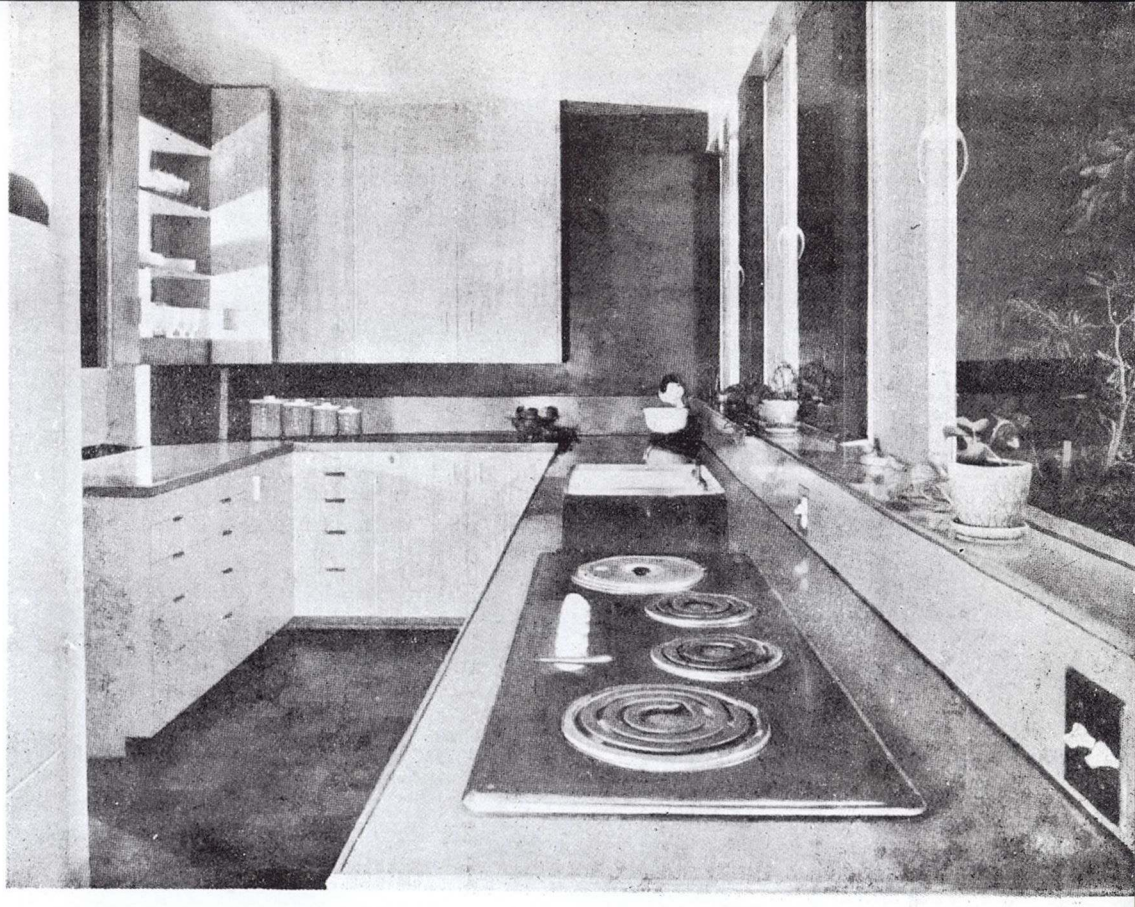


居　間

A-120

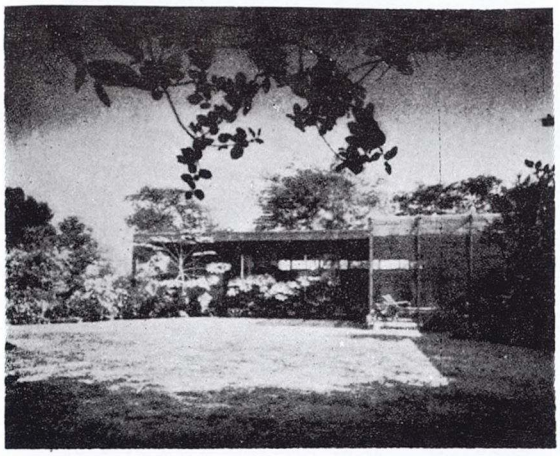
アール●ブロッド博士邸　カリフォルニア　設計リヒアルト・ノイトラ

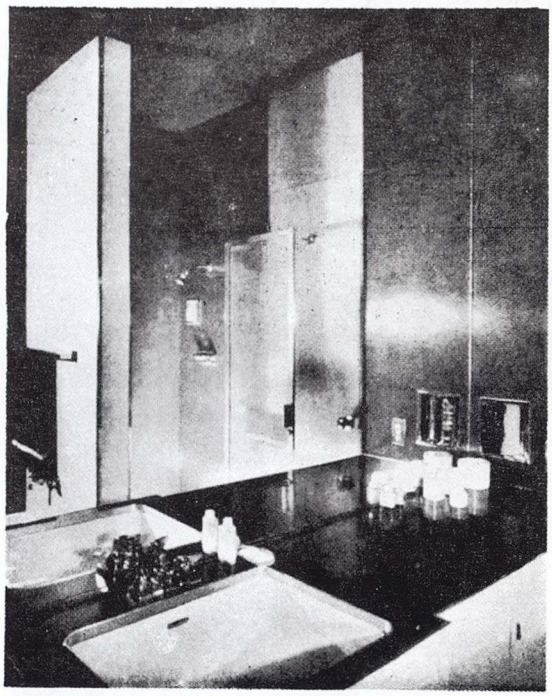
RESIDENCE FOR DR. MR. & MRS. E. L. BROD, ARCADIA, CALIFORNIA Richard J. Neutra, architect

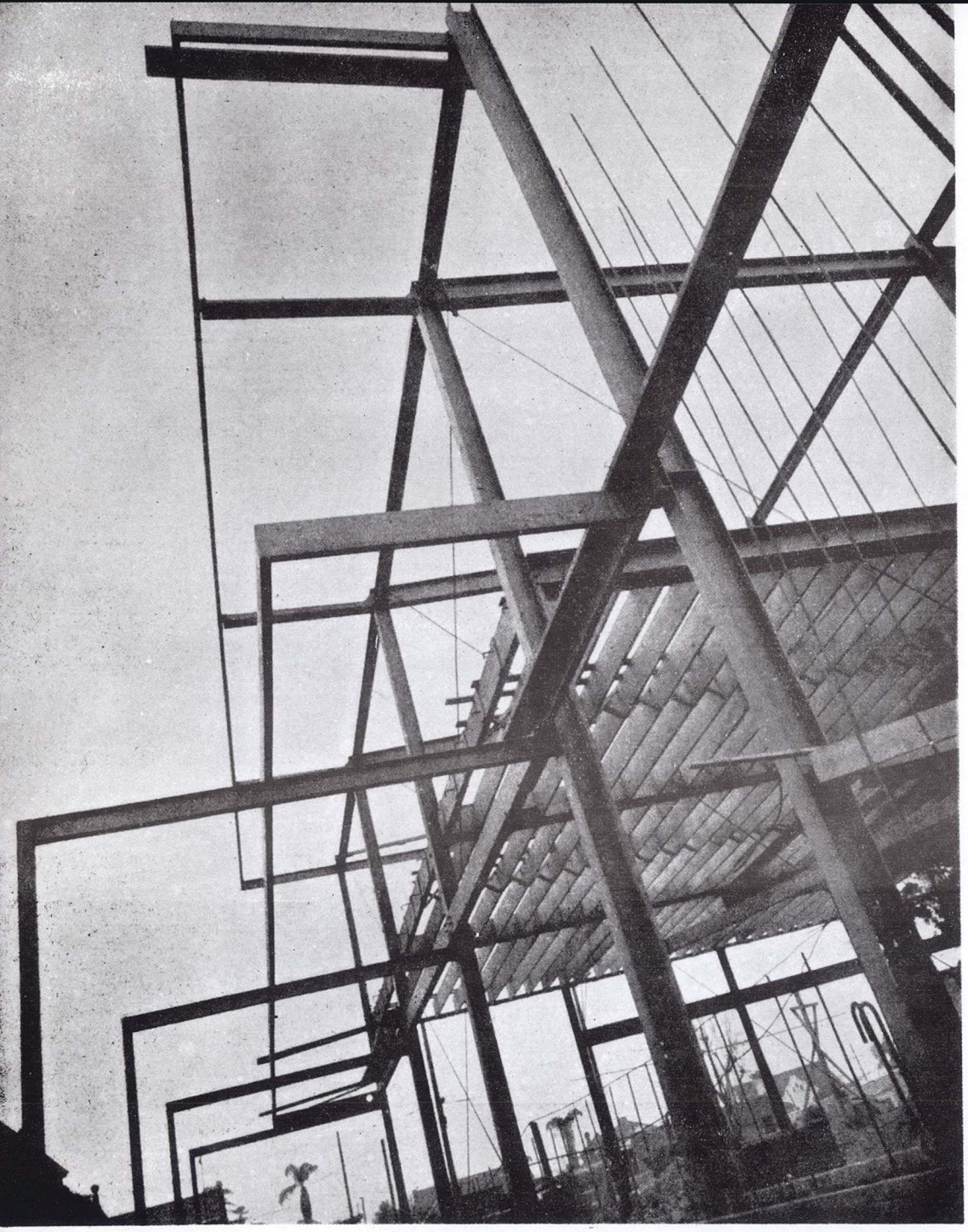


上・台所の内部。フオミカを被せたカウンターとその上に造りつけの電氣レンジがある。

下左・博士邸外景。下右・化粧室の一部。







工事中の狀況。

ノースウェスタン火災相互保險會社ビル ● 設計リヒアルト●ノイトラ

NORTHWESTERN MUTUAL FIRE ASSOCIATION BLDG., LOS ANGELES. CALIF. Richard. J. Neautra. Archi tect



上・ビルの2階を占めるアメリカ・クレヨン會社太平洋岸スタジオの應接室と展示室。
下・ビルの外觀で、白いプラスターの目除けの枠を際立たせた二つの姿。（尙お此建築の紹介は既に本誌の5月號に掲載濟で詳細は其れを參照されたい。）





沖繩工事の實情

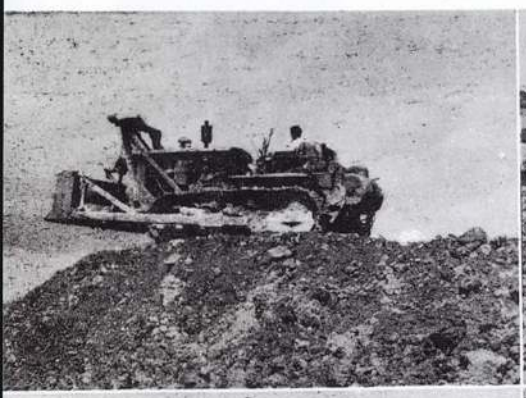
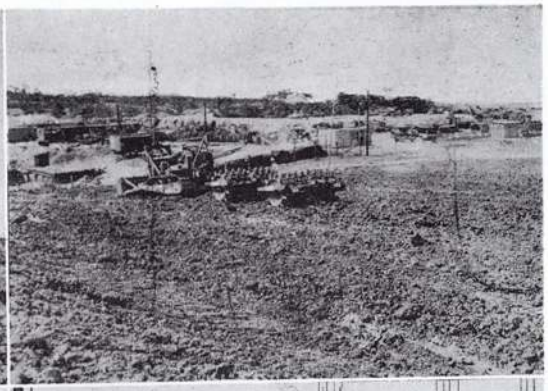
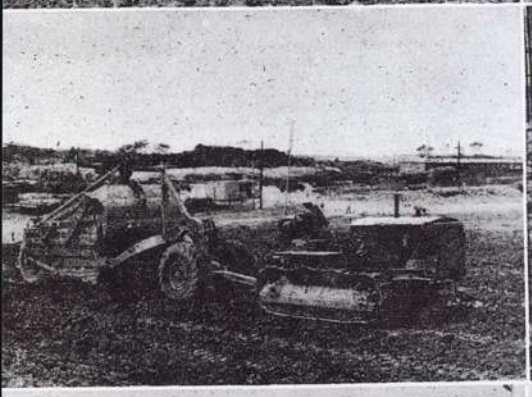
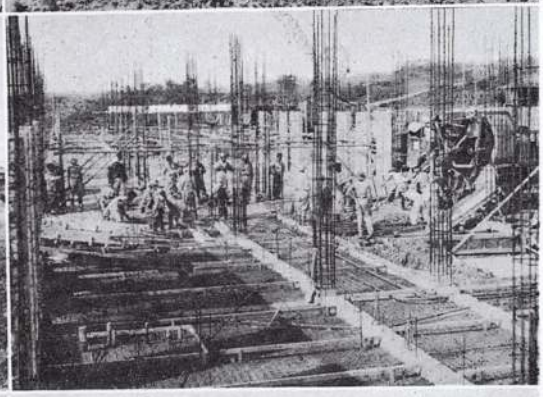
特に建築工事に就いて

吉田一彦
KAZUHIKO YOSHIDA

はしがき

現在、沖繩に於いて大規模に展開されている米軍建設工事は、我々の想像する築城と云つた概念で表現される軍事的基地の建設からは遠くかけ離れたもので、主として、道路工事、兵舎、家族宿舎及び夫等に附随する施設であり、快適なる「住」と云う線に沿つて進められて居る様である。

沖繩の風土に起因する特色としては、第一に台風対策である。具体的な例を挙げると次の通りである。所謂カマボコ兵舎其他の軽量建物にあつては、建物全体を地面にしばりつけると云つた恰好で梁間の方向にワイヤーを屋根の上から張つて建物を固定している。ワイヤーは約2間毎に張られ、その両端は土中のコンクリートに緊結されている。



寫眞說明

（上より）

左1・ブルドーザー。

〃2・キヤリオール。

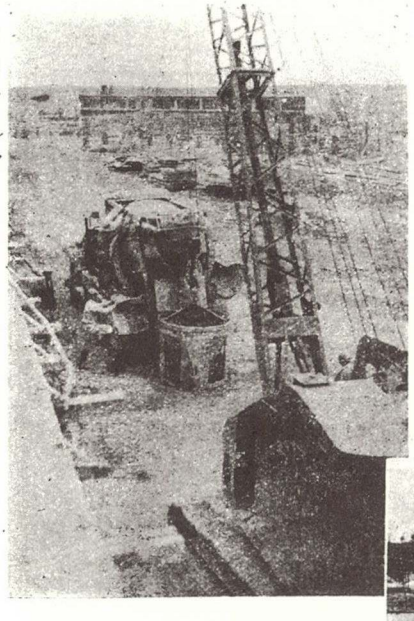
〃3・グレーダー。

右4・シープスフート・ローラー

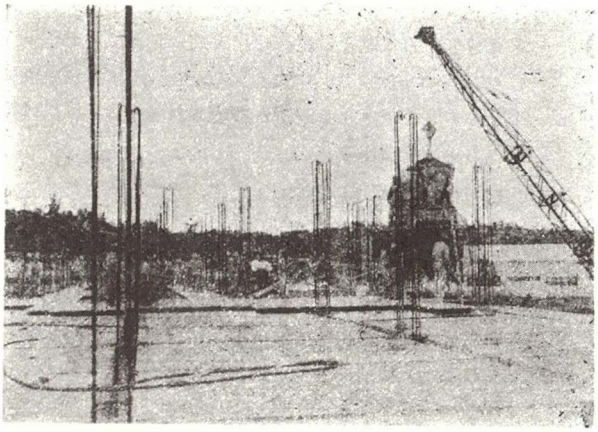
〃5・1階土間コンクリート打

〃6・1階土間コンクリート打

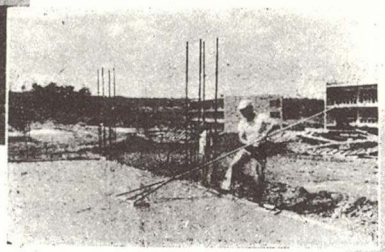
左7・ミキサーよりバケットに容れるコンクリート



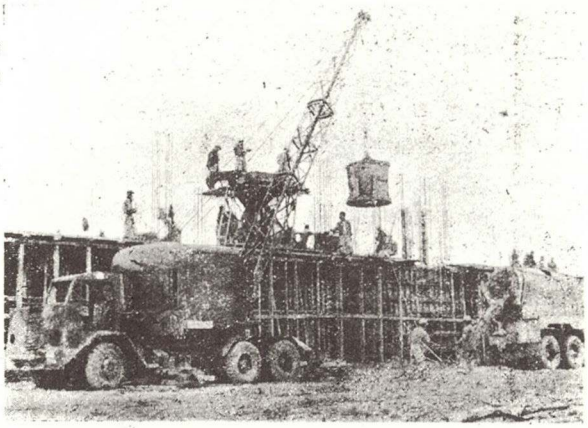
右9・梁下端迄のコンクリート打。



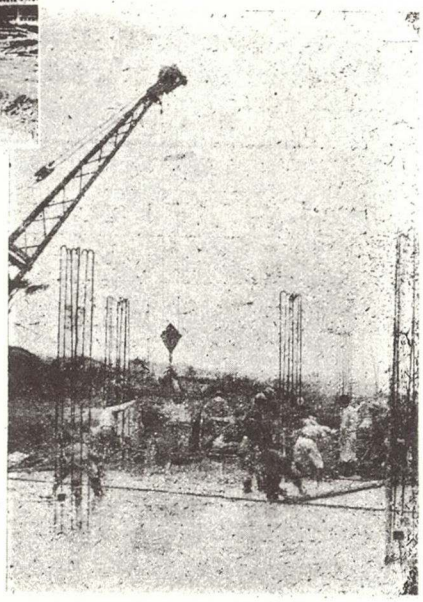
中11・ボウ・フロー
（定規摺の後で行われる。）



左8・梁下端迄のコンクリート打。



右10・梁及びスラブのコンクリート打



鉄筋コンクリート建の兵舎其他では台風時、風圧其他に依る窓硝子の破損を避ける為、ストームシヤッターが最近の設計では設けられている。

次に施工面に就いて考へる時、先ず頭に浮んで来る事は日米施工法の差異であるが、夫は結論的には物資の豊かで恵まれた国とそうでない国との差であると思われる。この考え方の裏付けをなす具体的事項の紹介が本稿の目的であるが、以下、その対象を主として兵舎建築に置き、施工順序に従つて重点的に述べたいと思う。

〔註〕1 1950年11月に襲つた季節外れの台風により、上述の手段を講じて置かなかつた私達の組立式現場事務所は無残にも我々の眼前で床から上は全部吹き飛ばされた。

§2 仮　　設

I 仮設建物 アメリカ人は個人の生活のみならず集団生活に於ても安全衛生の面を非常に重要視しているが、この考え方は勿論、現場事務所、宿舎、倉庫等に迄及ぼされている。例えば、宿舎は保健衛生に就いて厳重に監督され、殊に便所は全部水洗式にした上、その浄化設備に迄考慮が払われ、開口部は全部フライスクリーン等の防蠅設備を設けると云う具合で、又1週間に1回、軍よりD.D.T.が撒かれている。但し、以上の事項は軍用地に建てられる場合であつて、民有地にある宿舎等に関しては以上の点に就いて殆んど無関心の状態であるのは興味深い事実である。併し乍ら、沖縄の様な気候風土其の他悪条件の揃つた所に於いて集団生活を営むに当つて従来、仮設と云えば、兎角、不完全で不衛生なものしか造らなかつた我々に対して、以上のアメリカ人の仮設に

対する考え方は幾多の教訓を与えている様に思われる。

又、各工事に対して多数の車輛類が貸与される関係上、モータープールの設置が要求されるのは我国には見られない風景である。

II 水・電気 民間[註2]にあつては非常に不自由であるが軍関係業者の施設には無制限且つ無償にて支給されている。

[註] 2 最も発達している那覇市ですら、電気は12時迄で以後は消され、又水道は未だに市の一部にしか供給されて居らない状態で、一般民家では井戸が大切な財産の一つになつている。

§3 土 工 事

第一の特徴は重機械の使用である。申す迄もなく、今迄、我々が経験して来た人力に依る施工方法は、此方法に比較すれば、能率、工費等の点に於て問題とならない。今、我々に貸与された主要重機械に就いて、その歩掛を記すと大略次の通りである。

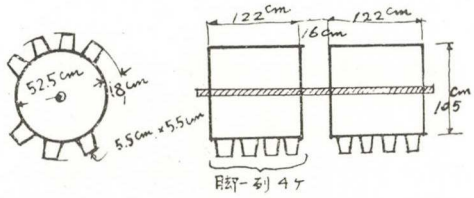
第 1 表

名 称	歩 掛	摘 要
ブルトーザー (D8)	220 cr/8時	
キヤリオール (12cr)	250	
バーク・ホー	120	
トレンチング・マシン	深6′ 巾2′ 120′	

写眞 (1) (2) (3) 参照の事

敷地造成の内で興味あるのは、高い盛土の上でも平気で鉄筋コンクリートの建物を建てる事で、勿論、此に対しては夫相当な技術的手段が慎重に講ぜられている。或る工事を例に挙げると、約20尺の盛土の上に建つ兵舎の敷地造成に当り、シープスフート・ローラー[註3]による充分なる展圧が要求され、同時に何回もの地耐力試験（ブルトーザーを使い、半日位で簡単に測定出来る。）が行われている。此工法は泥土の様な軟い地盤の場合にも応用されている。即ち、軟い泥土は全部、上の方法に準じて、良質の土と置き換えられている。又、岩盤の出ている土地の敷地造成も同様にして、ジヤック・ハンマー、ルーター、ブルトーザー等の組合せで非常に簡単に行われている。沖縄は起伏が多く、広い平坦地少い珊瑚礁の島である上に、眺めの良い台地に建築敷地がよく選ばれるので、以上の様な工事は始終行われているが、何れも短期間に、且つ能率よく行われている。此等は重機械を使用する土木工事の大なる特色であると思われる。

次に、外部給排水及び電気工事等の配管工事道路工事（砂利敷迄）等は建築工事に先立つて始めるのが普通で、我国の施工法とは逆である。此方法の方が仮設えの利用等を考え合す時、寧ろ合理的な様である。



[註] 3 シープスフート・ローラー 写眞 (4) 参照の事

重 量 水ナキ場合（胴1ケ） 約1000kg
水ヲ戻シタトキ（胴1ケ） 2000kg

脚ノ数 （胴1ケニ付キ）4ケ×22列＝88ケ

脚ノ支圧力

支圧面積（脚1ケニツキ）5.5cm×5.5cm＝30.25cm²
地盤ガ良ク固メラレタ場合ハ、胴1ケニ付キ4本ノ脚ニテ支ヘラレルトスルト。
（胴1ケニツキ）30.25cm²×4＝121cm²

支 圧 力（水ヲ充シタトキ）（水ナキトキ）

$\frac{2000kg}{121cm^2}=16.5kg/cm^2$ $\frac{1000kg}{121cm^2}=8.3kg/cm^2$

以上でわかる様に、脚の土中にめり込む深さを見る事によつて、地盤の地耐力を知ることが出来る。

同時に接面面積が極めて小なるため効果のある展圧を実施することが出来る。

次に、建物基礎に就いて述べるに、殆んど総て独立基礎で、5′×5′、6′×6′等の寸法通り正確に、且つ、垂直に基礎底面迄壹掘りし、然も、羊羹を切つた面の様にする事が要求される。但し、山の来易い土質、又は岩盤等で羊羹の様に掘り得ない土質等の場合には、少し広い目に掘つて仮枠を入れるのは我国の夫と同様であるが、栗石の上に捨コンクリートを打たないで、直接、基礎コンクリートを打つ点が異つている。此場合、土質によりコンクリートを打つ前に、基礎底面一杯に防水性のクラフト・ペーパーを敷く事になつている。理由は、砂質等ではコンクリートの水分が吸収され易いからである。

§4 主 体 工 事

柱、及び梁等は鉄筋コンクリートであるが、壁は防火壁及び耐震壁以外、外壁、厚8″、間仕切壁、厚4″[註4]のコンクリートブロック積である。そして、コンクリートとコンクリー・トブロックとの施工順序は後者を先にした方が「おさまり」が良い様であるが、2階以上の場合では、段取りの関係から、コンクリート打ちを先に行つている

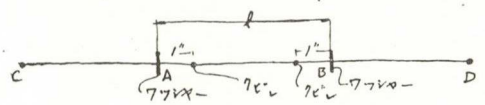
[註] 4 コンクリート・ブロックの標準寸法は7″5/8×7″5/8×15″5/8及び3″5/8×7″5/8×15″5/8でこの他、異型のものが若干ある。目地は縦、横共3/8″である。従つて目地真々の距離は4″ 8″ 16″となる。

I 仮枠工事 仮枠をコンクリートの強度、及び仕上げの両面より考えるのに、水セメント比を一定に保つこと、即ち、施工中に於いて仮枠よりの漏れを最小にする

こと、並びにコンクリートの打上面を良くするために何よりも仮枠は平滑にして隙間のない面を持たねばならない。以上の理由により、化粧コンクリート用仮枠としては、通常防水ベニヤが使用される。アメリカのベニヤ板の寸法は4′×8′×7/8″である。

沖縄に在つても日本製の厚いベニヤ板を使用した例があるが結果は悪い様である。原因は防水加工が不充分な為、雨其の他の湿気の影響によりベニヤ板自身が反つて了うと同時に、その力が強くて仮枠の構造をも破壊して了う点にある。次に、日本製ベニヤ板を使用して比較的好成績を挙げている例をを紹介する。即ち、パネルにより下地を作つた後、3′×6′×1/4″のベニヤ板を釘付けする方法で、之によるベニヤ板が薄い為、万一反りを生ずる様な状態になつても厚手のものより、その力が小さい関係から、反りは目立たずコンクリートの打上面も比較的良好である。而も経験から云つてベニヤ板も尿素製品よりフエノール製品が良く、且つ、材質も柾が最も良い様である。此方法によるベニヤ板の使用回数は2～3回である。

仮枠の締付金物としては、以下に挙げる理由により、FORM-TIE が一般に使用されている。①番線による締付けはコンクリート打ちの際に使用するバイブレーターの為に番線が延びて仮枠が膨れること。②仕様書には、コンクリートの表面から1″以内に鉄分が存在してはならないと規定されているが、FORM-TIE を使用する時には、大体此条件を満足する事が出来る。FORM-TIE は径1/4″にして、通常縦横共2以内に配列されているが、その締付要領を説明すれば次の通りである。即ち、下図によればワッシヤーは点AB及びBより外えは自由に移動し得るが内えは出来ない様になつている故、AB間の距離 l は一定で所要のコンクリート厚を与える様になつている。そして間AC及びBD間に、夫々、円から外に向つて板、桟バタ等の順序に組んだ上、更にC及びD点に於いて、TIE-HOLDERと称する鉄楔によつて締付けられるのである。



以上の説明によつて分る様に FORM-TIE 仮枠の締付と同時に SEPARATOR の役目をも兼ねている。

次に、コンクリート打ちの後、仮枠を除去すればFORM-TIE のAC及びBC間は外に現れ、同時にAB間はコンクリート中に埋つているが、露出部分を捩じ切る様にすれば、A及びB点より1″の距離にある「くびれた」点、即ち、コンクリート表面より1″の点で FORM-TIE は折れて前述の第2条件を満足する。

以上の FORM-TIE はアメリカの RICHMOND 会社の特許品で、我国でも他の商品と同様、夫々似たものが製作されているが、其の価値は現在の所未知数である。尚、独立柱の締付にも色々な方法があるが、我国で現在行つている両捻ボールトによる締付けも、あまり遜色はない様である。

II 鉄筋工事 鉄筋は異型鉄筋が使用される。鉄筋工事で特に注意しなければならない点は、柱筋の継手である。それは、基礎から2階又は屋上迄の様な長い鉄筋を建てると鉄筋足代もあり、基礎、地中梁及び1階上間等のコンクリート打ちが面倒になるので普通は1階床上迄の柱筋を建てている。2階以上の場合も之に準じている。

III コンクリート工事 知花[註]5に在るBUTCH-PLANT（コンクリート配給所）からミキサーで所要の現場迄コンクリートを運搬する方法は——此様にして運搬されるコンクリートは READY MIXED CONCRETE と呼ばれる——我国のコンクリート工事には見られない施工法を展開する。

[註] 5 知花砕石場（CHIBANA QUARY）現在迄の所、コンクリート其の他の建設材料は①此処で生産されるが、その種類並びに能力を挙げると次の通りである②

CONCRETE	600～800cy/DAY
CONCRETE BLOCK	6000個/24時
ASPHALT（道路用）	600～700TON/DAY
CONCRETE PIPE	（6″～36″各種）
其の他骨材	

写真 (5) (6) 参照の事

これを具体的方法に就いては後で述べるが、この方法によるコンクリート打ちの計画の中で最も重要なことはコンクリートを運搬するミキサーが現場内各所を自由に通り得る事で、従つて現場内の掃除は非常にやかましく監督され、掃除の不充分な時にはコンクリートを打たせて貰えない所か掃除が完全に行われる迄、全工事に亘つて中止を命ぜられる場合が度々起る。茲に云うミキサーとは自動車の上に所謂ミキサーを載せたものを指す。その容量は 4 1/2cy、3cy が普通である。そして BUTCH PLANT から現場迄は空練し乍ら運搬し、現場到着後、水タンクから所要の水を加えて練つている。写真(6)参照の事

コンクリートのスランプは建物では3～6であるが、バイブレーター（その振動数は毎分5000）を使用する関係上、普通は3～4である。以上の説明で分る通り、アメリカでは最近コンクリートの強度を大にする為、強度を左右する水セメント比を低くし、即ち、水による空隙率を少くする事によつて密度の大なるコンクリートを得る為に、施工可能の範囲内で出来得る限り水量を減らした堅練のコンクリートを振動詰している。

以上の通りであるが、骨材の割合は粗粒度によつて毎日変えて居る様である。現場調合の場合は含水量を考慮し

コンクリートの配合乾燥状態

第2表 〔註〕6

coノ種類	A	B	C
水	5.21cy	4.67cy	4.11cy
セメント	2.67〃	2.43〃	2.19〃
骨材	19.12〃	19.90〃	20.70〃
計	27 〃	27 〃	27 〃
水セメント比	0.62	0.62	0.62

て決定している。次に最近の現場調合比の例を挙げる。

第3表

	セメント	砂	砂利	水
class A	536lb	1757lb	1398lb	23gal.
〃 B	489〃	1828〃	1457〃	20〃
〃 B	489〃	1854〃	1509〃	18〃
〃 C	443〃	1904〃	1517〃	18〃

〔註〕6 コンクリートのクラスはA.B.Cに大体分けられているが CLASS Aはマンホール、機械基礎等。CLASS Bは特殊なものを除いたすべての鉄筋コンクリート用、CLASS Cは無筋コンクリート用である。

尙、第3表を見て奇異の感じを受けるのは砂利よりも砂の量の方が多い事であるが、之は砂の中に、砂利と名付けても差支えないものが混在しているからである。

写眞(7)参照の事

コンクリート打に就いて具体的に述べると次の様である。即ち、基礎、地中梁、及び1階上間はミキサーより直接にコンクリートを打つている。従つて前にも少し述べた様に、建物敷地内にミキサーを入れる必要があるので鉄筋足代其の他の仮設には我国とは違つた計画をしなければならない。2階以上のコンクリート打は2段に分けて打つて居る。写眞(8)参照の事即ち、第1回は柱及び壁を梁下端迄打つ。方法は、ミキサーより移動式のグレーンに取付けられたバケット(容量は約1cy)を仲介として、スラブの仮枠上に設けられたホツパーに、一旦コンクリートを容れ、続いてカード車によつて所要の柱或いは壁に流し込む。但し、床上5の高さ迄は、上から自由に流込む事は許されないので、漏斗及びシュートを作つて此目的に合わせている。

此際、梁及びスラブの配筋其の他は行わない。写眞(9)参照の事最初のコンクリート打の次に、上記の配筋其の他を行つた後、続いて、第2回目の梁及びスラブのコンクリート打を行うが、今度は、バケツトより直接、仮枠上にコンクリートを流す。又、コンクリートの水平打継ぎは、スパンの中央が原則であるが、小梁のある場合には、小梁の側より、小梁の巾の2倍の距離の点にとつている。以上が2階以上の場合のコンクリート打の方法であるが、之を2回に分けて施工する理由は、配筋を全部行うと、梁より下へ堅練のコンクリートを流すのは非常に困難である上に、バイブレーター、漏斗及びシュートが入らない為である。写眞(10)参照の事

コンクリート打の能率は、ミキサーより出されたコンクリートが、仮枠に打ち込まれる迄の時間によるが、2階以上の場合は平均10～15分である。次に以上の方法による階毎のコンクリート工事(仮枠及び鉄筋工事を含めた広義の意味)の速度の標準は経験から云つて、約40日/階である。此速度は我国の夫に比べて、極めて遅いが、現在の所、コンクリートの配給手続、配給遅延及び其他の関係から、之は延びるとも短縮し得ない状態である。

次に、コンクリート工事中、興味ある床コンクリート打に就いて述べる。即ち、後でタイル其他の仕上を行わないコンクリート床は原則としてコンクリート打の時に仕上げて了う。理由は、我国で現在行つて居る様に後から土間のモルタル塗を行うと、下地のコンクリートとモルタルとが肌離れし易いと云う考え方に基いて居る。ミキサー又はバケツトより流さたコンクリートを先づ刃口其他の器具で床の所要高さに迄、大体均らした後、コンクリート表面を叩いて粗資材を沈め、そしてコンクリート表面がモルタルに似た配合になつて仕上し易い状態になれば定規摺を行い、続いて木鏝押え又はボウ・フロー等を行つて、表面の小斑を取ると同時に水分を上部に浮び上らせてコンクリートの急速なる硬化を防ぎ、次に金鏝にて仕上げを行つて居る。写眞(11)参照の事コンクリートを打ち始めてから仕上完成え迄に要する時間は3時間内外である。運悪く、床仕上中に於て雨が降る様な場合には、止むを得ず、コンクリートを約1″低く打ち、雨が止み次第、早急に、モルタル塗を行つて仕上げて居る。屋上の防水下地のスラブは木鏝押えて終つて居る。以上の様にして仕上げられた床は他の仕上工事が全部終了した後、グラインダーで研かれる。続いてハードナー(亜鉛又はマグネシウム化合物2Lbsを水1gal.に溶かしたもの)を2回塗布すれば、コンクリートの表面は急速に硬化すると同時にコンクリート中にある少さな塵は析出する。最後に床はワックスにて磨かれる。

床に関聯ある階段はコンクリート打の後、約45分以内に厚$^3/_4$″のモルタルにて仕上げる様(踏面は木鏝、蹴上及踊場は金鏝押へで段鼻には、カーボランダムの段鼻タイルがつく。)になつて居るが、実際には非常に施工が困難な為、我国の夫と同様、主体工事完了後1″の塗厚にて施工する事が特に許可されて居る。

§5 仕上工事

I 外部 外壁はコンクリート、又はコンクトート・ブロツクの上に圧搾空気によるモルタル(シツヨト・クリートと呼ばれる)の吹付けを行い、その上に、セメント・ウオーター・ペイントを2回吹付けて仕上げている。シヨツト・クリートは普通$^1/_2$″厚で、モルタルの配合は容積比にして1:4$^1/_2$である。此際、砂の含水量は5%以下と示されているが、その判断は実際には、手で握つて見当をつけている。若し、水分が多い時には、後で述る様にホースが詰つて施工不可能となる。従つて雨の多

い沖縄ではショット・クリート用の砂の乾燥に就いては特に考慮する必要がある。

次にショット・クリートの施工法に就いて述べる。即ち、セメント・ガンに以上の配合の乾燥混合材を入れると同時にコムプレッサーより圧搾空気を導入して夫を加圧（30～30lb/in²）する。ガンの中で加圧された材料はホースを通つて、その尖端のノズルに達し、此処で水を加えられる（此時の圧力は15lb/in²）と同時に噴射されてショット・クリートになる。此際、噴射圧を一定にする事、壁面に直角に吹付ける事、及び、ノズルと壁面との距離を約3呎に保つ必要がある。又、噴射される材料の流れが一様でない為に強圧点、砂の斑点、過水点等を生じる場合が屢々あるが、其時にはノズルを他の方向に向けて調整する。

ショット・クリートを吹付けたまゝの壁面は不陸があり、又不必要な「跳ねるり」で覆われているが、定規摺によつて之を解決し、最後に定規摺の痕跡を消す程度に軽く吹付けて仕上げている。この工事を行つて痛切に感ずる事は、①凹凸の少い、大きな面積の壁面其他の仕上げには能率も良く、好都合であるが、隅角部の多い建築物の壁面仕上げには施工困難である。②非常に汚れの多い工事で、開口部の養生も簡単に出来ない上、絶えず「跳ねるり」其他で清掃しなければならず、又附近一帯はモルタルが飛散して被服を痛め易い等々、甚だ厄介な工事である。

II 内部 化粧コンクリート用の仮枠には防水ベニヤを使用しているが、コンクリートの打上面に残る仮枠の継ぎ目は、コンクリートが充分乾かない内にグラインダー掛けにより除去され、又 FORM-TIE の穴の様な凹部は1:2のモルタルにて穴埋した後、前者同様の手段により、スムースな面を作つて居る。

左官仕上げは主として、セメント・プラスターの3回塗で、壁、巾木等の凸出部はコーナー・ビード（又はブルノーズ）、ベース・スクリードと称する角金物で保護している。又、窓及び出入口に於ては、上及び横の三方向に、夫々、コーナー・ビード（又はブルノーズ）取付けている。プラスターの配合は、容積比でセメント、1、砂、3、消石灰、1/4である。そして外壁、コンクリート・ブロックの場合にはその内面はアスファルトのを2回塗布して防水した後、ブロックの目地より出した番線により、リブラスを止めて、プラスター下地を作つている。次に、我国に於ては想像も出来ない。コンクリート下地のプラスターの亀裂に就いて一言するが、これは現在沖縄に在る全業者の共通の問題にして而も極めて重要なものである。即ち、プラスター工事の事前準備、施工方法、及び養生等に就いて、如何に細心な注意を払つても、下地がコンクリートの部分は仕上げ完成後、3～4週間にして壁面に大きな亀裂を生ずると共に全面に亘り無数の小亀裂が見られる。（下地、ラス又はコンクリートブロックの場合には、小亀裂のみ起る）而も大きな亀裂の附近は例外なく下地のコンクリートとプラスターとの間に完全に剥離れが起つて居る。又、面白い事には3回に分けて塗られたプラスターの各層は完全に判別しうることで、而も、其等の間でも脱離れを起し易い。

これらは使用する骨材に大いに原因があるものと思われるが、若し、此推定が正しいものとすれば、全島珊瑚礁より成つている沖縄では重大な問題である。事実、我国の骨材に比し、その化学的組成に於て非常に劣つている[註] 7

[註] 7 現在、実験中で結論は未だ纏つて居ないが、骨材の悪いこと丈は断言出来る。

プラスター工事に関聯して面白いのは、木製出入口枠及び新縁等の大工工事は原則として左官工事の終了前に着手しない事である。

塗装工事は、化粧コンクリートの場合には、面の修繕後、プラスター面は充分壁が乾いてから行うのであるが、油性ペイントの3回塗となつて居る。但し、最初に塗るPRIMER SEALER PAINT に相当するペイントは我国にては、最近になつて、やつと生産された様であるが、今迄は、一般には「サイズ」、又は耐アルカリの下塗用ペイントを使用して居る結果は「サイズ」の方が良い。之等の塗装に先立ち、コンクリート面に就いてアルカリ性分の有無を調べ、若し有れば硫酸亜鉛の溶液にて中和させて居る。そして、其のテストにはリトマス試験紙が使われている。

§6 むすび

以上簡単乍ら、沖縄に於ける建築工事の内、興味ある事項を拾い上げて紹介すると同時に之に従事して来た一員としての感想を併せ記した積りであるが、工事の内容は各地区の監督事務所の方針に基いて、又、同一地区内でも監督官の個人差により、作業場毎に若干相違している事を御断りして置く。（筆者 株式会社松村組技師）


建物クリーニングの店
創業30年 古い歴史と新しい技術
ビルデイングのクリーニング工事
古い住宅が新築同様になる美素工事
新築住宅にお手入れのいらぬ美素工事
請負
株式会社 美素工業所
大阪市東区瓦町（堺筋）三和ビル三階 電話北浜㊀5888番
カタログ贈呈


沖繩の電氣工事に就て

栗原信虎
NOBUTORA KURIHARA

沖繩は米軍の進駐以来一面の焼野原に軍民共バラック建に住まつて居り送配電線、屋内配線も仮設的のもので何れも軍直接指揮の下に現地電気業者が施行しましたもので日本の業者が来島しましてから初めて本格的工事を初めここ一年にて幾分本建築に移りつつあります状態で御座いました。次に順を追つて電気状況を申し上げます。

1. 現地住民の間に於ける電燈電力事業

(1) 一般電燈は夜間のみにて各市町村に各所に小容量のガソリン又はデイーゼルエンジン直結の発電機を据付けて配電して居ります。

(2) 動力は各事業場で自家用発電機を使用して居ります。

(3) (イ) 上記電燈、動力源は軍払下のデイーゼル又はガソリン直結発電機で、大体大型で25kw 程度で局地的に据付け発電して居ります。

(ロ) 規模の大きい町は之れを2～3台据付け単独運転して居ります地区組合協同体型式で経営されて居ります。

(ハ) 送電時間は夜間日没前より大体に於て12時 (早い所で11時、遅い所で午前2時) 迄となつて居ります。

(ニ) 配電線材料及電力源少い関係上、町村部落はずれの区域は小さい自動車エンジンでキヤンデー屋のコンプレツサーに自動車用 6—12V 発電機をベルト掛運転し豆電球で凌いで居る所もあります。

(ホ) 配電線は未だ完全なる配電線はなく何れも米軍の組立式鉄管 (楕円型) 電柱の払下を受け之を施設するか又は丸太棒程度で末端場所に於ては茶合碍子等は全然使用せずクルクルと電柱に捲きつけた程度で配線して居ります。

(ヘ) 上記配電線は目下統一的配電網にする様計画され発電所電源と共に着々整備されつつあります。

(ト) 電燈の供給契約は大体一燈当り契約で75円 (日本円225円) —85円 (日本円255円) 程でワット数の契約はありません。大体使用目的により燈数、容量を割当てて居ります。従つて盗電盗用が多く電力源の小さいのに加え配電線の太さも小さいため電圧は特に降下し正規電圧 115V (110—117V) が確保出来ず最低50V—60V程度で、高いので80V位が需要家電圧となつて居ります。故に市販で75V用の電球が盛んに売られて愛用されて居ります。

(チ) 屋内配線も屋外と同様仮設的で最近の本建築の建物を除いて、かなり上等の建物でも、天井裏をキヤプタイヤーゴム線又は4種線にて引廻して居る程度であります。

2. 米軍が現在施設せる電源送電線、配電線工事。

沖繩は御承知の様に南北に長く延びた島で特に中部以南に米軍施設多く各軍管区及部隊関係低圧は 120V3相4線式 (動力208V) 管区内配電線は 2,400V3相4線式 (線間4,160V、カデナ航空隊では部13,800V を並用して居ります) となつて居ります。住宅は大体単相三線式を引込んで居ります。

(1) 上記高圧配電線は目下綜合発電設備と共に13,800V配電線に切替えられつつあります。之の工事も吾々業者の手に依つて施行されつつあります。

(2) 軍施設及住宅、公共建物関係の配電線及送電線は各管区地域内は目下計画の工事に於て架線工事はケーブル工事に計画され着々施行中であります。

(3) 変電塔、小容量屋外変電室を各所に設けて居ります。

3. 同上の将来計画

(1) 沖繩では水力電源は東部地方で目下計画中のものがある様子でありますが望み薄のものと存じます。沖繩中南部の綜合電源として目下沖繩島5分の1南部に位した海岸線の牧港 (マキナト) に東京芝浦電気の施工 (建物は清水組下請) で出力11,500KW タービン発電機 (火力燃料は重油の噴霧を採用) 4台、合計 46,000KW 設備の鉄骨鉄筋の発電所を建設中であります。着工は昭和26年春で本年6月頃竣工の予定となつて居りますが秋か来年になると考えます。尚この発電所完成と共に軍施設に供給すると同時に一般民需向けとして余裕電力 (5—6,000KWの予定) を送る事になつて居ります。

送電線は 66,000V で鉄塔で1回線那覇南部より石川附近 (沖繩の3分の1南に位する所) 迄延長、日立工事にて殆ど工事完了して居ります。以下各管区にて14.000V に逓降 (現在変電所工事を施工中) し主としてケーブルにて配電致して居ります。

(2) 上記民需向け電力供給を機として目下受配電会社が沖繩に生れ沖繩島政府管理の下に送電設備も徐々に完備されて行くものと考えます。

(3) 今迄は電気施設に見るべきものがありませんでしたので痛痒を感じて居りませんでしたが、着々と軍

施設完備して参りましたので沖縄現地人の有力者の間で電気技術者を養成したい気運持ち上り最近仮称電気学園を設立する所迄となりました。

沖縄の建設工事主力施工範囲は3分の1以南が殆んどで下記の通りであります。

1. ナハ地区（ナハ空港地区）
   兵舎、公共建物、計画中、一部施工中
2. マチナト地区(日本設備及銭高組にて工事中の場所)（ナハ市のすぐ北部）
   住宅、兵舎、一部施工中
3. ズキラン地区（松村及清水組にて施工中の場所）
   住宅、兵舎、病院、殆んど計画すみ、施工中
4. カデナ地区（航空隊主力地区）
   兵舎、住宅、公共建物、軍施設、殆んど計画すみ、施工中
5. チネン地区（マチナトと反対の東部側）
   兵舎、住宅、公共建物、目下計画、一部契約中
6. 将校住宅、兵舎等に於ける内地と異なる施設
7. 目下当社の受注せる浅沼組の各種施設に於て内地と異なる部分下記２項目は別々にし難いので一緒に致します。

   一般に米軍の電気施設は各使用する器具が電化されて居る関係上担当量の電力を必要とすると同時に従つて電気設備も日本の施設とは異なり充分と言えます。

   又これらの設備取扱は構度に自助化されて居ります。この点から言つても工事量が多くなります。

   内地なれば建築費に対し電気設備費は約10%以内で收まりますが米軍施設では25～40%のものあり、住宅では15～20%位を必要として居ります。

   例 1. 住宅の場合
   (1) 各室自動調節の冷暖房設備があります。
   (2) 各住宅一軒毎に電設設備があります。
   (3) 電気レンヂ（9KW）及冷蔵庫を設備してあります。
   (4) 湿気を除く為各室、各ロツカー等に乾燥用クローゼツトヒーターを設けてあります。
   (5) 炊事室換気用エキゾーストフアンの設備。

   例 2. 兵舎の場合
   (1) 照明は殆んど螢光燈ルーバー器具を使用して居ります。
   (2) 食堂にはユニツトヒーターを設備してあります。
   (3) 火災警報装置、各建物の各所に設備されて居り、拡声装置を設備してあります。

   例 3. 其の他の場合
   (1) 小工場及修理工場では標準化された配線ダクト（ウエスチングハウス社製ブスダクト）等を使用し、安全且整頓された工事方式を取入れて居ります。
   (2) 各回路の保護は全部ノーヒユーズサーキツトブレーカー又はサーモタツトマグネツトトリツプ方式を採用しヒユーズは一切使用して居りません。動作確実で分電盤が「コンパクト」に体裁よく出来るが価額の高いのが難点であります。
   (3) 街路燈照明関係はシリースサーキツトシステムを採用し之れが電源はレギユレーターヒルを設けコンスタントカーレントトラスにより供給し日没、日出を時計式自動点滅操作する方式であります。1ループ回路当り100～120燈（150W）を持たせて13,800V トランスにて供給して居り、同ビルは20KW、2台設備して2回路を標準として居ります。此の回路に使用するケーブルは単心のバークウエーケブルを直埋するのであります。
   (4) 特別高圧配電線は地区によりケーブル式を採用し、内径4吋のヒユーム管（米軍ではソプストンと称する鉄筋の入らぬコンクリートパイプを使用して居ります）を布設しコンクリートにて捲き100～200米毎にマンホールを設置して居ります。ケーブルは配電線は50平方粍3芯被鉛紙ケーブルを標準とし変電所間の連絡用に60平方粍3芯を使用して居ります。

8. 変圧器其他の規格として内地と異なるもの。
   (1) 変圧器は無負荷及全負荷の損失を重要視して居ります。
   (2) 米国では現在電線の接続に半田接続方式を採用して居りませんで殆んど端子接続やワイヤーの接続にはソルダレスターミナル又はワイヤージヨイントクランプを使用し、沖縄もこの方式を採用する様厳命されて居ります。
   (3) 接地は銅被覆鋼棒（長さ6～10呎、直径4分の3吋又は1吋）を打込むこととなつて居ります。

   規定の接地抵抗が出ない場合は（沖縄は珊瑚礁の関係上好い接地抵抗が出ません）2吋半以上の水道管に補助接地する事を認めてあります。
   (4) パイプ及アウトレツトボツクスの接地（ボンド取

(14頁下段へ続く)

最高水準品・品質優秀
A 角一ゴムタイル 特種ゴム床材
角一ビニールタイル
（角一ゴムタイル総代理店）
株式会社 コマツ商会
大阪市北区梅ヶ枝町98・宇治電ビル前
電話堀川㉟1247番

沖縄の衛生設備工事

斎藤光夫
MITSUO SAITŌ

私共の関係致しております沖縄工事と申しますのは

カデナ空軍基地　184人兵舎　13棟
マチナト地区家族住宅（40坪）　200棟

の2件でありまして目下前者は約70%後者は約90%の進捗率を示しております。今年は更に

オロク地区　184人兵舎　5棟
〃　1000人食堂　1棟
〃　独身将校宿舎　7棟
カデナ地区病院その他　3棟

等を引続いて施工することになつております。

私共の工事を通じまして持に感じました事を次に二、三申述たいと思います。

まず第一は“如何にすれば完全な工事が出来るか”と言う事が考え方の総てであると言えるのでありまして、資材とか労力の点から見まして日本的な考え方からすれば、当然こうすれば安くつくと考えられる様な所でもそれが少しでもよい結果をもたらすものであるなれば、費用の点は第二義的に考えて、よりよい仕事が出来上る様な設計になつているのであります。この点持てる国の仕事は大変結構だとの感を深く致しました次第であります

例えて申しますと先程申上ました200棟の住宅の屋外の配管施設を私の方で施工致しました時の事でありますが、浜寺の住宅地の3～4倍もあろうかと言う地域に大は口径36吋のコンクリート管から小は給水の1吋の引込管に至るまで、給水、汚水排水、雨排水等約7万呎の管を埋設したのでありますが、元の地盤には非常な高低がありまして、可能な範囲迄に節約すればそれ程深い所に管を布設する必要のなさそうに考えられる場合でも遠慮会釈なく深く堀方をして、最良の勾配を持たせる様な計画になつているのであります。従つて最初は余り深い堀方などがありますと一寸不安な様でありましたが、計画が当を得ておりますので図面通りに真面目にさえ仕事をやれば、設備の全体の出来上りに対してはいささかの不安ももつ必要はなかつたのであります。

屋外配管には序列と申しますか一つの約束がありまして、一番深い所に汚水管。その上に雨水排水。水道管。電気のケーブル。と言う順序で埋設して行きます。その外相互の管の交叉に対しては12吋程度のクリアランスを取つてある。従つて施工者は図面さえよく読んでやれば管の交叉に対する逃げ等は考える必要は先ずない。こうすることによつて若し水道管が漏水しても其の漏水部分から汚水が浸入すると言う事は先ず無い訳であります。然しながら先程も申しました通り全地域にわたつて相当尨大な土量を動かさねばならない事になります。勿論そのためのブルドーザー、バフホー等の重機械は貸与されるわけですが仲々の大仕事であります。日本でも早くこんな仕事がしてみたいとつくづく感じた事でありました

第2は“設備工事の設計が行き届いている”と言う事であります。日本でも最近は指導課の方にも設備係などが出来まして、建築の確認の場合は設備工事の設計図を同時に要求されている様でありますが、昔ですと建築の設計が完了して既に着工する様な時分になつてあわてて設備の設計を開始する。ボイラー室が小さい、ポンプを置く所がない、竪管を通すシヤフトがない、ダクトスペー＊

（13頁より続く）

り）は不要と認められて居りますが電気的に充分なる様要望されて居りますので、送りカップリング使用は認められずユニオンカップリング使用を厳達されて居ります。

(5) 直埋ケーブルは一般にゴム覆被のオコナイトケーブルを採用して居り内地にても住友電線にて、心線間及大地に対する主絶縁は天然ゴムで絶縁し此の外周を「クロロ」系人造ゴムで外覆したネオプレンケーブルを最近製作し初めました。

(6) 特別高圧ケーブルは今まで単芯のシールド入りケーブルを使用していましたが、最近3芯被鉛紙ケーブルを採用する傾向になりました。

(7) 工事方法等では特に変つた処はありませんが使用する器具、材料の仕様が面倒で見た事のないものが多く、それを充分に呑込むのに苦労する次第です。

電気資材と其の運搬

電気資材の現地調達は殆んど不可能で総て内地より送達せなければなりません。以前は軍より特別の計いを受けて調達したこともありますが段々難しくなつて恐らく最近では絶体的に不可能と考えられます。

従つて輸送中の逸散、破損等に依る補充、特に急を要する様な場合には少からず頭を痛めて居り、従つて相当量の余裕量を用意せなければならない。

又其の製品には格別な検査をしないと折角送り届けたものが間に合わない。内地であれば直ぐにでも取替代品も可能ですが現地ではそれが出来ませんので万が一其の様なものが送り届けられた場合には現地の工事人達が色々の工夫をして間に合わして居ります。

（筆者　栗原工業株式会社社長）

*スがない等と大さわぎをした時代が永年あつた訳であります。最も当時は我々のやる工事を専ら附帯工事或は我々の事を附帯設備屋等と呼ばれて仲々一人前に扱つてもらえなかつたのであります。此頃やつと附帯と言う言葉がだんだんとれて設備工事などと呼んで頂いている様でありますが、つまり附帯設備と言つて建築の方で要求する如何なる詳細にも順応して仕事をさせられて来たのでありますが、此点沖縄工事に於ては工事決定の当初から建築のディテールが決つていると同様に設備工事のディテールも至れり尽せりの図面が出来ておりまして、明確に指示されておりますので仕事が非常にやり易く少しも手戻り等がないのであります。内地の様に建築がどんどん進んで来るのに便所洗面所はタイルの目地割がまだきまらないから配管が出来ないと云う様な事は絶体にありません。

我々は俗に鉛管屋或は鉛工仕事と呼ばれている程過去に於ては鉛管を多量に使用して所謂曲げものをやつて如何なる形、如何なる場所にもその場その場で自由自在な配管をして来たのでありますが、最近のアメリカ本国でもそうである如く沖縄では鉛管は少しも使用しておりません。従つて日本の様にその場その場で詳細が変つて行く様な事では我々の配管は収拾がつかなくなる訳でありますが、一定の配管詳細のフォームが決つておりますから、その通り配管すればそのままおさまりまして日本的な心配は少しもないのであります。住宅の場合を例にとりますとスラブは一枚のベタコンクリートであります関係上整地が終つて填圧をかけ地盤の検査が済むと、給排水に必要な根伐をしてその中に配管をやり、排水は満水テスト、給水は水圧テストをやつてOKとなれば埋戻をして床コンクリートを打つと言う順序になりますから日本の様に建前がすんだら配管を始めると言うのとは少し違いまして現場は唯遣方がある丈で、この遣方を唯一の頼りにして夫々の器具の真を出し立上り管は予定の壁厚の中におさまる様に夫々の位置を決定して配管をするのであります。そしてそれに使うパイプは給水給湯は銅管、排水は後から容易に曲げ加工の出来ない鋳鉄管でありますから一寸真が1吋違つていたからと言つてもどうにもならないので配管は余程慎重を要する訳ですが今迄幸い間違いがあつた事はありません。時々あのパイプはどうも窓へ出てくるから取外してくれと建築の方から申入れがありますので行つて見ますと現地人のブロック工が積み違えをしておつた——いやこれは本当の話です——と言う様な事がありました。我々の方は200棟も同じ仕事をやるので一定の寸法の直管と一定の型の異型管をつなぎ合して行くので間違い様がないのであります。工員の方も馴れきつてしまつて一番始めは床下の配管に5日も要したのが次には4日になりしばらくすると3日平均で容易に出来ると言う状態になり、従つて係員は材料をあてがう事と寸法的なチエックと水圧テストだけしておればよいと言う訳であります。

第3は“設備に対する工程が非常に合理的である”と言う事であります。最近内地工事でも設備工事がだんだん大きくなつて参りましたので建築主の方では建築工事と別個に我々専門工事業者に直接発注される場合が非常に多くなつて参りました。従来の下請工事の場合でもそうでありました如くいまだに明日は便所の防水をやるから今日中に配管を済ましておけ。或は間柱が建つたと思つていると配管の済まない便所廻りでも両面から木摺をばんばんと打付けてしまう。一体我々はいつ配管をしたらよいのかまるで時間がないのであります。そうこうしている内に竣工期限がやつて参ります。所が便所洗面所のタイルが貼り上るのは竣工の2、3日前、リノリウムや床仕上が出来て放熱器が置けるのもやはり4、5日前でありまして、この残りの時間に器具類の取付を全部終るのですから設備屋なんて一体いつ仕事をしているのかと言う様なものであります。大変余談にわたりましたがそれでは沖縄工事ではと申しますと、先程一寸申しました様に住宅の工事に致しましてもコンクリートスラブを打つ前に我々の工事の為に一定の期間が用意されておりまして配管からテストまで絶対に時間が確保されているのであります。したがつて十分な時間を費した仕事に又十分なテストを行いますから埋設部分からの漏水と言う様な事は絶無であります。兵舎の工事に致しましても二階スラブの型枠が出来上りますと配筋をやるまでに我々の方で墨を打ちましてインサートハンガーを十分に打ちます。竪管のスリーブも内地の様に木の箱でなしにすべてパイプの大きさ丈のものを所定の位置に入れまして後で斫つたり、余分な穴を埋めたりすることの無い様に致します。内地工事ですとインサートハンガーなどを入れるのは鉄筋屋におどかされながら大変いやな目をしながらやるのが普通の様ですがここでは我々の仕事が終つて検査がすまないと次の鉄筋屋が仕事にかかれないのであります。

第4は“自働装置が完璧である”と言う事であります。例えば兵舎の暖房を見ますとこの装置は蒸汽ボイラーを据えまして——燃料はオイルであります——この蒸汽を温水にかえ、この温水をポンプにて強制循環するのでありますが、先ず部屋の温度が所定の温度に達すると循環ポンプのスキッチが切れます。するとコンバーターの温度が上昇して蒸汽が止ります。蒸汽の消費が止ると蒸汽ボイラーの圧力が上つてオイルバーナーが止ると言う様な順序になつておりまして室温が下ると又これと同じ順序で動き出すわけです。尚日本ですと自働装置には必ず手動への切換がありまして自働が故障すると人が管理をして動く様にするのが普通ですが、ここでは一切手動への切換スキッチはありません。精巧な自働装置でありますのでこれに対する信頼度と申しますか考え方が我々と違う様に見うけた次第であります。

（筆者　株式会社三晃商会社長）

沖繩通信

浅沼茂夫
SHIGEO ASANUMA

1. 沖繩の近況

沖繩戰は第二次世界大戰に事実上の終止符を打つたものであり、あの狹い沖繩島に注ぎ込まれた鉄と熱と血の量は蓋し前古未曾有のものでありました。

其の為めの死者は18万余（日本軍10万8千、米軍1万1千、住民6万3千、住家8万余棟、（全住家の九割）は全滅し北部の山々を除く、中南部の山は崩れ、谷は埋り一木一草も止めない惨状を呈した、其れ丈に沖繩の蒙つた有形無形の変化は極めて多かつた。沖繩人が従来持つて居た世界観、国家観、人生観の根底からの動揺が大きかつたのであります。新しく注入された民主主義は、沖繩人がこれ迄持つて居た人間観とは全然違つた立場に立つたものである丈急速に受入れる事は困難であつた。此の為め社会的混乱が生じ、更にポツタム宣言によつて北緯30度（今は29度）以南の南西諸島が日本から切り離され政治面、経済面も著しい変化が起り、住民の生活面に大きな影響を与へた。今沖繩は軍の大平洋の防波堤築造の為忙がしく、住民は元の生活を取り返す為、復興の仕事に働いて居ります。

其の沖繩は如何なる所であるか大略を見て行きます。

2. 地　　理

沖繩群島は沖繩島を中心に群る島で九州島と台湾島の間に弓状に点々連る、琉球列島の中央部にあたり、北は大島を主島とする奄美群島、南は宮古島を中心とする宮古群島、石垣島を中心とする八重山群島で、日本とは北緯29度で切り離された。

沖繩島は幅員広い所で3里、南北に長く40里に亘り、南三分の一の所に幅員3キロの所があり此れから以北は日本内地と地質、地形に似て山が多く俗に山原（ヤマバル）と称せられて居る。樹木も温帯植物が多く、地質も古成層からなり、南部は、丘陵地帯でサンゴ石灰岩が、かぶさり、諸々に天然洞窟が出来て、今次戰争にはこの洞窟が幾多の人命を救つた。

南部は人口も稠密で、米軍の用地も、殆ど此の地帯にあり、首里那覇が此の中心となつて居る。

この石灰岩は沖繩では唯一の石材で、建築用、土木用を切取り使用して居る。

3. 気　　候

亜熱帯気候で、平均気温は22度で鹿児島より約5度位高く沖繩の正月は平均15度で、北海道の真夏の気候にあたる。

夏は（7月）平均気温23度位で、気節風が吹き割合凌ぎ良い気候です。植物も亜熱帯性の物が多く。空中に長く、ヒゲを乗れるガジマルや、年輪のない赤木、其他楠、年中赤い花の咲く、ハイビスカス（此れは布哇の国花で、日本語では仏桑華と云うもの、宮崎県の青島にある、ビロウの木（葉は団扇に造られる）があります。

沖繩一帯の気候は有名な東南アジヤ気節風帯であり、冬は北東（満州方面）からの風がひどく、夏は南東風が強い。

沖繩は完全に此の気節風に左右され家の建築も南面して建てるのが通例である。

春と秋は季候が変り安く、半年程も吹きつける此の気節風が北東気節風は真冬最盛期を過ぎれば次第に衰へ、晩春から初夏にかけて梅雨に似た雨が降り、此の雨が物凄く大雨で、湿気が多い。6月21日の夏至の頃になると、南東風に変り、本格的な夏が来て、其れと共に颱風のシーズンで、毎年数百億円の損害を蒙つて居るといわれる。

1年を通じ200日以上の降雨日数であり、年2,300ミリの雨が降り瀬戸内気地方が年1,500ミリ位であるからその有様が想像出来る。

以上要約して、年中気温の差がなく、年中四季折々の花が咲き、畑は年中耕作され、雪が無いので、凌ぎ良い天気である為、のんびりし、人の行動もものろくなつて居る。

其の好例として沖繩では養蜂業は成功しないと云はれ日本から持つて来た蜂は、1、2年はせつせと蜜を集めるが2、3年もすると、年中咲き乱れる花蜜が吸えるので遂に働かなくなると云う事が此の辺の気候を表現して居ります。



4. 沿　　革

沖繩群島の黎明は太古アマミコと云う神が天降したと云われ、アマミコは九州南部の海部と云う一部族で奄美大島を経て南下し沖繩に落着いたと伝えられる。島々の根幹を為す住民が九州南部の人と関連する事は、土器、土俗言語の類似からも大和民族の一分派である事を示して居り、日本との関係は推古天皇の御代の頃、初まつた様で、遣唐使安倍野仲麻呂や唐僧鑑真が漂着したと日本紀書に載つて居る。

其後鎮西八郎為朝が伊豆の大島から黒潮に乗つて沖繩に着き沖繩南部を支配した豪族の娘と結婚、男子を設け其れが王になつたと伝えられて居り、其の遺跡運天或は、マチナトの名称も残つて居る。其後支那との交通が行われ、所謂華僑も来て居る。尚沖繩は数百年前、南方の安南シヤム、ビルマ、ジヤワ等とも公式に交通の礼を修め、日本にも泉州堺に来た様で、三味線の伝播を見て見ると此の辺の消息を物語つている。（三味線は安南から沖繩に、それから、堺に来た様である）

慶長年間の豊臣秀吉の朝鮮征伐には琉球に糧食を課して居り、徳川家康の時は、島津氏を通じ入貢を促し、島津氏の琉球征伐となり、首里城下に攻め入り、城下の誓をさせられ、結果奄美大島は島津氏の直轄地となり、琉球は沖繩宮古、八重山を以て一王国を作り、徳川幕府に対し、明治の初め迄陪臣の位置に置かれたのである。

5. 産　　業

沖繩群島の産業は七ヶ年を経過した今日、復興に幾多の困難が伴つて見る可きものがない。

農　業　終戦前農民の疎開、避難で農業経営が全く放棄された形で亦耕地は戦場となり、田畑は原野同然で家畜や農業施設も殆ど全滅と云う状況である。終戦翌年三月迄各地に分散収容されて居た。農民の原住地復帰が漸く許され、農耕に従事したが、耕地は市町村長が管理農民に割当、耕作した。然し食糧事情は窮窟で沖繩農業は食糧の増産と、耕地の開墾に重点が向けられて居り、1947年には主食全要量の35%を生産し、現在は65%迄になり、残35%は軍の補給に依つて居る。農業の状態や、農家の経営は戦前に戻つていない。

（戦前4万町歩の耕作地が現在は2万8千町歩で、主食の増産に主力をそそぎ耕作地の大部分はサツマ芋の連作に使用され、換金作物の砂糖キビの生産は微々たる物で、農家の経済は苦境に陥り）軍作業の従事が現金収入となつて居る。

林　業　戦時中の大乱伐、戦争による火災等の為、すすきが原と化して、建築用材としては殆どなく、薪炭用材も僅に北部にある丈で軍政府ではクリスマスに使用の木も米国から取寄せる有様で、森林造成に努力して居る。

畜　産　戦前3万頭の牛が、戦時中50頭、2万8千頭の馬が僅に500頭、15万頭の豚が1,500頭内外に激減して居たが、布哇、日本、アメリカからの移入により畜産は進みつつある。

水産業　戦争による船舶の損失により、戦前名産の鰹節も未だ本格的にはなつて居りませんが沿岸漁業によつて居る。

商　業　昭和21年迄は徹底的な統制経済が施行されて居つた。昭和23年から民間の自由企業が許可され、商業も漸次起り、貿易も漸次活発となり、日本の輸出向罐詰類、反物、衣服、日用雑貨等は都市農村に氾濫し、軍作業による現金収入によつて、消費市場は繁昌し、一般民家が、バラック、トタン葺きであるに対し、劇場、料理屋等は、繁昌して中々立派なものである。

工　業　戦前沖繩の工業は製糖業が第1であつたが、現在殆ど見る可き物なく、家内工業の、食品加工、木工場等の如きものである。

6. 交　　通

海運は日本より大阪商船、日本海汽船、三井船舶等が日本と運行し、陸運は汽車はなく全部自動車により、車輛の数は物凄い数になり、車がなければ、用が足せない状況である。

7. 政　　治

占領軍の民主々義政治によつて人権を尊重されては居る。統治の主体は占領軍である。当初琉球軍政長官が統治の責任を取つて居たが、米国琉球民政府と改められ、現在はリジユエイ大将が長官となり今日に及んで居る。住民の政府は従来の群島政府を解消され琉球政府があり本年4月1日に出来た。立法、司法、行政の三権が分立し、統一致しましたが、軍の政策に反する時は軍の拒否に会い知事は行政上の責任を人民に負うのでなく、直接

杭

特許　武智式鉄筋混凝土杭基礎
特許　日信三角型鉄筋混凝土杭基礎
特　砂利充塡による特殊施工法
長　支持力強大。工事迅速。工費低廉
（説明書及び防潮嵩上及盛土地帯に於ける実績表進呈）

株式会社　武智工務所
取締役社長　福留並喜
大阪市西区西長堀北通四丁目壱〇　細野ビル三六号
電話新町㊸九九五一九九八番

軍に負つて居るのである。

終戦後占領軍政下種々変遷があり、此の4月1日立法、司法、行政の三権分立の統一政府が出来ましたが、実質は軍政府による政治であり、初め軍任命の知事は人民に責任を持つ政治でなく、軍に責任を持つ政治となり、次には人民の選んだ知事により、人民に責任を持つ政治にし、直接の責任は此の政府に当らしめて居る。軍は間接に人民に接する所謂間接政治を以て行つている。

8. 労務概況

戦前沖縄では工業の見るべき物なく、一船農家は自営自作で、労力を提供して生活すると云うのは極く僅であつた。

大東亜戦は此の様相を変え、米軍は占領と共に住民全体に軍から其の食と衣を無償で提供の対照として老幼男女を問わず軍の労務に従事させた。勿論或程度は初め強制であつたが、半ば自由意志に委せ、所謂民主主義の線に立つたのは事実である。

軍作業は軍からの同情と食糧等の給与があるので喜こんで行つたが、青年の間には、新用語「キリコミ」と云う言葉が出来た。戦事中の切込が終戦後夜間米軍の物資集積所の物資を盗み出す事を「キリコミ」と称し、之は勿論敵の物資を消耗する事であるから、日本に対し忠義だと考え勇気がある青年として之を敢行し、引いては一般労務者が怠惰になり、道徳心の衰退と、仕事に行けば戦果を挙げてやれと云う事が習性となつたからで、今米軍に於てが日本人の労働力を 100% と見て、沖縄人労働者を60%と見て居る。

然し乍ら一般住民は農耕地の全部又は一部即ち之を平均すると約30%の土地が軍用地、道路に取られ、換金作物がなくなり、労働により収入を得ているが、労働争議等は夢にも見られない。

人口は戦前1平方粁当り 240人が現在 300人を越え、軍労務以外は仕事がない情況である。

労務者は労務カードを持ち、軍は賃金と移動の統制をして居る。日本の建設業者が入り、軍の時給制より上廻つて居り、労働者も喜び参加してる。

労働者の分野は、沖縄群島の人口54万人中可動者23万人内15万人が農業、軍作業には4万人程稼働して居り、之を男女別に見ると、男2万5千、女1万5千で、失業者は今の所職業の好みをしなければ左程居らぬことになる。之の労務者は普通労務が主で特殊技能者は割合に少く、大工の如きは戦後只支能と鋸を持つたから大工だと云つて居り、之を「アメリカ大工」と称して居る。

米軍のトラックにより運転を覚えた者が、自動車運転手の特殊技能者となり、重機オペレータ其他皆同じである。女子は米軍の洗濯、家庭のメード等が主で、女ならでは夜の明けぬ米国の事で働かせるより眺めると云う程の軍作業で作業行き帰りは、白粉を付け、口紅を塗り、ハイヒールを履いて、マフラーを風に靡かせて、トラックに花の咲いた様で沖縄ならでは見られぬ風景である。

9. 結　　論

以上沖縄の大略を申し述べましたが、今や沖縄は太平洋上の防波堤となりつつある。亜細亜大陸は今や完全に共産主義陣営に移行した。

資本主義陣営は日本列島並に之に列なる沖縄及南の台湾、フイリツピンが此の大防波堤となつて居る。

日夜沖縄に於ける要塞構築はつづけられて居る。今や全く昼夜兼行である。

飛行場も日々完備され、あの空の要塞B29の如きはトンボの如く飛び廻つて居ります。道路も文字通り四通発達し米軍の兵舎、永久住宅も次々建設され、港も逐次整備されて居る。此等の建設作業の為め、消費娯楽面が徒らに栄え、之に引き返え永久的産業施設は遅々として進んで居ない。教育面に於いては、其の就学歩合より見ても相当の関心が払われて居る。

又、最近香港が余りに共産主義陣営に近い為、資本家が幾らかの資本を沖縄に移さんとの希望も多い様で、今や沖縄は、シンガポールかジブラルタルの如き様相を呈すると共に、やがては香港の如き国際中継貿易地たらんとしての望みがかけられるのではないか。

（筆者　K.K 浅沼組取締役沖縄出張所次長）

御断り

此の号に掲載予定であつた**新時代の小住宅設計図案及審査批評**は都合に依り八月号に掲載する事になりました。誠に延引致しました事を当選者並に会員各位に御詫びします。

編集部

仕様書には床（フロア）お忘れなく
ケントクワックスを！
大阪 東區ガスビル裏　KKケントク　電 北 (23)4905
東京 神田小川町1三幸ビル東京ケントク　電 神田 (25)1361
名古屋 堀前泥江町2の1　KKケントク　電 本 局 (23)4578

工業デザインの問題

石川純一郎
JUNICHIRO ISHIKAWA

「ベター・リビング」の問題は、ひとりアメリカだけのものでなしに、日本の我々の問題でもある。今日の文化は「ベター・リビング」を基礎にして打ち立てられねばなるまい。学問上の業績も、産業上の成果も、それが一般的な我々の家庭生活、社会生活、精神生活に如何に影響するかによつて、その価値を判断さるべきであろう。政治、経済、学術、芸術などあらゆる社会活動はその目標を直接に間接に我々の生活を豊かにし、便利にし、健康にし、楽しくし、美しくする、という方向のものでなければなるまい。

しかし我々自身の側から考えて、真実に「よりよき生活」を念願し、追求し、また要求しているであろうか。我々はより多くの金銭を得たいと熱望している。労働者は賃金値上のためには敢然とストライキを決行する。より多くの金銭を得たいと望むのは何のためであろうか。この熱望は結局我々の生活改善意欲に連るものであろうか。事実は我々えの金銭えの熱望が甚しく末梢的な欲望の満足のために掻き立てられているような感じがないでもない。

勿論「ベター・リビング」一般などというものはただ考えて見るだけのもので、実際には具体的な個々の事物の改善が積み重ねられていくことによつて、生活全体の改善が得られるわけではあるが、現状はあまりに末梢すぎるのではあるまいか。勿論経済的な貧困が我々の国そのものの問題であつてみれば、我々国民一般が、衣食住にしてからが、不足勝ちな生活を余儀なくされている現状では、全体的な生活向上を考える余裕などあり得よう筈もないかも知れない。一から十まで不満足だらけなのであるから、少しお金が出来たら、その中のどれか一つだけでも満足させたいと思うのも無理からぬことだ。衣食足つて礼節を知るで、経済的にあるレベルに達しなければ、「ベター・リビング」など空論だと考えられるかも知れない。しかし事実は絶えず高価な流行の衣裳を買えるだけの高い経済力をもつている人々が、案外他の日常生活部面では、それほどの改善の熱情を示さないどころか、殆んどナゲヤリなような例は少なくない。思うに、経済上の制約だけからだけでなしに、日常生活、殊に物質生活面の不満足には満足し、或いは忍従するという一つのアキラメは、今日でもまだ根強く我々に潜在する道徳観念であるのかも知れない。しかし今日ではこの道徳観念を強制される何等の社会的理由はない。我々は我々の「ベター・リビング」のために国民生活経済力の向上を要求していい。栄養価の高い、美味な食糧品の豊富な提供を要求していい。我々を稗益し、喜ばしめる、美しい書物の十分なる提供を要求していい。健全な、そして愉快なリクリエーション施設の数々を要求していい。また真に便利に役立つて、しかも美しい日用品の潤沢な提供を要求してもいいのである。

これらは我々の経済力に相応して適当に安価でなければならない。これらは我々の良識に基く「ベター・リビング」の計画の下に、手易く手に入れられねばならぬ。

もしこれらの望みがかなえられるならば、我々の生活は次第に豊かに、便利に、楽しく、美しくなつていくであろう。

これには消費者側の経済力の高められると同時に、生産者もそのコスト引下げの工夫をせねばなるまい。しかしコストの引下げが品質の引下げになつては無意味であつて、寧ろ品質の向上と価格の低下とを同時に考えねばならぬところに困難があろう。しかしこれが生産技術に負わされた運命であろう。

兎に角、一つの日用品がよりよく使用の目的に通つて、より便利で、より耐久的で、しかも安ければ、これは一応よりよき日用品と云えようが、我々は更にそこに「美しさ」を加えなければならない。今加えるといつたが、実はその機能と全く別個「美しさ」があるわけではなく、ある部分は機能と互に交つていることは云うまでもない。「ベター・リビング」は我々に生活の美しさを要求する。「ベター・リビング」の目指すところは美的文化に連るものである。この点、あまりに機械的便利さにのみ急進したアメリカ生活が、最近「美しさ」に非常な重点が置かれて来て、この方面の努力と成果とは驚くべきものである。これはアメリカの所謂インダストリアル・デザイナーの努力と成果であつた。近着のアメリカの雑誌を一見してもすぐ感ぜられることだが、更に直接には百貨店あたりのアメリカ輸入品売場を一覧すると、如何に些細な商品にまで、インダストリアル・デザイナーの苦心——その多少の差はあり、また成功の程度の差はあつても、兎に角その払われた考慮を発見されないものは全くないといつてよい。

日本では今まで日用器物——工芸の「美しさ」は所謂美術工芸品と称せられるものに独占されていた感がある。美術工芸品は日用器物的でありながら、いわば観賞品である。しかしそれはそれなりに、我々の生活を豊かにし、楽しくし、美しくするものではあつても、我々の日常生活に役立つ便利さの点では甚しく価値低しとしなければならない。と云つても、我々が日常使用する、生活必需の器物には残念ながら「美しさ」えの十分な考慮

の加えられているものは極めて稀である。

これは安く安くという点にばかり固執して、美の考慮など思いもよらないのかも知れない。また昔ながらの形に安んじて、本当にそのものの機能追求によつて新らしい形を生み出す努力をしないのかも知れない。この機能上の新らしい形は結局新らしい美しさを生み出す端緒なのであるが。

これらの点は、日本でも最近工業デザインの重要性が注視され出して、この方面の努力の結果がボツボツ現れて来たことは「ベター・リビング」の見地から喜ばしい。しかし、これとて理解あり、資力ある少数の生産者のみであつて、一般の生産者はその無理解のために、或いはその資金のために、相変らず醜い、又は美しからざる製品を提供しているのである。この場合、資金の問題は他の方策によつて解決の道を講ぜねばならぬであろうが、少なくとも工業デザインの認識を与え、又深めていく努力と同時に実際に優秀なデザインを給供せんとする努力は工業デザイナー側に於て進んで払わなければならぬものであろう。

工業デザインの問題は直接には我々の日常生活に直接するものはあるが、同時に日本としての貿易関係に於て重要な位置を占むべきである。

戦前にドイツを初め、ヨーロッパ諸国が如何に貿易品の工業デザインに努力したか、又戦後英国の大規模な、国家的な努力——(C. I. D)などは周知の通りである。そういう中で、日本工業デザインの貧困は種々の機会に、海外に於て曝露しつつある現状は甚だ残念である。こんなことも刺戟になつて、最近日本と工業デザインに異常な注意を向け初めたように見えるのは当然であつて、あらゆる方面がこの助長に力を致さねばなるまい。この機運に乗じて、日本工業デザイナーの活躍が待たれる。毎日新聞、英文毎日が新日本工業デザイン振興運動を起し、蓄音機、ラヂオ・ケース、電気スタンド、万年筆、輸出敷物等十二商品を選んで、デザインの懸賞募集をする企劃は時宜に適したもので満腔の賛意を表したい。

実は私も大阪府工芸振興委員会の専門委員として、又大阪府工芸協会の評議員として、工業デザイン、殊に大阪府下工芸のそれの向上のために微力を尽そうとしているものにとつては、此度の毎日及英文毎日の企劃に特別な関心を期待とを持ち、又その成功を祈つて止まないものである。

我々も、大阪府の主催により、屢々工業デザイン(染色図案及工芸図案)の懸賞募集を行ひ来つたのであるが、その結果は平面的な染色図案の応募がかなり多く、又佳作も多く出しているのであるが、立体的な工芸図案は応募数も、従つて佳作も少ない。これは以前から染色図案のデザイナーは存在し、その伝統は今日まで続いているわけだろうし、又経済的にも日本重大産業部門に関係するためにデザイナー存立の可能もあつたわけであろう。これに反し工芸図案(工業意匠)は極く近来の要請でもあり、又専門デザイナーを被護し育成する背景や地盤がまだ十分でないためであろう。

しかし今日日本に於ては特別に工業デザインの必要が痛感されているのである。

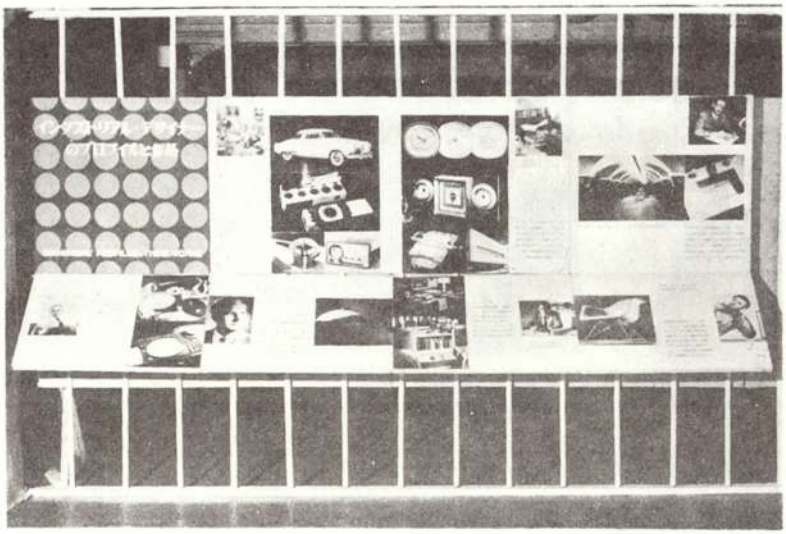
アメリカの工業デザイナーの旺盛な仕事振や、非常に細分された専門分野の専門デザイナーの存在など我々を驚かしめるものがあるが、同時に我々も速やかに追付いてゆかねばならぬという覚悟を新らたにさせる。

兎に角社会一般が工業デザインに関心を持ち、その意味を理解し、その良否に対する判断を持ち得るようになり、又生産者も工業デザインの必要を痛感するようになつて、工業デザイナーを尊敬し、自己の生産品によりよき工業デザインを採用するようになり、又為政者もこの方面に適切な、有効な政策を行うようになつて、初めて純粋な専門的な工業デザイナーが存在し得るようにならう。私は速やかに、かかる工業デザイナー存立の基盤の整うことを願うと共に、現在何等かの意味で工業デザインに携わるものの奮起が必要だと思う。

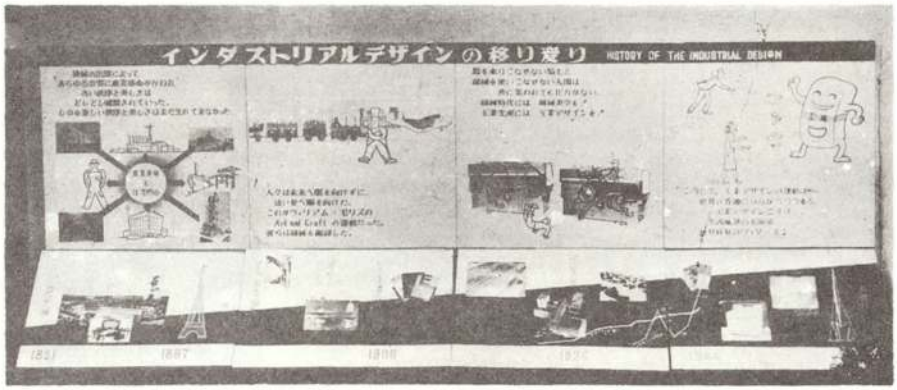
ところで我々建築家の立場から、我々は工業デザインの非常に大きな部分が、実に我々建築家の担当せねばならない分野であることを改めて見直さねばならない。建築というものが実は屋根と壁とだけを持つた箱ではくなて、その中の、又はその外のあらゆる家具を初めとする工芸一般も共に建築家の綜合的意図の下に整備されるのが正しい筈のものであつたのである。建築家は数学、力学、工業等の科学的な基礎的な教育と訓練とを経ていると同時に、デッサン、彫塑、製図、意匠、図案等の芸術的な教育と訓練をも経ているのである。これは工業デザイナーの要件を一応持つものといえよう。私は建築家が大いに工業デザインに関心を持ち、優秀な作品を発表して欲しいと思う。望むらくは我々建築家の中からも、全く専門的な優秀なインダストリアル・デザイナーが躍立して貰いたいと思う。我々日本建築協会の会員諸君の中には工業デザインに対して強い関心を持たれる方は非常に多いと思う。又実際に工業デザインを制作しつつある方々も決して少なくない。前記の大阪府主催の工芸図案募集などにも毎回熱心な建築家の応募を得ているのである。今度の毎日新聞、英文毎日の企劃にも勿論御常連の建築家の参加が見られると思うが、その他にも出来るだけ多くの建築家の参加を得て、この企劃を通じて今後の日本工業デザイン振興に大きな寄与が得られるようにして頂きたいと念願する。(筆者 KK竹中工務店技師長)

デザイン展示會
新日本工業

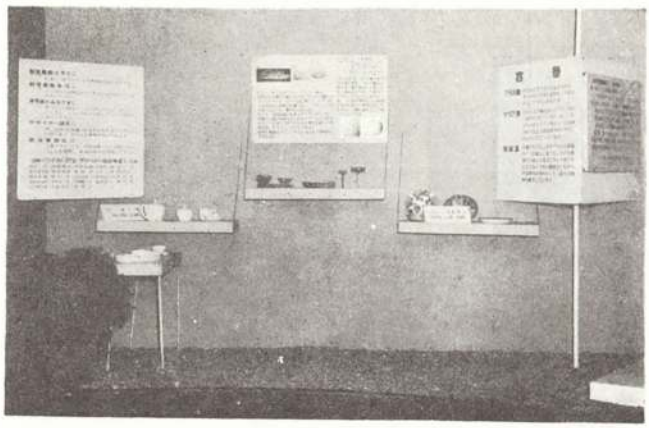
毎日新聞主催



インダストリアル・デザイナーのプロフイルと作品の説明。



インダストリアル・デザインの移り變り、ウイリアム・モリスの機械の敵視の歴史が始まつている。





↑　デザインはこうして出來る。模型と色彩、着想とその表現、デザインをきめる。

←　デザインの重要性。製造業者の方々に、販賣業者各位に、使用者のみなさまに、デザイナー諸兄に、政治家諸氏に。提言している。

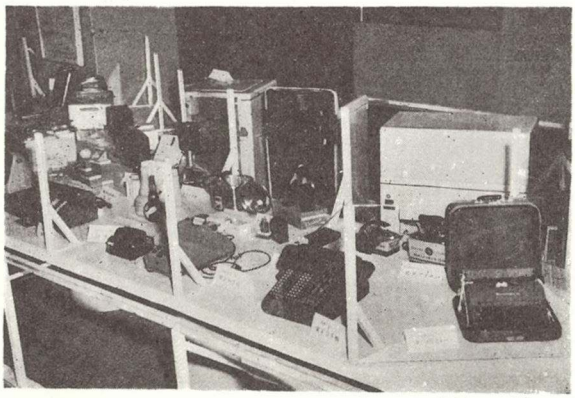
新日本工業デザイン展示會

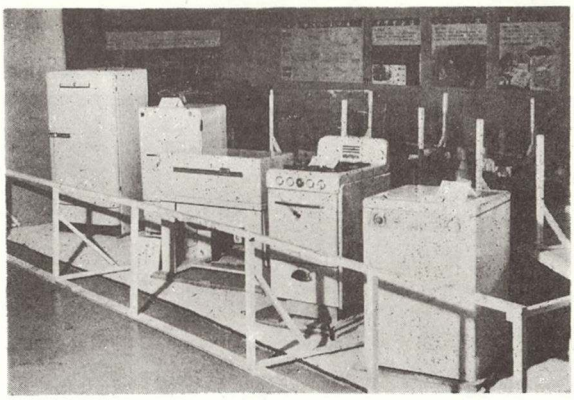
阪急百貨店に於て



自轉車の色彩研究、從來異色のみに限定された色彩も輕快性、堅牢性の色彩を選擇する。

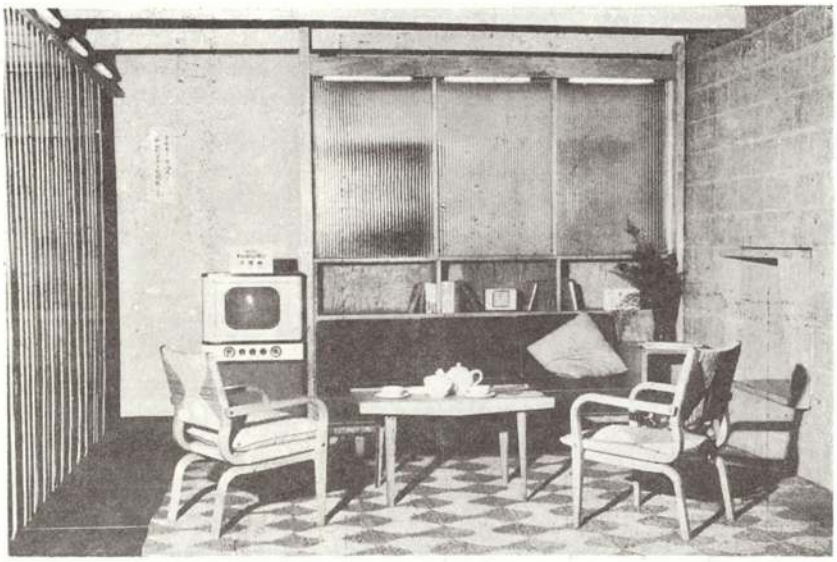


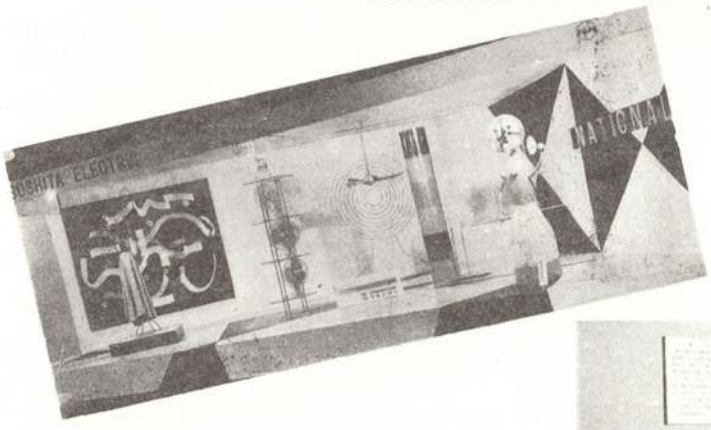




海外の工業機器バルコン會社提供の優れた海外の工業機器類、電氣冷藏庫（ゼネラル・モータース）ガスレンヂ（アメリカン・ストーヴ CO.）等

モデル・ルーム居間茶卓子と解体式肘掛椅子、セクショナル・ソファー（産業工藝試驗所設計）テレヴイジョン・セット（日本ビイクターKK）

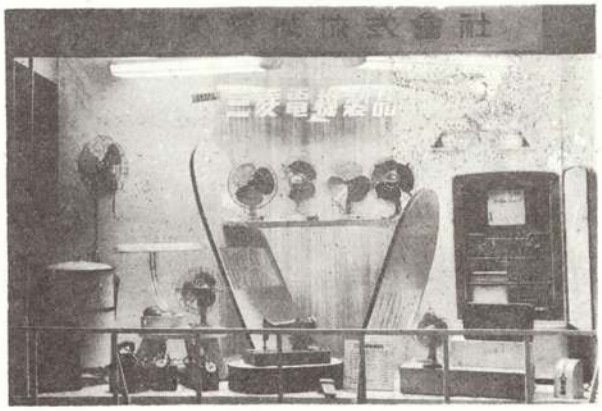




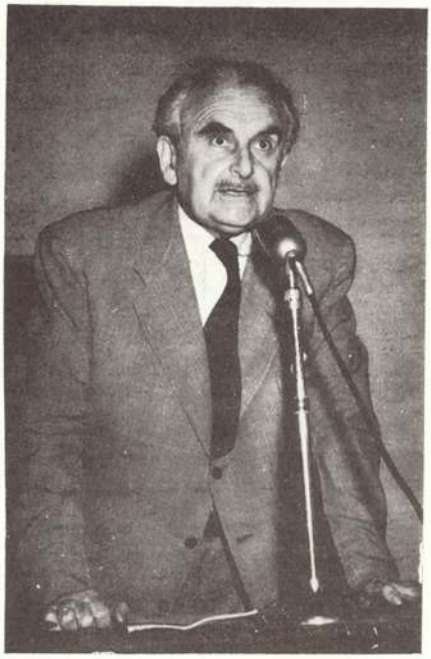
←スポンサーの出品松下電氣KKのナショナル扇風器、新制作協會猪熊弦一郎、岡田哲郎構成、動的なリズミカルな展示は一段に注視された。

J.I.D.A.日本インダストリアル・デザイナー協會々員の作品展示→





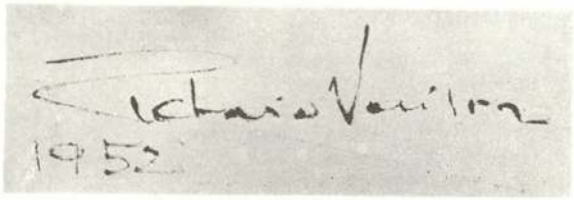
←スポンサーの出品三菱電機株式會社の扇風器。



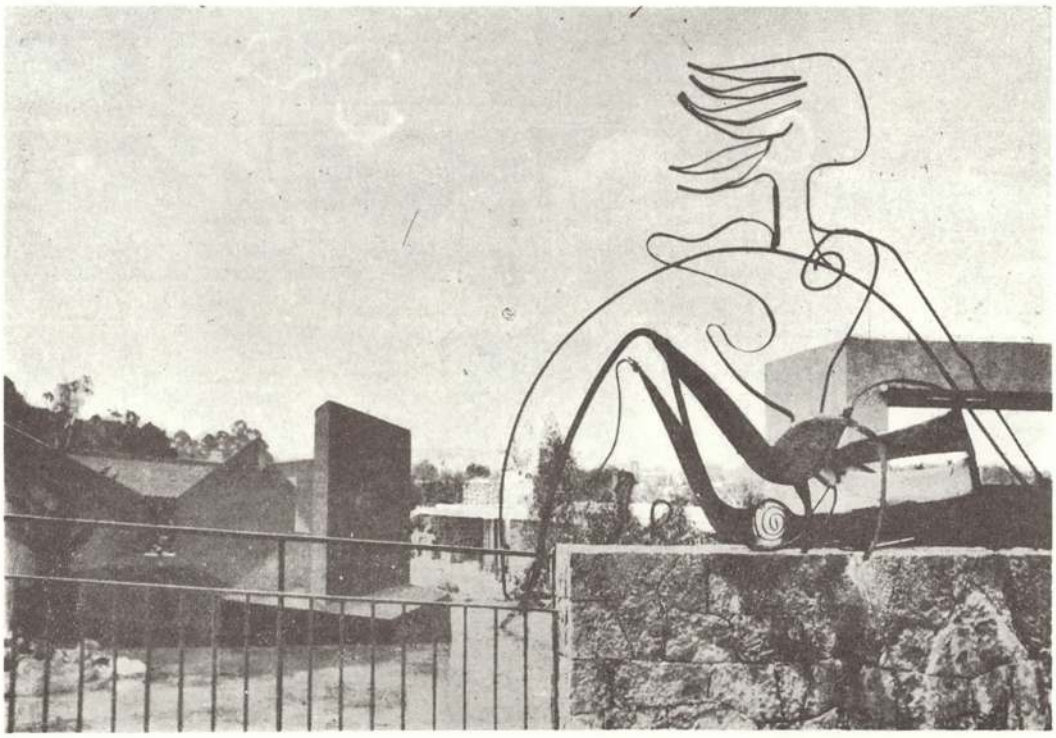
自然に歸れ

GO BACK TO NATURE

リヒアルト・ノイトラ



メキシコ・シティ郊外のペドリカルの新しい建築に使はれた彫刻



GO BACK TO NATURE

SPEECH BY MR. RICHARD J. NEUTRA F. A. I. A.

MAY 9, 1952 AT ASAHI KAIKAN, OSAKA

It is wonderful to be back in Osaka after twenty-five years. It is also strange because Osaka is now twice as large as it was twenty-five years ago. The natural landscape seems as though it has been removed twice as far now as before.

On the way here today, as we rattled along the highway from Kyoto, I had a very interesting conversation with my interpreter, Mr. Nagahara. We talked about how an architect can keep the metropolis from interfering with humanity and nature.

I understand that the Chinese character (困ル) a square with a tree confined in it means hardship or "komaru" in Japanese. It is indeed an hardship for human being or any organism to be confined in an inflexable structure. I believe that it is the job of an architect to relieve unnatural rigidness in buildings he designs.

The engineer is very happy when he is confined by mechanism but that is very unnatural and inconsistant with nature. The architect should always understand and be an engineer living very close to nature.

There were architects long before engineers. Japan is one of the few countries in the world interested in nature and has retained and enjoyed the wonders of nature.

All shrines, temples and etc. are set in natural atmosphere. Here every child is expected to appreciate the water-falls, mountains and etc. and observes the wonder of nature. They are taught early to be keenly aware of nature and live in enjoyment of it.

I do not say anything new when I say that architect should fuse nature and living. We have preceded beyond nature and now we have more scientific interest in nature as well. We are interested in biology and physiology, the science of natural living beings. In this respect the architect goes farther in nature than engineer. The modern architect is expected to have knowledge of the biological and physiological science. The modern architects should know for instance, how much oxygen is needed in the lecture hall like this. He should knows how your ears could hear and how to use acoustic materials so that hearing a lecture will be improved, how well a voice will be carried. An architect in a lecture hall should know how the nerves of the body, how the whole body system respond to the atmosphere in the room. An architect should know what happens to your body when you sit in the chair.

The whole situation in this hall is unnatural. It is business of an architect to bring it nearer to natural existance. In Osaka as well as any large city, the whole city is unnatural. An architect should plan to make it a more natural place to live. It is unnatural for man to live in such density of population than that of a small village but perhaps in the future they will be a way to make millions of people live in large cities in a natural way. An architect has to bring together human being for his role in society for humanization.

We all received engineer training and I also have a degree in engineering but we all know that an engineer has nothing to do with the subject, but as an architect, we are more interested in human lives, their nerves and other physical aspects than in reinforcing steel. As architects we are practising biologist and physiologist and not mechanics. If there was one period in the lives of mankind in which we should come face to face with this fact, it is today.

Long ago, in Japan or any other country, there were no international transportation radiograms, letters or any international communications It was impossible to send specifications, end blueprints for buildings far away from the job site, though it is easy to do so today. I have seen a Buddhist monk construct a temple. At that time the monk was an old man and he had been directing the work for buildings for forty-five years. You can imagine

him sitting from morning until sundown giving personal orders and attention. In forty five years of his being there, he learns the natural landscapes, where the wind blows the hardest, the ways sun rises and sets and all the nature of the land. The monk would have access to nature to cope with the surrounding landscape and nature. He sees the workman face to face and he can explain to those who work for him directly exactly what is in his mind. He does not send specification estimates or detailed blueprints as I do thousand miles apart from my office. When the workman would not do as the monk would want to have the work done, he would talk to the workman personally and sell him what is wrong or even hit him with a baton as I have seen it done.

The modern architect cannot do that. His methods are more cruel. He has contracts. He has to write a contract specifing every little thing exactly as he wants them. He has to write a contract and has a contract and subcontractors to contend with. He has law suits and so he must see to it that the contracts protect him and everyone concerned do exactly as expected of them and the clients and everyone concerned are satisfied. Today we are very far from our clients, the job site, and far away from its natural landscape and nature. If you will look at my pictures you will see that you cannot do without nature nor just in a mechanical way. It must become more personalized as temples of the Buddhist Monk.

The Buddhist monk with forty-five years of experience was more close to nature but the modern architect has the use of science to go back to nature but it does not come easy.

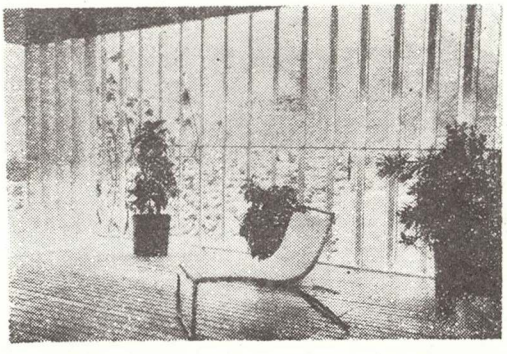
I work in eleven states, in Italy, and all these places of actual work are thousands of miles from my office. I try very hard to establish a very close connection with those people who do my work.

Perhaps, I should conclude by saying something about money. Money has created a very different role in building than the past. The castles in Europe and Japan, palaces, temples and other historical buildings were not built by estimates or budgets. If that Monk had no more money to continue work, he took up a collection. He didnot have schedules.

Today you cannot live as an architect unless you have specified detailed blueprints established budget and scheduled your work, so that you can get your work done exactly as you want it without your personal supervision on the job-site.

You in Japan are like the rest of the world. You must consider the commercial aspect but architect is not engaged in commerce or technology but in trying to bring back nature and become biologists and physiologists.

(The above transcript os Mr. Neutra's speech at the Lecture Hall of the Osaka Asahi Shinbun was made by Mrs. Tanaka of the Obayashi-gumi Co., and is not the entire substance os his talk. Slides were projected and darkness prohibited any further notes to be taken. Sincere apologies are tendered all those concerned and especially to Mr. Neutra)



自然に歸れ ——講演(序論)の要旨——

リヒアルト・ノイトラ

25年ぶりに、また大阪にやつて来たということは感慨の至りであります。同時に大阪が25年前の2倍にも大きくなつたということも驚くべきことでありますが、自然の風景は、あたかも以前の2倍も遠のいてしまつたという感じであります。

今日、ご当地へまいります途中、京都からの自動車の中で私は通訳して下さるナガハラさんと面白い話をいたしました——建築家たるもの、如何にすれば主要大都市が人間味と自然とをそこなわぬように処置し得るか、ということでした。

中国の文字に、四角形の中に樹木を押しこめた「困」という字がありますが、日本語で「コマル」という意味ですね。実に、人間はもとより如何なる生物にとつても、固くて動きのとれぬ枠に押しこまれるのはつらいことです。建物において不自然な固さを和らげる、というのが設計家たるものゝ任務だと私は信じます。

工学者ならば自ら機械に閉じこめられて満足でしよう。が、それでは非自然的でもあり、自然そのものとも両立し難くもあります。

工学者よりもずつと昔から建築家なるものは居たのであります。そして日本は、自然を愛し、その美しさを保存し来たところの世界にも稀な国の一つであります。

神社や寺院などすべて自然環境のうちに置かれています。お国では、どんな子供でも滝や山などを眺め、自然の美しさを味わつて居ります。幼いときから自然に親しみ、自然を楽しんでくらすように訓練されています。

建築家が自然と生活とを融和せしめねばならぬということは、ここに事新しく説くまでもありません。さらに私どもは自然を通りぬけて、今では一段と進んで自然のうちに科学的関心をもつに至りました。すなわち、自然生物の科学たる生物学や生理学への関心です。この点で、建築家は工学者よりも深く自然の中に入つてゆくわけであります。現代の建築家は人生に対して、すぐれた生物学者、生理学者たらねばなりません。たとえば、このような講堂には如何程の酸素が必要か、聴衆にはどの位よく聞こえるか、音響効果をよくするよう改造するには如何なる資材を用うべきか、などの問題について心得ていなければなりません。講堂に入つたならば、まず室内の状況に対して身体組織や神経は如何に反応するか、さらに腰かけたならば、身体の調子は如何かを知らねばなりません。

この講堂内の全体の様相はどうも不自然のようですな。こういうのを何とかして自然状態にするのが建築家の仕事であります。どこの大都会でも同様ながら、大阪は市街全体が非自然的であります。これをもつと自然的な住所と化するよう計画するのが建築家の仕事であります。こんな人口稠密な所にくらすのは人類にとつて自然的だといえない、が恐らく将来は、何百万もの人々が大都会において自然的な方式で生活できるようになるでしよう。建築家は、人間同志が互に社会の一員として人間らしい生活のできるようにと考えてやるべきであります。

皆さんもそうでしようが、私も多少は工学の教育をうけてきました。が、工学者の側では、こういう問題は取扱つてくれません。建築家としての関心は、鉄骨を強化することよりも人間の神経や身体の方面の事、すなわち人間生活の上にあるのであります。私どもの行動は工学者であるよりも生物学者、生理学者なのであります。人間生活の歴史において、かかる問題に直面すべき時があるとするならば、今こそ正にその時であります。

大昔は、日本でも何所でも、通運、ラヂオ、通信、その他国際的な交通はなく、私自身にしましても、かつては仕様書や青写真を事務所から遠く距つた所へ送るのに今日のようなわけにはゆきませんでした。

私は、かつて一人の仏教の坊さんがお寺を建てているのを見たことがあります〔多分東南アジア地方で〕。その坊さんはすでに老人でしたが、過去45年間も自ら工事の指図をしてきたというのです。朝から日没まで、親しく命令したり、仕事の面倒をみたりして坐つている姿をご想像ください。一生中の45年間、そこに坐つて彼は自然の風景を会得し、風の吹き回しや朝日夕日の方位、その他土地の自然万象を体得したのであります。彼は周囲の風景と自然とに対処すべきあらゆる術を心得ていたでしよう。彼は工人たちと親しく接触し、自分の意図するところを直接かつ的確に説明してやることができます。彼は仕様書や見積書や詳細部の青写真などは送りません——私などは自分の事務所から何千マイルも離れた所へ送るのですが——そこでもしも工人たちが注文通りの工事をしない場合には、彼はその工人に親しく話をし、まちがつた所を説明し、場合によつては指揮棒で打ちさえもする、という光景を私は見たのであります。

現代の建築家の行き方は勿論これとは異ります。方式はもつときびしく、場合によつては対手を禁錮に処することも出来ます。私どもは契約を取り結びます。一々明細に書き込んだ仕様書を以て契約し、請負人及び下請負人の同意を求めるのであります。法律的要請によつて、契約を守り、関係当事者に対して適正であり、相互に満足のゆくように監理を行うのであります。今日では私どもは注文主からも工事現場からも遠く距つた所に居り、従つてその自然や風景からも遠ざかつて居ります——もしも皆さんが、これからお目にかける私の〔幻灯の〕画をご覧くださるならば、私どもは自然を離れては——機械的方法などではとても——我慢できないことをご了解願えると存じます。人間的たらねばならぬという点では、あの坊さんのお寺にひけをとるつもりはありません。

あのお寺の坊さんは45年の体験を通して自然に親しんできたのです。が現代の建築家は科学を駆使して自然のふところに帰る。というわけです。但し、それは決して安易な道ではありません。

私は〔アメリカの〕11の州やイタリアで仕事をして居ります。しかも、それらの現場はいずれも私の事務所から幾千マイルも距つています。そこで私は、私の仕事のため働いてくれる人々と親密な連絡をとることに大いに努力いたし居ります。

話の締めくくりとして、少しく経費のことに触れたいと思います。建物と経費の問題は今日は昔日と同一の談ではありません。昔は欧州でも日本でも、城郭、官殿、寺院、その歴史的建造物は予算や工程によつて行われたものではありません。たとえば例の坊さんですが、工事を進めるのに1文の銭も無くなつたとなると、彼は寄進をつのるのです。銭ができたらまた工事を継続する、というわけで、工程表などあるわけがありません。

〔が、今日はすべてが予算と工程表とによつて計画通り実行されるのです〕明細な青写真、確定した予算、約束された工程というものがある故に、建築家は自ら現場に行つて指図しなくとも、設計通りの仕事ができるのであります。

今日の時勢は日本も他の国も同様に〔商業、工業の時代ですから〕商・工業の部面を除外するわけにはゆきません、が建築家はあくまで自然を回復し、そのために生物学者、生理学者たらねばなりません。

（滝沢真弓）
MAYUMI TAKIZAWA

〔備考〕
以上はノイトラ氏の講演の序論の要旨である。

但し速記録ではなく、英語に堪能な田中嚢のメモに従て，私の試みた意訳である。その際当夜の記憶によつつて多少の補遺を施したことを諒せられたい。

当時予告された演題は「世界建築界の新動向」というのであつたが、これは必ずもノイトラ氏の了解によるものでなく、主催者側の一方的要請だつた由で、講演内容とは若干のズレがあつたかと思われる。が、思うにアメリカにおいては、すでに機械文明の豊満の故に、心ある人々によつて「自然の回復」が提唱されつつある由なれば、ノイトラ氏の趣旨も或はそういう「一動向」の表明にあつたかとも推測される。

この推測が当るか否かは別問題とするも、あえて私見を加えるならば、アメリカ人のいわゆる「自然的生活」なるものは、すでに豊満せる高度の機械文明と巨大な資本主義的様式が招来した素朴自然の超克さらに端的には交通（特に自動車の普及による）速度の増大に伴う時・空的距離の短縮化、の上に立つところの、アメリカ人自らのいわゆる「アメリカ式生活」（American way of life）に他ならぬ。また特にノイトラ氏がくり返し説くところの生物学・生理学的立場なるものも近年シカゴ市——この典型的なアメリカ的都市——を中心として唱えられている「人間生態学」（human ecologg）の生物学的性格の反映ではないかとさえ思われる。

閑話休題として、とにかく上掲は序論であつて、その本論はこれにつづいた氏の幻灯と解説をまたねばならぬ。今それをここに再現し得ないのは遺憾であるが、全体の趣旨はすでにこの序論に予約されているかと思う。

氏の所説については、当夜これを聞かれた人々の間にも種々のご意見があろうと推察する。ただせめてこの序論の紹介によつて、世界有数の建築家といわれるノイトラ氏が、日本人を対手にして、大凡如何なる程度の話をされたか、ということの一斑をうかがい得るならば幸とする次第である。

（大阪市大理工学部教授）

間仕切・天井には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
合資会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町三一番地
電話堺川㉝四一四六番

ノイトラ氏を迎えて

上野伊三郎
ISABURO UENO

ノイトラ氏はウイーン生れでリチと同郷であり、年齢も筆者と同じであり、日本インターナショナル建築会の外国会員でもあるので、久し振りの再会は感慨深いものがあつた。

彼が初めて日本を訪れたのは1930年の6月で、東京から入洛する彼を京都駅に出迎えたのが初対面であつた。

"貴方の作品は雑誌を通じてよく知つて居ます"。

と云うのが彼の初の挨拶であつたが、当時日本ではインターナショナル建築はあまり認められて居らず、素人はもとより、建築界に於ても老大家諸先生方には理解してもらえず、"インターナショナル建築なんてものが出来る筈はない、全然不可能だ"とはI先生、その他の一般的な意見は

ああいうものは一時的流行に過ぎない、永遠の生命を持つ建築様式はギリシヤ、ローマを除いて有り得ない。というにあつた。

斯大家諸生先方の意見がこうしたものである以上、一般社会えの影響力は強大であつて関西ではT博士は反対意見の先鋒の一人であつた。吾々の苦戦言は語に絶するものであつたが、ノイトラのこの駅頭の言葉は吾々に非常な勇気を与えてくれ、日本よりも海外に吾々の仕事を注視して居てくれる人々のあることを知つた。

6月15日の午後からリチと共に彼とその同伴者のドイツ青年も共に嵐山へ案内した、激しい雨の日であつたが、日本版画に雨の風景がよくあらわれるのはこうした美しさがあるからだと云ふ話しが出た。

清水寺へ着いた頃には雨の日が暮れようとして廻廊の灯が見え、静かな内陣からは読経の声が聞えて居た。ここの建築と自然との融合調和は殊の外彼を悦ばせた。

夕食は三島亭でスキ焼きと日本酒を御馳走したが、鋭い皮肉を交えての快談に時を忘れたが、アメリカ式のテムポで最後にもう一つ、日本の映画を見たいと云うので松竹の夷谷座で「柳生又十郎」を見たが、終り迄席を立たず、仇討等日本古武士の習慣を細かく聞いたりした。

この半日一夕の交際によつて彼の人となりを知ることが出来、滞欧中の外人の友人達のある物にこだわらない自由に物の云える交際を思い出したものだつた。

翌日は大阪と奈良を見学することになつて居たので、大阪住会員が案内してくれた。そこでも彼は日本の建築をよく理解して案内者達も満足したそうである。

その夕方、大毎会館でインターナショナル建築会主催、毎日新聞社後援で、「NUETRA氏を中心とする新興建築講演会」が開かれた。

先づ近代建築の動向について伊藤正文君の前講があつてノイトラの講演にうつり、幻燈による具体的説明もあつて満員の聴衆に深い印象を与えた。

通訳は大毎記者及柴田知重氏と筆者の三人で交代でつとめた。

その翌日彼は神戸から船で帰国した。この時の日本訪問記は、ドイツの造形雑誌 DIE FORM 1931年9月号に多くの写真と共に掲載されて居る。

今回の訪日は3度目で、関西えは2度目である。

5月9日朝日で講演会をやるというので建築協会で彼の到着を待つた。5時の定刻を過ぎる事20分位、体の比較的小さなノイトラ夫人が入つて来られたので、旧知のリチはすぐ之を迎えて挨拶をして居る。

数分遅れて彼がやつて来た、22年前にはまだ無名の、若い、黒い髪の、感激に満ちた、皮肉屋の、近代精神に充ちた彼は、その清新な作品の写真を示したのであつたが、今や彼はその作品を自ら示す必要もない有名な世界的大家として、白髪の肥大漢として姿を現わしたのである。この日は朝から京都古建築を見学しての後であり、大分疲れて居たらしかつたが、少憩の後講堂え赴いた。講堂えは2階分の階段を昇らねばならないのだが、心臓に病気があつて階段を昇ることは医師から禁ぜられて居る由だが、エレベーターを動かせぬ為めに一段昇つては休み、一段刻みに昇つて行くのであつた。

後で聞いたのだが、アメリカの生活は想像に余る厳しさで、今でも彼は毎朝4時に起きて夜10時迄仕事をするのだと云う。これでは60才近くにもなれば健康を害することや老けこむのも当然と思われる。

講演の要旨は別に記事があると思われるのでここでは省略する。講演中夫人は演壇と幻燈機の間を往復していろいろ心づかいをして居られたのにはその内助振りがよく現われて居た。

晩餐会場ではいろいろ打解けた話しも出て時もうつつたので名残りを惜しみつつ雨を冒して京都の宿泊家へ自動車を走らせることになつて、横尾、増田両氏の御好意で筆者夫妻も同乗させてもらつて、途上いろいろ久し振りの話しをした。

11日は朝横尾氏から連絡があつて午後5時から鴨川踊りを見て夕食を共にして東京へ出発するということであつたのでその時刻に栖家へ行つたが、1時間程前にすでに出かけられ、間もなく帰るから待つて居てほしいと云うことであつた。欧米の習慣として予定変更の場合には連絡があるべき筈なのにどうしたことであろう、さすがのノイトラも遂に「大家」になつてしまつたのだろうか？——等とリチと話し乍ら待つて居るうちに6時に一行帰着、聞けばこの日は10度も予定を変更したのでつい連

絡出来なかつたゞのことで、「大家」になつてしまつたのでないことが了解出来て彼の為めに安心した。

夜12時の汽車に席がとれなかつたので20時15分発にしたが、それ迄の時間を利用してどこか見たい、との希望なので横尾氏と相談して見残つて居る西本願寺へ行くことになり、宿を引揚げて荷物を自働車に積込んだまま同寺に向つた。正門はすでに閉されて居り南門に廻つて門衛氏に懇願、日のあるうちにと先づ殿舎内を拝観したがもう薄暗くて殆んど細部は見えなかつたが、中庭や、虎渓の庭を特に立止つて見入り撮影した。

能舞台も注視して夫人に説明したりして居たが、あたりはいよいよ暗くなつてゆくので飛雲閣庭園を急いで観て後本堂前広場の北端から落日を静かに盤賞して京都駅に着、中二階の喫茶店でトーストと果物の軽い夕食をした。ここで茶道とは何か、その作法はどんなものか、ニジリロは何故あんない低いのか、刀はどこえ置いたのか等と矢継早の質問が始まつた。

つづいて茶室と禅とは密接な関係があると聞いたが禅とは何か？の質問迄飛び出し、この場合「日日是好日」等と禅問答で答えるわけにもゆかず目を白黒しながら出来る丈けの答弁をしたが、鈴木大拙氏の英文の著書でも探し出して送る外あるまいと思つた。

こうした出発間際の1時間も無駄にしない飽くなき研究心、——健康を害して居るに係らず京都の数日を桂、大徳寺、修学院から伊勢、奈良と走り廻つたそのテムポにも敬服の他ない。

前に来た時何故桂を見せてくれなつかたか？との問には大分弁解を要した、——タウト来朝の時（1933年5月）には大丸の元社長下村正太郎氏が当局とよい連絡があつた為に直ちに手続きが出来たのであつたが——それでも筆者は只通訳として陪観を許されたに過ぎない——ノイトラの時にはこうした連絡もなく、急の事でもあり何とも出来なかつたのであつた。

西本願寺はタウトが日本を去る時“再び来られるか解らないから一度見て置きたい”と云うので最後の見学をしたところであり、今度ノイトラも京都で最後の見学をして後“恐らく再び見に来られまい”と云つたのは奇妙な一致である。

夕食後新築京都駅貴賓室（9分通りの出来）を見てからすでに到着して居た列車に乗り込んだ、車中で熟睡出来る様にとその時に睡眠剤を服用した。東京、羽田、ロスアンゼルス、そして彼の多忙なアメリカでの生活が再び始まるのであろう。

ノイトラはウイーンの工科大学で学び、構造方面に特に興味を待つて居た。フランク、スツルナード、ロース等のグループに属して居た。

このグループは建築に於ける装飾を強く否定する点でウイーンに於ては珍らしいグループであつた。中でもロースはこのグループの崇拝した先進であつて、機能主義の先駆者であつたが、その為めに不遇で、ホーエンマルクトのツアールハウスと他2—3の住宅を建てたに過ぎなかつたが、日本古文化の大の愛好者であり、“高級な人間は箸で食事をする、ナイフやフオークで食事するものは下等人種だ”と云うのが常であつた。

当時はヨセフ・ホフマンのウイーナーウエルクステツテの盛時であり、ロースすら不遇の時代であつたから、これに私淑するノイトラにはウイーンは決して居心地のよい土地ではなかつた。

かくて彼は故郷を去つてスイス、フランスと欧州各地を転々した後渡米してライトの事務所の共働者となつた。

間もなくカリフオルニアのサナトリウムを建築することによつて彼はその能力を示した。当時のアメリカは欧州よりも新傾向建築普及は遅れて居り、彼の仕事はそれに対してあまりに革命的であつたが、一方には共鳴する人も少しづつ出来てくるようになり、引続き2—3の建築設計の機会が来て数年間の経済的困難時代を脱することが出来たのであつた。

第2次大戦前のアメリカは、サリバンやライト等少数の建築先覚者があつたとは云え一般建築界は様式撰択主義に安住して居たのであり、スパニツシユミツシヨンは最も盛んに賞揚されて居た様な状態で——これは日本えも強い影響を与えて居た——、筆者の如きも欧州の建築雑誌は見たがアメリカ雑誌には注意しなかつた様な状態であつたので、ノイトラの如き新傾向の尖端をゆく建築は一般人に理解される筈はなかつた。この困難に直面してサスガの彼も一時はアメリカを諦めて、ヨーロツパに帰つた程であつたが、欧州の狭小さは、ここも安住の地とは思えなかつたので再びアメリカえ帰つて新規に始めることとなつたのであるが、これを転機として仕事も出るし、雑誌の原稿の依頼や講演を求めるものも続出する様になつて漸く幸な運命がめぐつて来た。

オランダのタバコ王が彼の作品に心酔して、その工場を最新の様式で建築することを依頼するに到つて彼の名声はいよいよ増していつた。

第二次大戦中は彼の活動も一時停止したが、この戦争によつてアメリカは欧州の最新知識人の移住を得た、——ナチスのユダヤ人圧迫、芸術家や知識人に対する無理解等が、それ等の人々を国外へ逃避せしめ、これ等の人々の多くはアメリカに安住の地を求めたのであつた。

大資力と大工場生産に恵まれて居たアメリカは欧州からの尖鋭知識人を迎えてその文化は一大飛躍をとげた。芸術界に於てはウイーンからはウイーナーウエルクステツテの芸術家がドイツからはバウハウスの集団的移住があつたりしてアメリカ文化に寄与するところ実に莫大と云うことが出来よう。こうした新入国文化人はノイトラ

と同様に初期には種々の困難に遭遇したであろうが、人数が多いと云うことは相互に有利であつて、第二次大戦が終了してからのアメリカの建築専門雑誌は新傾向の紹介が半数以上の頁数を占める迄に形勢が変つたことを示して居る。——欧州の雑誌には殆んど過去の様式建築の跡を止めて居ないのに比してはまだ相当の距離がある様に見受けられる。

斯くて今や彼は設計依頼の全部を引受け切れないで、一部申込を断るの止むを得ない程の盛況を呈して居るが、それでも猶彼の生活は女中を雇う事が出来ないで、夫人が自ら家事を切廻はして居るという処に彼の仕事に対する真面目さがうかがはれる。さきにも一寸触れた如く彼は4時に起きて夜10時迄仕事をするという事は、アメリカ生活の厳しさを示すと共に、彼の仕事に対する良心の強さをも示して居るのであつて、デザインというものは自ら製図——少くもスケッチ——するのでなければ充分な事は出来ないのである。

今や彼の仕事は国家的な仕事——スラムを近代ジードルングに改造すること、ジードルング都市の建設、グアムに大ジードルングの建設、富豪からは美しい近代住宅の註文等が殺到して居る。

彼が若くて多くの活力を有して居た時には仕事の無いのに苦しんだのに、健康を害して過労を恐れる時になつて仕事が殺到するという事は人生の悲劇である。

太平洋戦争の始まる1年前にリチが彼を訪れた時、彼のシルバーレークの住宅は——このレークは今は水が涸れてしまつて居るそうだが——彼の理想によつて大きな硝子の引違い戸のある家で日本の建築の雑誌を示し乍ら“日本人は私を忘れずに、こうして雑誌を送つてくれる”と語つて居たが、この住宅はオランダの富豪が建築費を貸してくれて建てることが出来たので、貴方が返金しようと思つたとき御返し下されば結構ですと云う条件であつたと云う。セチ辛い日本では想像もつかない様な話しで、最近朝日新聞発表の世界各国民収入比較表を見れば一応うなづかれることでもあるが、建築家の社会的地位が各国に比較して日本では如何に低いかという事も感ぜられる。

ノイトラがウイーンで属して居たスツルナード、フランクの団体は前述の通り独逸機能主義グループの尖端であつて、ノイトラはこのグループから出た最大の天才であり、最も自由な働きをした建築家である。

このグループは日本とチヤイナの古美術には殊の外の尊敬を払い、殊に日本古美術を敬服研究して居たのである。日本古建築の構造美、戸障子や畳のマーケツトフオームの規格化、材料美の尊重、等は彼等に理論的、実践的な根拠を与えた事に重大な意義を持つものであり、その点タウトも同一の事を語つて居た。

然も彼等はこれを精神的に採入れて、外形上の模倣に陥らなかた事は逆に日本古文化継承者たる日本人の吾々に厳しい教訓を与えて居る事を覚知せねばならない。

近着アメリカ雑誌 Hous & Garden 1952年4月号所載のホノルルのジユツド邸の如き日本建築模写の建築を見た時の日本建築家の受ける感じも忘れてはならない教訓であろう。

ロースの作品は筆者ウイーン滞在中に見せてもらつた事があつたが、色彩は黒と暗青色が主調となつて居た、装飾めいたものが全然なくて非常に冷厳な感じであつたが、スツルナードとフランクの傾向はこれ程徹底したものでなく、ウイリアム・モーリス系の感じで、日本で云えば多少下手物工芸めいたところがあり、伝統形態は多く取り入れ乍らその表面装飾丈けを取去つた様な傾向である。

之と較べるとノイトラの作品はむしろロースの傾向が濃く、これは構造方面に主として興味を持つた彼の青年時代の傾向から見て当然であり、然も造形的傾向は単なる理論以上に人間的な血が流れて居るのが感ぜられ、時にコルビュジエを凌ぐものがある。

画家から出発したコルビュジエの作品に、その理論にも似合はないもの、或は理論負けの様な点が時に顕われるのと、ノイトラが厳正な建築構造から出発して之に人間の温か味を添えて居るのとを比較考察する時に絶妙な作品上の差が感ぜられるのである。

写真で見るノイトラの作品に時に厳しさを感ずるのはロース的要素の働きと見られる。

カリフオルニアの気候は温度に於て日本に似、温度はズツト乾燥して居るが、大体の日本建築の基本要素は同地に適合する処が多いので、相当長い軒の出に開放的な構造は彼に良い参考となつたと思われる。

冬季の厳しい寒さと戦はねばならない中、北欧よりもの日本建築により近いものが生れるのは現代建築の考え方からして当然であつて、自然と建築との接近感が強く働くのも当然と云えよう。

彼の作品の感じはロースより温かく、フランクとスツルナードよりも現代的で、より明るい。

近代建築と近代工芸の生みの親の1人たるヨセフ・ホフマンから最近“ノイトラの近作を見て世界第一人者たることを認めた”との手紙があつたので、彼は“私をいつも排撃して居たホフマン教授からのこの便りは私を最もよろこばせた”と語つて居た。

又最近の報道によれば、墺国グラーツ大学の名誉教授に推薦されたそうである。

かくて彼は申し分のない境遇にあるが、近時非常に健康を害して居るので、令息——青年建築家——に仕事を譲つて引退したいというのが彼の今の念願だそうである

（筆者　京都芸術大学教授）

ノイトラ的・ライト的

村野藤吾
TOGO MURANO

アメリカの新興建築はニューヨークやワシントンやボストンからではなく、西から―シカゴ以西―而も高層建築（例外はある）でなく、主に、住宅から興つたと云われて居る。何故か、ヨーロッパでは近代的な住宅は富める階級のものであるのに対し、アメリカでは国民一般の傾向であることも重要な原因である。初めはミシガン湖周辺から、西漸して、太平洋岸、殊にカフリオルニヤはその中心であるかの観がある。サリバン及びライトとその影響、之れに対する、ノイトラ及其の影響が支配的であつたことは云うまでもない。ライトの影響の国際的なこと、当時欧州の若い国際建築達への影響殊にオランダに及した影響については普く人の知るところである。然るにライト的傾向の及ぼす限りに於ては、彼のあまりに個性的な、情熱的な作風に対し建築家達は寧ろ無批判でさへもあつた様に思われるのである。ペレー・レーベンス、其の他の建築家達によつて19世紀的な建築上のロマンチシズムは一応の終止符が押され、次で現はれた、コルビジエ、ライト、グロピウス、オウト、ファンデルローエ、其他一連の国際的な建築家達によつて次代の建築が用意せられたのである。

かかる建築運動のなかにあつてライトの貢献は建築に於ける第三次元への発展であると云われて居る。然るに彼れの個性的な、あまりに天才的な傾向に対しノイトラの地位は対照的な意味に於て正しく重要であると思う。(註 Toword an organic Architecture の著書)Bruno Zevi はライトの傾向に対し若い建築家達が指摘して居る欠点を次の様に述べている。

1. ライトの設計した住宅は時として暗く、光線が不足して居ること。
2. ライトの装飾は過剰にして趣味性の浪費であること。
3. ライトの設計した住宅のあるものは外観が野性的に誇張されて居ること。（野性的と云う意味は材料及手法を意味する）
4. 重そうな庇が長く突出して居ること。
5. ライトは彼自身あまり家具の設計に関係しない。仮令設計することがあつてもそれは不便である。之れに反し最近の若い建築家達は自から合理的な家具の設計に興味を持つて居ること。
6. ライトは何でも一つの形態にまとめることを喜ぶ様な傾向があること。例へばある住宅が60°乃至120°の角度（Paul Hann's Hous）でプランを作れば、外観はもとより家具や便所までも同じ形でまとめると云う様なことをする。

大体以上の様な意味のことを挙げて居るのを見るとノイトラの地位及び彼の作品がライトのそれに対し如何なる傾向にあるかライトを語るものは当然ノイトラを対照として語らざるを得ないことになるのである。もとより最近の傾向は、ライトもノイトラも変化して居る様であるから必らずしも、Bruno Zevi が指摘して居る通りではないが過去の作品に於ては大体その通りであると云つても差支ないと思う。

ノイトラは窓の天才である。そして、彼れの使用する材料は凡そライトのそれとは反対の様である。彼れの窓は薄く且つ解放的であり、彼れの使用する材料は金属的である、仮令コンクリートを使用しても軽快であると共に一応科学的に合理的なところがある。（ライトの帝国ホテルの玄関の上の庇と対照せよ）彼の手法及び傾向はライトのそれに比し著しくヨーロッパ的である。

元来、アメリカとヨーロッパとの間には――人間と環境又は自然との概念に於て――根本的な相違があると云われて居る。斯かる相違が、即ちヨーロッパに対するアメリカの相違が、サリバンやライトなどの作品に於て、又材料の選択やその手法に於て、ヨーロッパの建築家達のそれとは違つて、著しく、アメリカ的な傾向となつて表現されることになるのである。然るに、ヨーロッパ的な傾向に於ては、材料は寧ろ二次的に考えられるのではないかと思う。それよりも、形態、――内容の表現としての必然こそ人生の為めの結界として発展し、材料は、構造及び材料自身の持つて居る理念の表現としてのみ現わされるに過ぎない。自然ヨーロッパ的傾向としての建築的理念は、純粋の追及となる外はない。蓋し、凡ゆる経済財の窮極に於ける表現は、社会的平均の姿である。物自体の個有――その属性からの解放である。建築も亦1個の経済財である限り、其の、窮極の姿は、社会的な平均作用を受け、必然の結果として、社会的な抽象形態として理念されて追及される――環境及び自然条件の制約から解放されたる――純粋ならざるを得ない結界として表はされるのである。かくてライトとノイトラとの対象は、正しくアメリカ的とヨーロッパ的との相違ではないかと思う、ノイトラの作品に於ける地位も亦かかる意味に於て重要であると思う。

記録に拠れば、ノイトラは1892年ウインに生れ、1923年即ち彼が31才の時にアメリカに移住して居る。1923年はペレー、がラーシーの教会堂を建築した年に当りヨーロッパに於ては新建築運動の初期に当つている。

昨年8月号(？)のArchitectural Record にヘンリーヒッチコックは、"The Internastional style 20 year's after" と云う題で興味ある論文を書いて居る。彼は1929年 Record に "New Pioneer's" と云う題で1920年代の初めに於て、ヨーロッパに於ける新建築運動の業績についてアメリカでは最初に紹介したのであるが、その当時は未だ一般の注意を引かなかつたと云つている。1920～30年前後に於けるアメリカの建築界は所謂高層建築ブームの時代で、非常な勢で高層建築が建てられたのである。初期に於ては、ゴジック（ウールオース）及びイタリアンルネッサンス（マッキム、ミード、ホワイトの活躍）等、所謂様式選択時代から、シカゴトリブユンの懸賞競技を契機として（此の競技に於て1等レーモンド、フッド、2等サーリネン、グロピウスや筆者と同級の峰君も早稲田からイリノイを卒へて間もなく応募しハーフダーンで而も選外に当選して居る、サーリネンの2等の設計案は其後、アメリカの高層建築界に一様式を作つた様な観がある。）

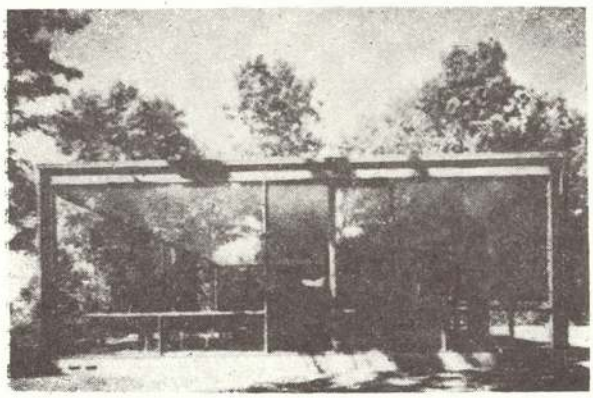
高層建築の様式にも漸く、選択時代を脱しようとする傾向にあつたが、而し未だ、ヨーロッパに於ける新傾向とは著しく異つて居たのである。その当時はライトなども実際建築の設計よりも寧ろ雑誌への寄稿を以て、自己の考えを発表して居たのである。その頃 Architectural league の年次発表に選択する建築に対し不満を有して居たアルフレッド・トバル（ニューヨーク近代美術館理事）の依嘱で、ヒッチコックは、フイリップジョンソン（昨年 Forum に、自作のグラスハウス——四方ガラス張りの自宅を発表して居る——）と協同で、1931年、国際建築展示会（The International Exhibition of modern Architecture）を開き同時に、ジョンソンと協力して "The International style Architecture Since 1922" と云う本を起草し、その本の1932年度版の抜萃を引用して其後20年間に於けるアメリカに於ける国際建築の発展に対する展望を述べて居るのがその大様である。彼は、その論文の一節で次の様なことを述べて居る。曰く、建築の新しい概念として mass よりも Volume を、幾何学的均衡よりも秩序と共に、個性の応用によつて、International Style を形成すると主張して居るのである。

又、此の展示会には4人のヨーロッパの建築家、グロピウス、コルビジエ、ファンデルローエ、オウトの作品の外特に、ライト・レーモンドフッド（Raymond Hood シカゴトリブユウンの懸賞に1等当選、其後マック・グロウヒルビル、デリーニユウスビル、ラヂオシチー等に関係す。レスカゼ（Les Caze 1920年以来アメリカに住む）ノイトラ、ボウマン（Bowman）兄弟（兄弟につきては其の後消息なしと云わる。）等5人のアメリカ建築家の作品を参加せしめたことを書いている。それによればノイトラは、アメリカ移住後8年にして当時アメリカに於て既に新進建築家として認められて居ることがわかる。（1930 〃AMERICA〃 をドイツより出版）

先般の朝日講演に於て、彼の作品を美しいスライドによつて見せて貰い、又、親しく彼の講演を聴いたのであるが、彼の用いる自然と云う言葉の意味は、非常に開放的な硝子面、単純な外光、外景と住宅との関係の様である。此の点いくらか哲学的な考えを加え勝な吾々の自然観とは、例えばアメリカとヨーロッパとの相違の如く、人生と環境との概念に於て、相違することは致方がないことである。昨年東京に於て、彼は、アメリカ建築界に於けるライトの影響に代り、ニーマイヤー及アルトの影響について語つたと聞く、むべなるかな、最近に於ける彼の作品にも往年の純粋性が形を変えて居る様に思われる。ヒッチコックはシカゴに於けるファンデルローエの作品—アパート—及、マッサチユウセット、テクノロジーに於けるアルトのセニアーハウスについて、国際建築家としての両者、作風について書いて居るが、殊にアルトを意識的にハーバードに於けるグロピウスと彼の学生達の作品に対照せしめて居ることは興味が深い。それと同時に純粋其のものの様なファンデルローエの作品への追求に対しニーマイヤの作風を対照せしめることは興味なしとしない。

註：此の原稿は旅行中に書き上げたもので、記録、年代、其他の点について誤があるかも知れません。幸に読者の叱正を得れば幸甚です。

（筆者、村野・森、築建事務所々長）



←写真はフイリップジョンソン作のグラスハウス

同行三日の記　Neutra 氏への理解のために

増田友也
TOMOYA MASUDA

1.

Richard J. Neutra 氏が京都に着いたのは、1952年5月9日の早朝である。

来客達のむれが慌しくとび出して行つたあと、それにやや遅れて、白髪の老建築家が、巨きな身体の重みをそのひと足ひと足にかけて、ゆつくりと歩いてきた。

まつすぐに向けて、動かぬ視線の逞さのせいであろうか、身体のどこかに不安定な感じがあつたが、それは寄りそつた、ほそい Dione Neutra 夫人によつて支えられているかの様であつた。

改札口を出て少し来ると、うしろでばたりと扉のしまる音がした。Neutra 氏はそこで一寸立ちどまつて、大きな息を二つか三つか吸い込んだ。そうして胸をはつたその姿勢のまま、まつすぐに、しかし乍らやはりまたゆつくりと歩いて駅を出て行つたのである。

その間に土浦夫人が、赤帽から荷物を受け取つていた。そこえ、はじめて私達が近づいて、挨拶をした。

駅前広場のまん中では、Camera をかまえた Neutra 氏が、朝日を浴びて立つていた。その camera の金属と、彼の白髪とが共に美しく輝いていた。すこしはなれて Dione 夫人が、やはりその眼を Neutra 氏の全身に向けて、しづかに立つてまつていた。

2

日本のことばは何故あんなに柔いのだろう、とはじめ私はそれを呟きとして聞いていた。

ごく簡単な朝食をすませると、まだ Schedule もきめてしまわぬうちにもう立ちあがつて、心臓をわるくしていると言うその身体に何かがのりうつつているかの様にも見えるのである。階段を二つおりては立ちどまり、また二つおりては息を吸う、そう言う歩き方で、玄関をひと足踏み出すと、口をついて出た質問がこれだつた。

あれは日本の詩になにか関係でも有るのか、と重ねて訊いてくるのであるが、私が黙りこんだのは、その質問の唐突さよりも、それが一体何処で建築につながつて居るのかと、それを考え込んだからである。答を探していたからである。

京都の宿屋で Neutra 氏は、何を見、何を感じたものであろう。畳と、木の天井と、土の壁と、襖とさうして白い紙障子と、これらのくらさはもちろん西洋の中世ではない筈だし、これらの明さは猶のこと今日の America とも縁遠い、それ故この老建築家は、息をひそめて聞いていたのか、日本のことばを。

言葉をしづかに話すのは、日本の courtesy である、と土浦夫人が答えていた。courtesy, そう、それは、まさしく日本の慎みに通じることには相違がないが、そう言う答でさえも、すでに私には出来ないのである。誰が私達の周囲で日常、さう言う慎みぶかいことばを話すか。

あの鋭い Neutra 氏の眼が、ふと私の眼を遂つた。

3.

紫宸殿の東の階の中ほどで、立どまつて Neutra 氏は、高欄の笠木の端の反りをゆびさしていた。これは曲つた木で造つたものか、それともまつすぐな木から刻み出したものなのか。笠木の反りは箕甲のたるみや軒の反りにも照応すべきものではあろうが、それを簀子縁で見る場合、あまりに対比がありすぎる。あたりはすべて直線の直角的な構成ばかりである。ただひとつ見上げる軒うらの隅の反りを除いたならば。けれどもそれは、受けとる私達の眼に、異質なものとは決してうつらない。そこだけがぽつかりと、例えば紙燭をともしたように、そんな明さが胸に通つて来るのである。或はすでに亡びさつた王朝人の憧れが、そこにかすかに息吹いているのかも知れない。そうしてそれを Neutra 氏が、するどく感じとつて、訊いたのでもあろうか。

もちろんそれは太い木から刻み出したものである。純粋なものはこの様に、必ずしも安価とはかぎらない、と答えて彼の太い眉を見ていると、そこがぴくりと動いて、肩をすくめて、にやりと嗤つた。そうだ、単純なものは、必ずしも常に経済的であるとは限らない、そう言つて、なおうなづき乍らおりて行くのであつた。私はむしろ、van der Rohe の Farnsworth House を憶い起していたのである。

ところで日華門を出て、小御所の内苑にはいる門の手前で、その門を額縁とした緑の池泉に camera を向けたのは土浦夫人。Neutra 氏はふとふりかえつて、潜りかけたその門を、も一度外え歩いてきた。そうしてそこであの巨きな眼を光らせて、はるか御常御殿えの perspective を確かにそこに定めておくかの様にしておい

て、自らまたその perspeclive の中へ、ゆつくりと歩を運んでゆくのであつた。御学問所の軒樋と、御常御殿の軒樋との形の差異が、それらを含めた空間の全体的統一を妨げていることを指摘したのである。

4.

Dione 夫人は、そう言う Richard Neutra からは、何時もはなれて歩いていた。少しはなれているだけで、注意ぶかい視線を絶えずその全身にそそいでいた。丁度それは、Neutra 氏自身の影かのように、私達には思われるのである。桂離宮の庭苑では、私達もまたそれに倣つた。

けれども螢橋を渡つて、荒磯伝いの飛石に、Neutra 氏がふと立ちどまると、Dione 夫人はすぐその夫に寄り添つた。どう言う sign があつたのか、または二人で同時になに事かを発見したのか、それさえ知らずに私達のは、言わばただはなれているにすぎなかつた。

彼の遥い視線が庭の一方から、ゆつくりと他方に移つてゆく。その眼のいろが、するどくさえるとそのたびに、まるで彼の足もとから、力が消えてゆくかの様だ。そうして恐らくその印象をであろうか、呪文を呟く僧侶の様な早口で、とめどなく、何ごとかを呟きつづけているのである。夫人はそれを聞いている、聞くと言うよりそれらの言葉を、心の何処かに刻み込んでいるのである。

所謂天の橋立を前にした、この小宇宙の中には、苦難の道を伴にして来た一組の老夫婦のほかには、なにびとも踏み込む余地が無さそうであつた。

暫らくそうして立つていたそれが終ると Neutra 氏に、急に疲れがあらわれた。木蔭の一つの立石に腰をおろすと、そのまま動かなくなつた。Donie 夫人はただひとり石橋をわたつて松琴亭の前に出た。私達も夫人に随つた。

ふりかえると、巨きな新樹の蔭に居て、Note を手に身動きもせぬ Neutra 氏が、そのまま一つの庭石になつたかの様に見えていた。それに較べると Rodin のあの考える人の像さえもが、私には嘆舌な姿とも思われて来るのであつた。

うすぐもりのにぶい光が水面に漾い、石組の上をながれ、石に化つた Neutra 氏の足もとになづさいゆれていたのである。

やがて立ち上つて、しかし白川石の石橋の手前で、ぐらりとなつて立石にその手をかけた。そう見えた。橋を渡ることが出来ないのか、と私の声は少しかん高かつた。いや、石が多くて、あまりに石が多いので、と Neutra 氏の声はしづかにひびいてきた。しかしその眼は、むしろ歓喜にあふれていた。

5.

5月10日。

参宮線は可成り混乱していた。

Neutra 氏と Dione 夫人とは、乗り合せた女の児と、しきりに微笑み交わしている。作家としての stiffness が、何時の間にか消えていた。いく度も、腰を跼めて、背をまるめて、白髪のやさしいお爺さま、それがむしろ Neutra 氏の本当の姿であるのかも知れなかつた。そんな気がした。そうして却つて私自身、欧州の山ぐにを旅しているかの様な錯覚をもつた。

三輪で四つの席が取れると Neutra 氏は、pocket から黒い眼帯を取り出して、それをかけた。こん度は魔法づかいのように見えた。そうして忽ち建築家 Neutra 氏にかえつたのであつた。

宇治山田に着く迄は、そうして彼が睡つたのか、それとも何ごとかを考えつづけていたのか、私にはわからなかつた。

今にも雨が降りそうだつた。

外宮の深い杉木立の参道は、湿りで空気が重く、冷たかつた。待ちかまえているものの、異常な感動の予感を、それは与えていた。まことに不思議な approach である。

それ故神楽殿の幕の濃むらさき、その前に餌を拾う白い雞、その雞冠、それがあざやかに、神の姿を現じたものででもあろうか。Neutaa 氏は立ちどまつて、その清らかな、小さな生きものを、喰い入る様に見つめていた。

これは何する建物か。

神にささげる sacred Dance のための建物である。dance, 何と言う騒しいひびきをもつたことばであろうか。

Neutra 氏は、考え込んだまま、ゆつくりと歩きはじめた。

けれども愈々一歩宮居に足を入れると、ふたたび動かなくなつた。しばらくじつと、それはその感動に堪えながら、あざやかな印象を、みづから胸に刻み込んでいるかの様に見えていた。

そうしてやがて拝殿の裏の柵に歩み寄つて、それにもたれて、正殿を中心とした空間のつよさをしづかに見つづけていた。私達は、そこでもはなれて居たのであるが、Dione 夫人は、彼のうしろに立つていた。

またしても、呪文の様なあの呟きが始つたのである。それを夫人が聞いている、やはり一生けんめいに。

それが終ると、今度は西の木柵に、その位置をかえた。そこで Neutra 氏は Sketch book をひらいていた。夫人は横から crayon の箱をひらいて手渡していた。それらは厳かな pantomime であつた。

私は急いで神宮の座へ近づいた。そのあし音に Neutra 氏は、私の方をふりかえつた。私はその白髪の西洋人の名と職業とを、そうしてその位置とを、早口で説明したのである。幸いにして諒解を得ると、向うの方から

Neutra 氏が、いけないのか、いけないのならやめるから、と大きな声できいてくる。いいのだとも、もちろん、と私の気持はしかしわづかに萎れていた。

Dione 夫人は、向うの塀の片隅から、眼で私に挨拶を送つてきた。

参詣の人がしばらく途だえた。

crayon の音が、かすかに聞えてくる様に、私は思つた。

ふと別な音がきこえた。その方え眼をやると、あざやかに、白い祭祀の服をきた一人の神官だつた。黒い帽子をかむり、黒い木沓をはいていた。正殿の前を前かがみになつて、西から東に、しづかに歩いて行くのである。

それが私に、何か異様に感じられた。

Neutra 氏は sketch をやめて、その神官のうしろ姿を、じつと見つめて立つていた。その姿勢が、神官の行つてしまつたあとまでつづいた、まるでそれは幻影を追うかのように、半ばは放心したかのように。

その神官の sketch が、帰りの車中で完成した。それを私に見せながら、この人間が、あの建物に住んでいる、と遥い言葉で説明した。

八木の辺りで雨になつた。

耳成山がその雨に烟つて、ひようびようとはてなくひろい大和盆地がひろがつていた。

6.

奈良では、激しい雨に、風さえかなり吹いていた。駅も通りも、とりみだした小さな旅行者達で、混雑していた。

そこを通り抜けると、この季節なら、いつもは明るい芝生なのだが、しらじらと雨に沈んで、それが緑青いろに光つていた。

そうしてそのまん中あたりに、まつ赤な洋服を着た、五つ六つの女の児が、すき透つたナイロンの雨傘さして、歩きなやんでいた。それを目ざとく見つけたのは、Dione 夫人ではあつたが、Neutra 氏も歩を止めて、心細げに見送つている。さき程から、その横顔に泛びあがつていた翳が、しづかに消えて行くかの様に、それに代つてやすらぎがほのかに頬にのぼつてきた。

或は雨の東大寺など、そのあたりから、木ぬれの上の重い甍と、金色の鴟尾でも眺めてすませておけば、その方がよかつたのかも知れなかつた。ところがどんな旅行記にでも書いてあるのか、Great Budhism Temple と、それをしきりに口にしながら、何処にともなく不潔さのただよう大仏殿にはいつて行つた。

果して東の廻廊で、まつ向から私に向つて、雨のしぶきを避けもせずに、伊勢神宮の建築家と、この大寺の建築家と、どちらが偉大だと君は考るか、と私の眼をのぞきこみながら、息はづませてきくのである。答えるまでもないだろうが、とおきまり通りに言いかかつて、私はふつとつまづいたのであ。

東大寺の建築について、これまで人が話す時、誰が一体現存の大仏殿など想いつくだろうか。この時もまた、私の想いは浄土寺の俊乗坊重源像をかすめていた。

え、どちらなのか、と問はいよいよ強く、急だつた。もちろん伊勢の建築家、と私はむしろ、おろおろしていた。そうだ、伊勢には確かに人間味がある、彼は昂然とそう言い放つた。

私は此処え来るたびに、constructive な鎌倉時代を想い描くのに、彼は外宮に古代の人間像を見ると言う。そう言う会話の行き違いに堪えきれなくて眼をそらせると、大仏殿の大屋根が、雨風に傾いていた、そうしてそれが何か滑稽で、いささか人間じみていた、末期的ではあるけれども。

鐘楼えの石段は、Neutra 氏にはかなりに難行だつた。それで素つた大馬酔木や、楓青葉の大小など、それをいちいち訊いたりし乍ら、のぼつて行つた。

けれどもその鐘楼も半ばは閉ぢられ、わづかにその軒下が私達には、ふりしきる雨を避けるのに格恰な休憩所であるにすぎなかつた。

しばらくたつて私はきいた、あなたの環境論も一読したし、又昨夜の講演もきいた、ところが建築家の取り扱ふのは、どこまで行つても物理的な空間、形と寸法との正確な空間にすぎないのではないだろうか。若しさうなら、そう言う無機的な空間が、どうして有機化されたり、又は生命感をもつたりするのであろうか。

うなづいてから彼は、じつと考え込んだ。

しろい無数の雨脚が、黄褐色の土をたたいて、しぶきあげ、にはたづみとなり、流れていた。

ややしばらくして、頭をあげた Neutra 氏が答えた。建築家が取扱う空間なり、壁面なり、光なり、又は音なり、そう言うものは純粋に物理的なものではない、建築家が見る壁、建築家がきく音、それらは建築家の頭の中で予想され、つまり建築家の主観によつて、はじめて意識の中に存在する、さう言うものを建築家が取扱い、そうしてそれこそ Europe の、正しい意味での、architect である。

7.

三月堂の前では、宿屋の揃いの雨傘をさした、七八人の青年達が、Neutra 氏を取り囲んだ。東京での講演をきいたという、それは学生達だつた。

彼らを前にして、Neutra 氏は毅然となつて、老将軍のように見えた。

激しい雨と風との中故、それはかなり感動的な場面となつた。

それにしても、そう言う記憶を生涯につみ重ねて行くと言うことが、こののちどれ程この青年建築家達を励ますことになるであろう。少くとも、建築家 Richard

Neutra氏の、この瞬間だけは、私達は、Sullivan の不幸を Sullivan 自身の中に感じる、あのやりきれなさから救われるのである。

二月堂から手向山神社へ、そこの縁先で、私達はみんな腰をおろして、口もきかなくなつていた。

境内は、ほとんど泥の水たまりで、それをたたいている雨のしぶきも、ほのじろいたそがれ時が近づいてきた。

何の樹であろう、見馴れぬ太いかれ枝が、まつすぐに天に向つて、そそり立つていた。荒涼と言うよりは、一種凄惨な風景だつた。

けれども、漸く電車にのつたとき、疲れのためか、安堵のためか、かえつて誰もが多弁になつた。

christian church を考えて見よう。さつきの空間の問題だが、と Neutra 氏は、まづまつさきに口をきつた。われわれはあの会堂内部は、ただ単なる形、ただ単なる大きさだけでは感じられない。光、音、空気それから儀式、そう言うものや、木、ガラス、煉瓦、石、腰掛にかける人間達、つまりそこに在るすべてのものの、統一された全体として考えるのである。

それはそうに違いない、けれども私の言うのは、建築家の制作過程でのことなのだ。その故、私は不遜も省ず、このことだけは確めておきたかつた。いま例えば、光の効果を考える場合、それは物理的な、抽象的な問題として、空間を取り扱うほかないのではあるまいか、と言い乍らも、そう言う私は一体何ものであるか、建築と言い、建築家と言うものの理解のずれを、明治以来の西欧文化の断片的な受容の上に形成された、わが国の建築文化の、そのせいだけにして終へるのか。建築と言うものが、明治以降の概念であるならば、それまで日本に存在した、あの数々の優れたもの、あれは何と呼べばいいのか。

私の頭の中では、そう言う考えが、いつ時に渦いていた。

それは architect の問題ではない、それらの applied science の立場である。architectは、それらの applied science だとか、または science の結果を蒐めて、空間を構成するのである、とこの公式的な明快さ、しかしその意味を、正しく理解するためには、も早論理や概念によるのではなく、私達自身西洋に出かけ、むしろ生活することによつて、その風土を、その伝統を身につけて来るほかないのであろうか。しかしまた、よしんばそうであるにもせよ、建築をそんな狭い所え、ぎりぎりに、追いつめる必要があるのであらうか。

私は、いや私達は、少し疲れている。それ故話題が、例えば、日本舞踊と畳との音についての相互の関係、或いは着物と日本住宅との関係、などに変つて行つた時、やや落ちつきを取り戻した。

それにしても、an architect gathers its results, と言ふその仕方が、建築家の傲慢によつてでなく、却つてその謙虚さによつて、一日も早く私達の周囲に実現する様に、まず私達が努めなければならないと、私はそれを note していた。さうすると、その note をのぞき込むようにし乍ら、今朝の参宮線で、行きづりの女の児に微笑みかけた、あの表情で、面白い話を始めたのである。幼年時代の回想であつた。

その時彼は、ゆかの上に坐つて、枝のすき間の塵をゆびでつまんで食べていた。突然、二才の Richard が、何故ゆか板にすき間が出来るか、を考えた。

またそれと同じ頃、piano の上にのせられたとき、その位置で、始めて天井に intimacy を感じた、と言うのである。その時分の、彼の玩具は、あき罐とか、壊れた器具とか、建具、金物とかのたぐいであつたと言う。

最後に彼は、これから口にすることの愉しさに眼をほそめて、人さしゆびをふり乍ら、調子をとつて、ゆつくりと言つた。

I graduated all architectural courses at that time, when I was 2 years old.

この時私は、始めて Richard Neutra 氏に、近づき得たと考えた。

それに、その夕方、食事のあとで、河原町を歩いていて、Dione 夫人のした話も、彼えの理解に役立つであろう。それは、Neutra Jr. 君が、Forum 社員に、君のお父さんはあの Richard Neutra 氏かときかれると、昂然として答えたと言う。 Yes my father is the emperor of architect.

これらの事や、その夜おそく、宿屋の一室で、Neutra 氏が、横尾教授と私とを前にして、言つたことやらその表情やらが、一層彼に私達を近よせたのではあるけれども、それは今書く機会ではなさそうだ。

8.

5月11日

苔寺の苔に洩れ陽が金色である、と言ふのも、Danae 受胎の雨の説話も、ともに西洋の感覚であろうが、それには季節や時刻や、その他の条件があり、いつもそうとは限らない。

況して、ゆうべはよく眠れたか、ときくと、いや、眠れなかつた、とはつきり答える Neutra 氏である。私は少し不安になつたが、空はすつかり霽れているし、それに何よりも、西芳寺の朝は寂かであつた。そこにはかすかな、けれどもつよい水音が布置されて、永遠のひびきとでも言うものが、木立の間をながれていた。

そこで私は、智者は水を愛する、と言う。紛れもない東洋の感覚を、口にしようとしてやめた。

Dione 夫人も、土浦夫人も、少しおくれて歩いていた。そうして私のすぐ前の、Neutra 氏の白髪の、今は冴えて何と言う美しさであろう。それは単に、茶室の

exoticism に関心をもつ dilettante では有りえない、ただ一すぢに建築に、その全生涯を捧げつくしてきた真の建築純粋さを見せているのであろうか。

私もまた、少し Neutra 氏の傍をはなれた。

湘南亭からおりて行つた、池の東の小径に佇ち、中島への小さな橋の向うにある松の裸の根をゆびさして、Neutra 氏は、私を呼んだ。見給え、この庭園の設計者は、正しくこの根を配置している、そう言つて、その松を下から上へと見あげるのだが、それは別に手を入れてもいなさそうな、甚だ自然に近い松だつた。私は黙つてうなづいた。

Neutra 氏は重ねて、樹を植えると言うことは、植物学や土壌学や、それからその樹の成長なり、変化なりを予測して、そうして形のこと、風景のことに及ぶのだが、これらの樹はすべて、正確に取り扱われている、と言い足した。それからあの一列に、池中にならべた夜泊石を横にして、Dione 夫人によりかかるようにして、例の monologue がはじまつた。

これらの言葉が、樹を、自然を、建築のうちに見ると言うことを、若しも意味するものならば、あの竜安寺の石庭の、疑ふべからざる純粋さ、それを建築家 Richard Neutra 氏がどう見るか。

はれわたつた五月、その石庭では、むしろ明るい白砂の面が、宙に泛いて、その底に、くろい15の石々が、恰も水のすきかげに、かすかに揺れているかの様だ。

方丈の縁先を、上つたり、おりたり、そこに立ち、ここに坐りこみ、その位置ごとに、確かな姿勢をとつて、Neutra 氏は、きびしい意欲を見せていた。

何か息ぐるしい、私はそのたびごとに、彼が、息をのんでいるのを見た。この驚くべき空間に、それは宇宙のひろさをもち、永遠の時間をもつ、その空間に、Neutra 氏は、力をつくして、迫ろうと試みているのである。

その真剣なすがたを前に、建築の限界などとは、むしろ無意味に近かつた。

9.

西芳寺から竜安寺、そしてすぐ孤蓬庵へ、とこれは日本庭園史の、もつとも中心的な道すぢだと、私は思うのであるが、Neutra 氏はその部屋に入ると、すぐにその床の前で、床に背をむけ、どかんと座つて動かない。

camera を傍になげ出して、からの両掌は横にだりのその膝がしらを、摑んでいたのであるけれども、率直にこのことを、私の感じで言うならば、或はその時 Neutra 氏は、これら日本の感覚と、技法とへの執着を、も早投げすてたのかも知れなかつた。

そう言う危険さを、例えば利休の辞去にあるような、投げうちたくなる様な、紙一枚の危さを、確かにそれは持つても居るし、やがて、ごろりと腹這いになり、そう言う投げやりな姿態に、彼がなつたから、私はそう感じたのであろう。

それでも彼の鋭い眼は、逆光の障子の効果と、庭樹の布置とを測つている、喰いいる様に見つめている。それ故或は全く反対に、その不可思議な空間の魅惑と、まつ正直に聞いてながら、その正体をつきとめようと、眼を血ばしらせているのかも知れなかつた。

そう言う二つの正反対な考えを、同時にゆるすと言うのも、実は、ただ一箇所の、あれだけの紙障子のせいである。空間にある光の意味、その明るさとくらさ、見られるものと見るもの、これらの対立するものを、一つの空間で、あれ程の調和で、同時に果している例を、かつて私は知らぬのである。千年にわたる紙の歴史の、まさしくそれは一つの終点である。

開口の緻密な取扱ひに、関心ふかい Neutra 氏だ、私達はただまつていればいいのであろう、彼のこののちの空間的創造を。

10.

修学院へついた時、私はかなり疲れていた。あの健康そうな、土浦夫人も、少しやつれを見せていた。

しかし私達は、まだしも Home land でのこと。Neutra 氏は、ただもう建築家の、いはば執念だけによつて、旅の疲れに堪えている。

それなら Dione 夫人はと言えば、離宮の案内を始める時刻まで、まだ小一時間もあつたであろうか、茣蓙を事務所で借りてきて、青草の木蔭をえらんで、そこに敷き、自分の着ていた短外套を脱いで、それを畳んで、枕にして、そこえ Neutra 氏を横にならせた。

Neutra 氏は、例の黒い眼帯をかけると、しつけのいい子供の様に、そのままじつと動かなくなつた。

私達は足音をしのばせて、そこを離れて、弁当をひらいた。

1922年 Neutra 氏は、単身故国をはなれて、新大陸へわたつた。Chicago Tribune 社の、建築競技設計の前年である。Dessau の Bauhaus が1926年、その翌年には Corbusier の、国際聯盟会館案が発表された。F. L. Wright の、欧州への最初の紹介は、1910年頃ではあつたが、猶 America は、一般には、欧州にとつては、未知の土地にすぎなかつた。

それからあの優美な、Light Construction が、木造住宅の一つの典型を完成する迄、建築家 Richard Neutra 氏の、最初の苦闘がつづくのであるが、一年おくれて渡米した、夫人の場合には、それはゆるぎない尊敬と、愛情にみちた日々であつたに相違ない、今なおそうである様に。

中の離宮で経師屋が、襖の下貼に使うと言う厚手の和紙に、霧ふきかけ、その縁を竹べらできりつけて、それを手でむしりとつていた。それは貼り合わせた時に、そこが重り、そこだけがほかより厚くなるのをふせぐ為だ

(39頁下段へ続く)

RICHARD J. NEUTRA について

徳田　頴
EI TOKUDA

私には Neutra 氏を紙上紹介する資格はない。だがそれでも知識慾にもえる前途ある若い人々に、アメリカ建築研究に専心する私が誇りやかに伝えたかつたからである。

いうまでもなく、Neutra はアメリカの代表的建築家であり、又世界でも著名な建築家である。長身であり、建築えの熱情に輝く瞳をもつ彼は明晰であり、暗示的であり、機智に富んでいる。それは卓越した芸術家を想起させるのがある。

さて、1893年といえば、シカゴにおいてアメリカ発見400年記念の博覧会が開催された年であり、アメリカ浪漫主義建築は絶頂に達し、折衷主義建築の萌芽をみた時代である。Richardson は没し、Wright は若く、Sullivan を中心として、Burnham, Holabird, Root, Roche 等がシカゴ派を形成し、欧州の建築界と対抗していた。即ち欧州依存というアメリカ建築が、漸時自国的な性格を表しはじめた。Neutra の生誕したのはシカゴ博覧会開催の前年、1892年4月であつた。生誕地は古典都市ウイーンで、1923年アメリカへ来朝している。在欧時代の Neutra については、その詳細を知る由もないが、1919年よりアメリカ来朝までを、スイスで建築家として、又都市計画家として過している。更に彼の性格をいろどつている芸術家的色調は、おそらく該時期に身につけ得たものであろう。アメリカでは、始め Holabird & Root 建築事務所に入所し、その後 Wright 建築事務所でも仕事を残している。然し彼の活躍した主舞台は西部海岸地方であつた。即ち1926年以来、ロスアンゼルス、サンフランシスコ等を中心に、住宅事務所建築に才能を惜しげもなくそそいでいる。かくして1929年にはアメリカ永住の決意をかため、帰化してアメリカ人とはなつた。その後の彼の活躍にはめざましいものがある。即ち多数の懸賞設計には入賞し、又住宅問題の権威として社会に貢献するところが大であつた。1943年以来、ハーバート、プリンストン、コロンビア等の各大学で講じ、又メキシコ、日本、スイス等の各国に招待され、建築思潮の発展に可成りの影響を与えてている。

ひるがえつて Neutra の作品について述べてみよう。それは住宅建築を中心とするのであるが。というのは Neutra は現在、Entenza 主幹 Arts & Architecture 誌のスタッフの一人である。殆んど毎号該誌に彼の作品が掲載され、我々に最も親しみ易いからである。そして我々は彼の作品を通じて、機能主義とはただ単に単純化を意味するのではなく、複雑な中にも調和をもつ美しさであるということを認知するのである。それは洗練された住宅美である。更に又、我々は彼の自然趣味に驚く。それは東洋的風格すらもつている。即ち住宅の背景としての庭園に、自然石や木草を巧に配し、人工的でない自然の美しさを表している。人間生活と自然との調和、我々は又、そこに彼の建築家としての、ヒューマニズムを知る。それは自然に深い愛情をいだく日本人の心に、ある親近感をもたらすのである。極言すれば我々が Neutra に深い親愛を感じるのは、彼の風格と、彼のこの自然を愛する心であろう。

過日、Neutra 氏は日本建築協会を訪問され、一場の講演を試みられた。深い生き生きとしたスピーチの片々に国際的性格をもつ建築は、建築家の感情的対立ではなく、愛情に基く即ち芸術を愛し、そして人間社会に幸福をもたらそうとするヒューマニズムによつてのみ、理解し得、又人類文化に貢献し得るものであることを実感する。そして建築家自身の過去に対し現在に対し深い複雑な感情と自省を与えて下さつた氏に、限りなき尊敬と愛情を注ぎつつ、ペンを置きたいと思うのである。

（阪大、文学部、西洋史研究室）

〔38頁より〕

と言う。Neutra 氏はうなづき乍ら、注意ぶかくそれを開き、その職人の手もとをじつと見つめていた。

そう言う Neutra 氏である、修学院棚には、かくべつ注意も払わずに、かえつて庭先の細い流れが岩組に、水紋の反射をなげて、それが漂えているのをゆびさして、そのせせらぎを聞けと言うのだ。

瞑じつめると、自分の眼で見、自分の耳できく、と言う根源的な、それ故空気の様に平凡な、そう言う世界に Neutra 氏の全作品が、一大王国を作つているのではあるまいか。

上の離宮も Neutra 氏の、あの健康では無理だつたが、案内されて行く course を、これは逆だと言い言いして、それでも全部歩き通したばかりでなく、高野川沿いの帰り途、も一つ見やうと言うのである。

やめた方がいいように思う、と Dione 夫人が控え目に、夜汽車のことも言い足してとめたのであるが、Neutra 氏はきかなかつた。

それで最後に、おそらく今度の Neutra 氏の東洋建築行脚の最後に、銀閣寺まで行つたのである。

私達はその庭で、立錐の余地ないばかりの観光団体のひしめきを見た。耳のいたくなる程の、拡声機のおしやべりを聞いた。そうしてそのほか何も見ず、何も聞かずにそこを出た。自分の耳に綿の栓した Neutra 氏だけは、案外そこで、ありのままの日本を見たかも知れなかつた。

（筆者、京都大学助教授）

NEUTRA & AMERICA

林野全孝
ZENKŌ HAYASHINO

1. とびら

Neutra の講演会は、その後いろいろの話題をなげた。感激した人は、何に感激したのか明かにしないし、アラさがしをする人は、では自分ならどんなものを建てるかを明かにしないけれど、実際に彼の作品を見ず、又あちらの生活などもわからずに、良くこれだけの話題が出たものだと私自身常々感心していた。ところがこの私に何か書けとのことである。無論私は Neutr の作品など実際に一つも見たことがないのに、全く驚き入つた次第である。大いに発ブンして、得意の心臓をもつて筆をとることにした。副題を“Neutra 知らざるの記”として、あえて諸大家の御批判を乞う。

2. 一つの疑問

Neutra の講演のテーマーとなつていた自然との融合ということ、この中に我々の予期していた日本の自然趣味との対比がなかつたけれど、恐らく自然趣味とは全く逆な意味での話であつたと思う。我々の自然趣味は、自然への逃避であるが、彼のいう自然との融合とは、どういうことなのか、只ガラスのハコ家を山の中に置くだけではないのだろう。しかし講演そのものがこの点はつきりされていなかつたように思う。

ガラスバコを山の中に建てることは、すでに30年も前に Neutra や他の人達によつて実施されている。例えば1929年に California の山中に建てられた Neutra の“健康住宅”を見ても、自然にとけこもうと努力していることがわかる。無論今日のものと比べれば、横長窓照明装置、Privacy の確保、などに相当の古さが感ぜられるけれど。そして、材料と設備の発達は、ますます自然への融合を可能にしたのだろう。けれどそれは恰も動物園の動物小舎が、みんなに見えるように、反対に動物の方も我々を観賞（?）し易いように、ガラスケースが用いられているのと良く似ている。ただ動物が人間であり、対象が自然であるだけの相違。そして、それがオリではないこと。これだけで自然と融合したのだろうか?

このような傾向は、目下 America では盛である。Wright でさえ、この影響から逃げることが出来なかつた。

Ellwood, Johnson, Twitchell, Saarinen, (今は故人)、Rohe, 等々の建築家も、こぞつてこの方向に向つている。この傾向は Europe ではほとんど見られず、Rohe すら、America に渡つて始めて念願がかない、Fox River にガラスバコを建てた。

このガラスバコについて Rohe は言う。「引き算をし、消去しつづけて、一つの結晶を得た。これこそ純粋の美であり、その精神の昇華である。」と、そして又、「建築の中の人間は自由でなければならぬ。」と叫ぶ。もつとも建築の外での人間は自由であるかどうかは知らないけれど、少くとも動物園のオリよりは、はるかに自由であろうし、はるかに便利であろう。日本の動物園にも、ある種のオリは非常にモダンで冷暖房装置も完備され、動物は毎日、我々よりも立派な食事をしているのさえある。その動物はオリの中では全く自由である。

とすれば、ガラスバコと、自然との融合とは、一体どんな関係があり、何のことだろう。

3. その起リ

このような傾向——新環境主義と日本の一部の人は言う——は、設備のすばらしい発展におうところが多い。Haskell は、「一世紀前に構造技術家が建築を一新させたように、今日では設備技術家が建築を改新させている。」(“Beauty for US. Record, June 1948.) と言つている。しかしそれだけではあるまい。やはり米国の高度な資本主義の発達による経済力と機械化の問題も十分考えねばならないだろうし、今一つ、TVA の大自然改発工事成功の影響も、多分にあるだろう。

TVA は日本の土木、建築家を驚かしたように、やはり米国の建築家をも相当しげきしたのではないだろうか。Fairfield Osboru は「人間は自然との闘いを止め、協力することを学べ」といい、人間同士の協力と自然との協力を強調しているのは、TVA 建設の有様と比べ、なる程と思わしめるものがあるだろう。

又 Neutraは先日「自然的になることが最もむつかしい現代、しかも最悪の社会的条件のもとで、現代の建築家は失われた自然を人間の手の中に取りもどすという仕事に立ち向おとしている。」と言い、Haskell は、「大地を人間の住む美しい場所に変えることが建築である。」という。

彼等の課題である自然との融合、協力、そして大地の改善は米国では十分に芽生える条件があつて、しかも都市のごみごみしたところに嫌になつた人々によつて、ガラスバコは美しい山野に進出したのである。

4. ある解決

もちろん動物園のオリは、動物のために美しくするのではなく、これを見る人のためにそうする。又そのために動物は大事にされる。しかし住居は違う。住む人のために美しくし、住む個人の幸福と自由のために、建築される。だから住む人は、だれでも美しい自然を愛するし、も早壁にかけた風景画には満足出来なくなる。大都市のでたらめな発展は、どの都会人にもこの感覚がわいて来ている。しかしながら、住むためには大都市が必要

である。そこはなお働く場でもあり、生きるための品物をつくり、又売るところでもある。

この二つのむじゆんを解決するために、都市計画家はいろいろと考えた。或は大都市の立派な計画をたてたり、改造案を作図したりした。又ある人は田園都市を考えた。しかしこのぐずぐずした計画の実行よりも先に、都市の人達は、大都市の周辺へ樹木にあこがれて進出した。しかし今日米国では、ある人はこのような進出だけでは、どうにもあき足らなくなつてしまつた。

そこで更に強く自然との融合が促進され始めた。中沢誠一郎博士は、次のような解釈をされる。Neutra の自然との融合とは、第一に、米国の大都市否定論である。そして、自動車や道路のすばらしい発展が、この実行を可能にした。つまり、自然に返れ！とは「不自然な大都市を放れよ！」ということである。第二に、このような考えは建築家のみでは出来ない。注文主の考えもそうでなければならぬ。住む人が自然の中に居ても、それがイコール自然と融合したのではない。「自然の中に住んでもやはり大都市の生活が出来なければならない。」そしてこそ自然に返るのであり、自然に返る、乃ち自然を観賞出来ることなのである。それは又我々の当然の欲求でもあろう。

5. 問いと答え

しかし、自然に融合するための建物自体について、やはりいろいろの批判はある。

(1) 室内気温は満足すべきか、
(2) 軽薄ではないか、
(3) Rrivacy がどれ程保たれているか、
(4) 地震や大風大雨にはどうか、
(5) 経済的にはどうか、
(6) 都市、地方計画上はどうか、等、

最近 America より帰られた、生田勉氏は、Neutra の建築などを実際に見て来られて、窓についていろいろの見解をのべている。(建築雑誌 1952年2月) (1)、(2) について生田氏は次のように言つている。

これらの窓は、ほとんどがハメコロシになつている。しかし冷房は暖房程に行われていないので、夏は大変暑い。しかし彼等は気密性を尊ぶ。多分これは航空機の窓の影響であろう。汽車も大型バスもやはりハメコロシ窓になつている。気密性に対する国民性の相違でもあろう。又軽薄ではないかという疑問について、実際にはむしろ重厚ですらある。しかし、単純、率直の表れでもあろう。

(3) Privacy について、これは、カーテンとか、最小限の間仕切などで、やはり保たれてはいるだろう。しかし米国の建築マンガに、若い二人が風呂の脱衣室で服をぬいでいるのを、外からゆうゆうと眺めている男を画いている。問題にはなつているのだろう。

(4) 地震や風雨に対して、地方差もあるだろうが、概して日本程気にしなくて良いらしい。Weidlinger は「日本の構造 Engineer が、地震地震といつているうちに、良かれ悪しかれ一定の型にはまつた Rahmen Engineer に固りかけている」といている。(建築雑誌 1951. 11, 1952. 2, 1952. 5, 各号リーダイ社批判論争参照)

(5) 経済的には、例外かも知れないが、Rohe の Fox River に於ける小住宅のごとき、実に5ヶ年の日時を要していることから見ても、又、このような建築が当然に、Eir Condition や多くの機械設備を要することからみて、ずい分高価なものであろう。又住む人も、田園や山野から都市まで自動車でわずか2時間？しかかからぬとしても、それはもう余程高度の生活を示すものであろう。(6) はかつあいする。

6. 余　　聞

一寸大げさかも知れないが、Neutra 氏の講演よりもむしろ有名(?)になつた滝沢教授の閉会の辞を、結論の前に紹介したい。

「今夕、Neutra 先生は、25年ぶりに、ノイ(新しい)トラ(お手本)を呈供して下さつた。さき程から、さばくに家を建てるとかいう話だが、何と申して良いか…。

戦後日本は四つの島にとじこめられ、人口密度は米国の4倍、全くさばくどころではない。この現実は何ともいたしかたがない。ところで最近、国連本部のそばにすばらしい貧民アパートが建てられた。このアパートに住める資格は、月収200ドル迄の方で、それ以上の人は残念乍らおことわりすることになつている。

月収200ドルといえば約7万円である。7万円以上の月給をとつている人は手をあげて下さい。……見わたしたところ手が挙らないようです。皆さんは貧乏人の資格がある。このような日本の経済事情で、Neutra 氏が度々 Air Condition (空気調整) といわれたが、日本の Economic Condition ではどうにも手のほどこしようがない。

Now Mr. Neutra, Air Condition is very hard fow us, becouse of Economic Conditions.」

笑声と拍手の内にこの閉会の辞が終つたのだが、そのあとで、滝沢先生が再び Neutra 氏にこの話をしたところ、Neutra 氏は「そうです、たしかに Economic Condition にふれなかつたのは私の手落でした。しかし、Economic Condition が悪いからといつて建築家が何もしないで良いというわけではないでしよう。」といつたそうである。

ところが、この閉会の辞をきいたある工高の先生が、若い者が折角美しい夢を見ながらこの話をきいていたのに、すつかり閉会の辞で夢をふつ飛ばしてしまつた。全くけしからんことだ。とふんがいされたとのことである。

7. むすび

閉会の辞にあるように、日本では全く夢のような話である。美しい夢を見ながら聞いた人もたくさん居ただろう。だからといつて夢だけで終つて良いわけでもない。かつて我々は大東亜建設という夢を見せつけられて、大変なめにあつたこともある。なるほど、とやかくの非難はあつても、ガラスの家は美しいし、設備の優れているのは、優れていないより良いにきまつている。又不自然でさわがしい大都市の中より、静かな美しいところで、しかも大都市の生活が出来るなら全く夢のようにすばらしいことだ。

だがしかし、America に於て、このような夢がどれだけ実現しているのだろうか。

AFL のスタッフである Harry Conn は "New Republic" 誌に米国の住宅事情を訴えている。(扇田信訳、紹介) これによると、米国3940万の非農家住宅の中、約1/3の1170万が不良住宅とされ、(尤も日本とは規準が違うかも知れないが、くわしくは知らない。) 又非白人は離隔された地域に住んで、さらに極悪の状態にある。住宅の建設はいつこうに渉らず、予算もずい分減ぜられている。又一方家を建てようとしても、普通一軒が15,500弗 (シカゴ地方) もかかるので、年収4000弗以下のアメリカ人 (全体の72%をしめる) にとつては、全く無関係に等しい。他方復員軍人や現役軍人家族、或は産業住宅の不足も大きい問題となつているし、国防生産法は更に住宅の建設を困難にしている。

このような事情にある米国の建築家 Neutra 先生は、「自然に融合せよ、月や砂ばくに家を。」と言つておられる。地球の上のことのみでない、御本人のお国のことも解決されそうもないのに、と思うと先生の話はナンセンスな御神勅のようなものにもきこえる。

「建築家にとつて最も大切なものは生命の営みであり、humanism である。」と Neutra 先生にいう。又 Rohe は、「建築の中の人間は自由でなければならぬ。」という。たしかに立派なスローガンではあるが、humanity といえ、自由といえ、どうも彼のいうような建物に住み得る人にとつてのみのそれであるように惟われる。

Netura は「中世紀の寺院や宮殿は、無制限な金と時間の上に建てられた」というが、今日の humanism の建築は、無制限な金と力を持つ人の上に建てられているのではなかろうか。

なるほど大都市は不自然で、きたない。しかしこの不自然なきたない大都市を造り、その中で住ませ、働かしたのは一体たれだろうか。むしろそうして来た少数の人達が自分の造つたものに恐れをなして、自然へさつさと逃げて行つたのではあるまいか。そして大建築家ともあろう人が、皆その人達の御用をのみつとめているようで、一体そのあとに残された大都市の人達をどうするつもりだろうか、この中には、harry Conn のいうように、不良住宅と住宅不足がひしめきあつている。この人達の上を考えずに humanity も自由も無く、自然との融合も亦絵に画いたごちそう程の価値もないだろう。

(筆者　大阪市大滝沢研究室)

ハガキ回答

去る5月9日、朝日新聞大阪本社講堂にて学会、協会共催の下にノイトラ氏が夕方5時半より約3時間半に渡り幻燈映写も混じえて「自然にかえれ」と題する講演をされ、会場満員の聴衆に多大の感銘を与えた。其の後、職場、学校等にても話題となつたので当編集委員会は下記の如きハガキ回答80通をおもに学校方面に発送し16通の御回答を得た。御回答率の悪い点は締切日が1週間しか無い為めであつたと思う。

拝啓愈々御隆昌慶賀に存じます。さて今般朝日新聞社講堂にてのノイトラ氏の講演に就て広く御感想を得たく存じますので、御感想等を簡単に御取纏めの上6月9日迄編集部宛御恵送下され度く存じます。　　敬具

昭和27年6月2日　　日本建築協会編集委員会

近江己記夫
MIKIO ŌMI

ノイトラ氏は人間を自然の中へ解放する事が、建築家としての大切な役目であると話された。私もこの意見には賛成である。しかし、現在多くの建築家の中でどれ位の建築家が自然への融合の為に力を入れているであろうか、家を建てるにしても、経済的にしばられていたり、良い土地でも交通不便であつたりして、多くの困難があるにしても、建築家が真に人間を自然の中に解放する事に目覚めると共に、言践する事に務めたならば、狭い我が国にもまだまだそれを受け入れる余地があると思う。この様に建築家が、真に目覚める事により人間生活の向上、しいては社会の向上と、進歩・発達があると思う。この意味でノイトラ氏の講演は我々建築を学ぶものにとつても、建築家にとつても大きな光と希望と反省とを与えたと思う。　　(筆者　都島工高建築科二年A組)

赤松　修
OSAMU AKAMATSU

先ずこの様な会は度々やつて貰ひ我々は一時でもロマンチックであり度いと思う。

リヒアルト・ノイトラ氏の作品より受ける感は軽快な

フアサードを周囲の環境に如何にしてマッチするかと云う事につきる。又それが尠い程に成功している。庭園は日本の庭園より受けるところが非常に多い様に感じられるのは、私一人ではあるまい。当日某氏発言のあつた通り早く斯様な設計施工が充分出来る様な社会情勢となればと思う。（筆者　新工務所専務取締役）

TAKASHI ADACHI

足　立　孝

・我々の家は自然そのものである。それ故に合理化が第一に必要である。だが過去の合理主義の行過ぎは修正されねばならぬ。

・生理、心理の必要は過去の識者も声を大にしていた処。我々の時代にはその適確な方法の把握が要請されている。廿世紀前半史は模索の実験の歴史である。廿世紀の建築が人間の全体性を確立し得るや否やは、この方法の把握と云う一点にかかるのではないか。

・残念乍ら我々は生活を外から覗かれる事を好まないし「覗かない」と保証し得る程の広い国土を持たぬ。広い硝子面やそれからの光りが反省される処から新しい建築は出発する。（筆者　阪大工学部構築学助教授）

JUNICHIRO ISHIKAWA

石　川　純　一　郎

「酔覚めの水の味下戸知らず」という。下戸ばかりでなく、酒呑でもわづかばかりの酒では水などは欲しくならぬものである。「文明」の酒に極度に酔いしれて、初めて「自然」の水が欲しくなる筈であろう。我々のように殆んど水ばかり飲んでいるものには、今のところまだまだ水より酒の方が望ましい。戦後ドシドシ輸入されているアメリカ文明も日本へ着くとすつかり水ましになつているようだ。一体アメリカ人の考へる「ネーチユアー」と我々の考へる自然とは果して同じものだろうか。「自然に帰れ」という自然は何であろうか。

これはミスター・ノイトラの講演を聞く機会を逸して、後日、朝日新聞の記事を読んでの感想である。

（筆者　竹中工務店技師長）

TATSUAKI INOUE

井　上　達　明

「自然にかえれ」――いいことだと思う。

所でノイトラ氏の話に対して「貧しい日本では一般の人達はエア・コンデイショニングなどとても不可能、いまのままじやあまり自然すぎる」と言うことばがきかれた、成程金のあるに越したことはないけれど日本がアメリカ程の金持になるのを待つていたのでは何時のことかわからない。私は建築家がもつと社会に進出すべきだと思う。世の中の人をもつと広く深く啓蒙してやるのだ。権力を持つ人達もそうでない数多くの人達をも……。

「自然にかえれ」これは又「ヒューマニズム」に通ずる。ルネサンスはヒューマニズムの第一回のめざめ、第二回はフランス革命と産業革命そして今第三の時期にあると言われる。しかし今は政治家も実業家も大きい目でみたら、まるでナンセンスな亡霊にでもとりつかれて右往左往しているにすぎぬ様にさえ思われることがある。その中で善良で数多い一般の人達の日々をあたたかくゆたかにしてやるために、だまつて働く建築家の仕事は偉大なものだと思う。

建築家はだまつていてはならない。一人々々かけがえのない人間の生命と生活を容れるホームを作るのが建築家の仕事なのだけれど、建築家が、だまりこんでいたのではそれさえ充分果せない。建築家は人間性を忘れた政治家官僚、実業家達を正しい道にひきもどしてやらねばならぬ。いつも人間性をあたゝかくみつめる建築家にして始めてなしうる仕事がまだ、だれにもなされずに残されているのではないかと思う。この意味から将来建築家の中から偉大な治世の人物が現れてもいいのではないかと思う。ノイトラ氏の「自然に帰れ」は又現在の人間性再発見の潮流の中に一つの大きい地位が与えられよう。

（筆者　阪大構築工学部新制4年）

TAKAO IWAI

岩　井　孝　夫

我々日本人は公的及び私的の二重生活を営んでいる。昼間、オフイス・ビルデングに働いそいる時は、欧米人と同様の生活をし、人間は一個の構成分子として社会が運営されて行く。しかし一度帰宅すればどうであろうか。日本家庭はあまりにも自然に解放され過ぎている！戸障子による開口部分は欧米の家屋の及びもつかない程膨大な割合を占め、蚊や蚤さへもが我々の友人になり度いと云つて我々と同居しようとする。公共生活はさておき、事私的生活に於ては我々は原始的に自然の中に解放され過ぎている。アメリカが「文明」の極に達し、「自然へのあこがれ」が要求されている時、現在の日本は未だその「文明」（文化ではない）にさへ到達して居ないと云へる。逆説的に云へば、我々は私的生活を一日も早く自然が切実に求められる位の「文明」に迄到達させる必要があると思われる。

（筆者　阪大工学部構築教室旧制3年）

YOSHINOBU IWAKI

岩　城　良　信

一、彼は「建築家は生活実践をする心理学者或は生物学者だ」と述べているが、建築を心理学的に分析、研究その新しい方向に進まんとする人の少いのは何故だろうか。

一、建築の自然への解約は必ずしもガラス張りにより常に外界を見る事が出来る様にする事ではないし、又日本に於ける建築と自然との融合は気候・環境の異なる外国のそれとは趣の異なるものである。

（筆者　大阪大学工学部構築工学科）

HIROSHI OKAMOTO

岡　本　弘

あのときの盛会は当然なものであつたろうか。お説拝聴？あの見解が正しいとして、日本の現状は或意味で逆行していないか。歴史は繰返す？総てとは言へないが先人の立派なものを忘却して舶来尊重？に走り過去に於いて残された先人の立派なものゝ探究把握について反省の要はないか。既に先人によつて示されているとて日本は自然と密接な関係を保ちつづける一文明国と推称されている。

滝沢先生のお言葉をかりて、余りノイトラとして振り廻はすのは如何なものか。或意味では目覚しになつたであろう。何としても持てるものゝ豪勢さに目を見張る。妄言多謝　　（筆者　浅沼組取締役）

SETSUKO KAWADA

川　田　節　子

リヒアルト・ノイトラ氏の講演についての感想と云いましても、私に取つては、感歎と、賞讃をもつて、拍手をお送りするだけで御座います。唯建築物その物では無く、切実に感じましたのは、果してあれだけの建物を実際自分のものとしてどれだけの日本人が使用し得るで有りませう。唯美を求め美を感賞する為だけのものなのでしようか、単に外国文化の招会を受けただけの様で淋しく感じました。それはあまりにも日本の現実とかけはなれていた為でしよう。そんな点私は空想に似た昂奮と寂寞とした悲しみをいだきながら会場を出ました。

（筆者　都島工業高等学校2年）

TOYOJI SAWAKI

佐　脇　東　洋　児

私は高校の建築科に学ぶものです。現在の建築界ことに世界の動向を知るため、聞きに行つたのですが、外国の人でもあるし、少々不安なのでした。しかし、天然色の幻燈で説明されたので、実にはつきりわかり、数多くの知識を得ることができました。

氏の構想は、実に立派なものでいくら日本とアメリカと気候はちがい、まわりの天然の美がちがうと云つても、日本にも改良される必要があります。ことに朝夕の太陽の具合などで、色の美観を呈するなど、立派だと思う。しかし氏は構造美と云うものを自然美より一段下とみられています。なぜなら人間生活に自然を取入れる事が大事だと云われました。それを皮肉のように面白くおつしやいました。私も自然美の生活導入には両手を上げて賛成します。それだからと云つて構造美の立派な事も否定するものでもありません、愚文をお笑い下さい。

TARAO TAKAMATSU

高　松　武　羅　雄

ガラス張りの寝室の夫婦を人相のよくない男が覗いているアメリカの漫画を見た事がある。複雑な人間の心理を「開放＝仕切をなくする事」と簡単に割り切る事は正しいだろうか、この漫画は、人間をガラスの箱に入れて自然の中へ抛り出した近代建築に対する一つの抗議ではなかろうか。

ロックフェラーセンターの建物の谷底からとび出して来た人には確かにそれは開放であろう。併し人間はその中で四十六時中住まねばならないのである。熱と光と空気と水から、人間を守るものが建築ではなかろうか。

自然の暴威を、建築的にではなく機械的に解決しようと云う行き方も、同じ自然の融合を目指す日本建築を見ている我々には理解し難い。

彼が日本の建築――特に農家建築についてどんな見解を持つているか知りたいと思う。「石炭を焚き電気を起すのは誰か」主人であり同時に奴隷である日本――いやアメリカでも――の大衆には機械設備は一種の負担でさえあろう。

「我々には経済的に縁遠い」と云う声があの講演を聞いていた人の口からもれたのも案外こんなところに根ざしているのではなかろうか。

「石炭は誰の為に誰が焚くか」はそのまゝ今日の資本主義の矛盾であろうが、ノイトラはピラミットの上に腰かけ、我々は先づその下積みになつている多くの石の市を考える。「ノイトラは週末別荘は作るが住宅は作らない」私はそう思う。　　（筆者　阪大工学部構築科）

JUNJIRO NAKANO

中　野　順　次　郎

前回（二十数年前）は朝日のステージで、原始人の建築から説きだして、古今に通ずる建築造形の原則に触れた彼が、今回は白髪の老大家になつて自然のことを主に話しつづけた。何時まで経つても、彼は自然の人でありたいとする意欲に燃へているようだ。彼にとつては空気・光・土・水・木等が建築の根本的な要素として見失はないように努力することにある。これは、我々に対して教科書的な基本論を説くもので実に真理的な価値がある。日本の建築家といへどもこの教科書は学ばなければならない。それ程重要な勉強に違いない。しかし乍ら教科書だけでは家は建たないし、めしを喰べることも出来ない。我々は今生活を保つことにあくせくしながら、しかも彼の云う教科書を再び勉強しなければならない段階にある。　　（筆者　大阪市教育委員会指導主事）

SEIKEI MIHARA

三　原　清　敬

緑したたる広々とした美しい自然の中に明るい生活をする事は何と気持のよいものでありましようか。人間が有機的に生活できる建物こそは、建築家の建てたものであるとの御講演を聞いた我々未来の建築家は建築に対して、新鮮な一つの確固たる光を見出せました。建築家は常に自然の中で生活しているという心をもつて、新しく

建てられる建築を大自然の中に開放していかなければならない思います。豊富な緑を世界中に繰拡げることもでき、やがては砂漠や、山の岩塊にすら樹木が生えるだろうと考えます。建築家の心の開拓は即ち地球上の開拓になります。先日の御講演の御主旨は私達の胸の中にいつまでも消えない光、太陽の光として、美しい建築物の設計、自然への設計の力として、伸ばして行きたいと思います。（筆者　都島工高建築科２年）

MASANOBU MORI
森　正信

ノイトラ氏の講演を聞いて通訳が専門語を正確に翻訳できず不明な所が多かつたの残念である。

ノイトラ氏の事は始めてではつきり知らないが、氏は強く建築物と自然とを結びつける事を主張しておられたが、我が国では今までは自然と完全に結びつき、よく調和したと云われる建物は氏の写真のスライドの建物ほどに自然の中にとけこんだ建物は少いと思います。氏が我々学生に月世界に建物を築けと云われましたが未来の建築家たるものは市街の近代ビル街にも多くの自然をとり入れたり、自然と云う物はどこえ云つても変りはないのでありますから月世界までに自然を求めなければならないと云う事はないと思いますからこの地球上にもあの氏のスライドの中のあの自然ととけ合つた建物以上のものができると信じるのであります、だから未来の建築家を目ざすものは今から自然を愛していかなければならないと氏の講演を聞き感じ氏は講演中にも私たち学生の事を忘れずにいて下さつた事は喜ばしい事でありました。
（筆者　都島工高建築科２年）

NOBORU YAMAMOTO
山本　昇

ノイトラ氏の建築は幾多の写真で紹介されたが、今回の講演会で吾々は海外の実状亦彼の主調を知り得た。密集群立した高層ビル街の不自然さに比べ自然の中へ解放せんとする努力えは亦アメリカ人の切実な希望でもあろう。高度化された機械文明を更に自然の中へ生かすに到つたあらゆる技術・新材料・諸機能の発達は我国とスケールが合はない。建築のみならず新都市の発展の上にも自然環境を忘れる様なことがあつてはならないと共に、之等の進歩した技術のレベルに早く到達することが我国の心胸であろう。

（筆者　大阪市大理工学部建築学教室）

MOTOAKI YOKOI
横井元昭

一、都市生活の自然への解放という事は、極めて重要な事と思う。それは個々の建築の計画から建築家が更に高い社会での立場にたゝねばならない事になる。これは現在の日本では困難な環境ではあるが最も望ましい事である。

二、自然には取入れるべきものと防止すべきものがある。外国では後者から前者に移る段階をもつているが、後者を解決せずに前者を実行して来たのが日本建築である。従つてノイトラ氏の立場と我々の立場の相違を認識している事が必要と思う。

（筆者　阪大工学部構築工学科）

（ハガキ解答終り）

第四回「國土建設週間」實施要領

建　設　省

建設省では例年の通り、都道府県と共に各官庁、報道機関の後援、関係団体の協賛の下に、七月四日から十日まで「国土建設週間」を実施する。

過去三回の経験にかんがみて、また建設事業そのものの本質からも、この種の行事は、現場をもつ地方々々の自主的な催しが最も効果的であると考えられるので、各地方当局の創意に富む企画と、積極的協力が望まれる。

特に本年は講和第一年に当る記念すべき年であるから特に盛大に行いたい。

一、趣　旨

終戦後七年、茲に国民待望の講和条約の発効を見るに至り、希望ある独立への第一歩をふみ出すことになつたが、我々が経済的にも自立し得て名実共にあらゆる意味で、先進諸国に伍すると自負し得る迄には、前途尚多難なるべきを銘記しなければならない。

思えば、一方に狭い国土に擁する過大なる人口問題を解決し、他方荒廃した国土を再建し、保全し、更に開発並びに利用の高度化を図つて生産力を高め、国民生活を安定させると共に、経済的にも真の独立国家ならしめるための基礎条件としての国土建設の強力なる推進こそ、新日本建設への第一歩としてわれわれに課せられた至高なる責務であると共に、国民の幸福と国家繁栄への途であることは論をまたない。

このためには、国土全体を我々の手で愛護し、各人の協力で建設の諸事業を推進し、明日の生活を明るく希望に充ちたものにしなければならない。この見地から我々は従来より「国土建設週間」を実施して、問題の重要性について広く世論に訴えると共にその支援を求めたのであるが、以来三カ年建設の事業は漸く軌道にのり仕事は着々と進んだ。併しまだ再建の途は遠く障害は決して少くない。

本年もまた七月十日建設省設置の日を中心に第四回の「国土建設週間」を実施し、広く国民一般に国土建設の重要性を訴え、国土建設に対する深い理解と関心とを高め、その強力な支援の下に希望ある新生日本建設えの一大推進力となることを期待するものである。

二、執　行　機　関

主催　建設省、地方公共団体

後援　関係各省庁、新聞社、日本放送協会、民間放送局

協賛　関係団体

三、期　　間

昭和27年7月4日（金）――7月10日（木）7日間

四、実　施　目　標

1　国土建設に対する関心の昂揚
2　公共事業の意義解明
3　国土総合開発の趣旨徹底、国土総合開発と青年運動
4　河川、道路、海岸その他国土の災害防止並びに復旧促進、砂防の徹底、水防の強化促進
5　森林の愛護、治山治水の徹底
6　河川総合開発に関する啓蒙
7　道路及び自動車交通に関する知識の普及
8　道路の改良補修の促進
9　河川、堤防、道路、橋梁の愛護思想の強調
10　住宅の合理化、建築の不燃化の強調
11　庶民住宅の建設促進と住宅金融公庫の事業紹介
12　公共建築物の整備と愛護推進
13　都市復興の促進
14　都市計画に関する啓蒙、都市建設えの市民意識の昂揚
15　公園緑地の建設、都市美の強調、公共施設に関する道徳心の昂揚
16　観光施設の整備拡充促進
17　建設業の健全化促進
18　建設の機械化普及

五、実　施　行　事

（一）建設省では次のようなものを実施するが、この外民間の創意による自主的な催しを期待する。

（1）展覧会（附表一）
（2）建設祭（附表二）
（3）建設関係者慰霊祭（附表二）
（4）建設白書の発表
（5）グラフリーフレット
（6）ポスター（二種）
　（イ）国土建設週間用（B 2判）
　（ロ）建設祭及び展覧会用（B 3判）
（7）新聞特集斡旋
（8）ラヂオ特別番組交渉
（9）街頭啓蒙放送
（10）ニュース写画・取材上映
（11）建設功労者、優良団体の表彰
（12）土木、建築両研究所及び地理調査所の見学並びに研究発表
（13）建設機械の展示（建設機械化協会後援）建設機械による施工実演
（14）建設機械に依る道路補修工事の実施
（15）建設現場の中学生見学と感想文の募集
（16）写真、短歌、俳句の懸賞募集
（17）水防演習

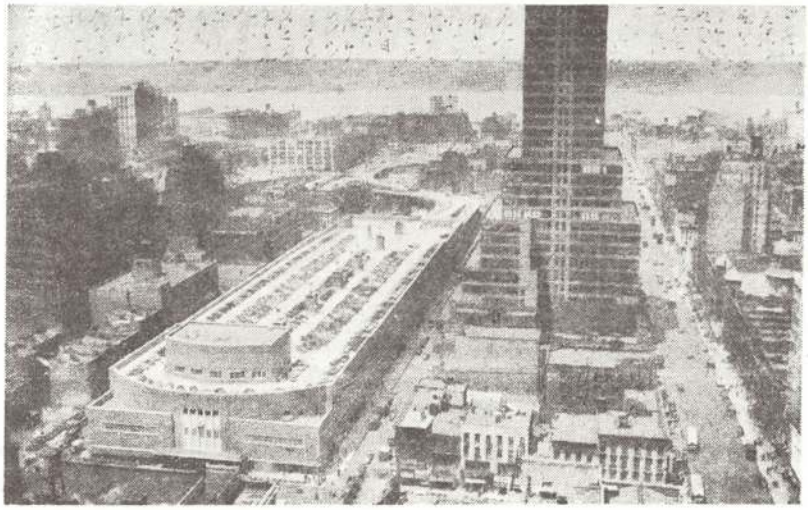
（二）地方では（四）の目標に副い、各地の実情に即した行事を各々の創意により自主的に実施することとするが、事例としては次のようなものが考えられる

（1）展覧会、講演会、映画、幻燈の会
（2）建設功労者表彰、顕彰建碑、慰霊祭の執行
（3）各地の特色を生かした壁新聞、ポスター、リーフレット等の刊行
（4）地方放送、地方新聞との提携
（5）市区町村の弘報委員会並びに市区町村長の集いに本週間の趣旨を徹底
（6）劃期的建設工事の完成を記念する地方行事の設定、記念碑の建設
（7）水防演習（水防器材の整備、洪水予報訓練）
（8）建設機械による施工実演
（9）河川、道路の愛護運動
（10）街路下水の清掃、街路樹の手入、墓地の整備清掃
（11）公共建築物並びに住宅地の清掃浄化
（12）都市計画の街頭掲示
（13）公園愛護運動と児童公園（小公園）の設置運動
（14）観光地の整備運動、各種レクリエーションの催し
（15）模範住宅及び住宅地、公共施設の紹介見学
（16）防火宣伝、模範不燃建築物並びに資材の見学
（17）公営住宅並びに住宅金融公庫による融資住宅の公開見学
（18）各種建設工事現場の見学
（19）工事現場の整備並びに工事進捗状況の公表
（20）労務者の慰安
（21）建設関係法規の説明会
（22）建設週間を記念する地方くにの発売
（23）小学校、新制中学生徒より建設に関する綴方、図画募集
（24）川祭り、道路祭、復興祭等の催しをこの期間に招致
（25）学生治水キヤンプ、国際奉仕団等と連絡、指導啓蒙の実施

（三）後援官庁及び協賛団体の行うもの　　以下省略

竹腰會長の M. R. A. 便り





写真説明

ニューヨーク市のバスのたまり

八番街と四十一番街にある世界最大の大たまりです。毎日12万台の定期乗用車と1万2千台の旅行車で一杯になります。

出発の際は多数会員の御見送を辱うし恐縮に存じます。マキノのM. R. Aの会合を小生のみ少し早く切り上げ、シカゴ、ロサンゼルス、ヒューストンを経てワシントンに出で、又此所にてM. R. Aの一行に会し、上院の議場にては会議を一時中止して、上院議員の歓迎の辞を受けました。翌日は国務省で意見の交換をなし、又一行に別れて紐育に来ました。30年前と驚く程の変り方は建築には見られませんが、只使用材料が変化した事と、新しく建つものが安つぽくなつたことを感じます。

只驚くべき変化は人心です。やはり国が富み、生活程度が上ると、上等になるのでしよう。老人の働いているのには驚きました。とくにめだつのは、ワシントンのタクシーの運転手に老人が多い事です。私の乗つた運転手があまり歳寄りであるので歳を聞くと、71才と云いました。気毒に思つて、家族は無いのかと聞きましたら「子供があるが、その家庭を維持するのも容易で無いと」云いました。なにか楽しみがあるかと云うと、「I work only for existence」と答え、吾が身に思いくらべて、気毒くになりポケットの中の金をやりましたが、もう感激性もなく、唯ひからびた声で、かすかに、「ありがとう」と云うだけでした。

次の車の運転手も歳寄りなので歳を聞くと67才だと云うのです。これは一々同情してはこちらがひえあがるので多くさん金をやることはやめました。

国務省の後、大使館で大使のお茶に招かれましたが、なんとなく日本も独立したなあと云う感じを受けました。皆様によろしく、予定通り帰るつもりです。

1952. 6. 16　　紐育にて

竹腰健造

記念事業各地建築講習会

記念事業の一つである講習会は予め部会で準備中であつたが愈五月五日松江をトップに下の通り開催した。当初山陰は鳥取米子両市よりも招請を受けたが鳥取大火のため二市は一時中止する事とした。尚今月中に和歌山、兵庫支部で開講、今秋は四国、広島、名古屋市で開催予定である。

各地共非常な盛会であつた事は悦びにたえない、御斡旋の方を煩わしたが地元各位に誌上を通じ厚く御礼申上げます。尚今后開催される各地元会員各位の絶大な御協力と、御支援をお願申上げます。

講演講習部部長　伊東五郎

松　江

後援　島根県建築士会及松江産業高等学校　5月5日　自10時至17時30分　会場松江産業高等学校商業部　聴講者約250名　島根県建築課長近藤武男氏開会の挨拶並司会

住宅及新構法　竹中工務店設計部長　日野勝好氏
神戸大学教授　工博　伴　潔氏

材　料　大林組技師　谷口尚武氏

引続きメーカー側講師として関西ペイント児島氏及長久氏の防火塗料と色彩調節　朝日石綿工業館氏の最近のスレートにつき田島応用化工笠原氏のアスファルトタイルにつき　夫々専門的な講演があつた、閉会の辞松江産高校長鎌田武氏。この日遠くは益田、浜田、米子より来会あり極めて盛会であつた。

尚同夜講師を囲んで島根建築士会役員諸氏主催の歓迎懇親会が行われた。

下　関

後援団体　山口県建築文化協会及山口県、下関市　5月20日　自10時至17時　会場下関警察会館　聴講約230名

開講挨拶　山口県建築部長　今津重蔵氏
新構法及材料　竹中工務店設計部長　日野勝好氏
神戸大学教授　工博　伴　潔氏
住　宅　大阪市建築局長　伊東五郎氏

次でメーカー側より藤森工業宮原氏のアスタイル、日本油脂近藤氏の防火塗料と色彩調節につき夫々専門材料につき講義が行われた。

閉会の辞　下関市建築課長　鹿島　武夫氏

前日来の雨で出足が案ぜられたが、地元諸団体の協力によつて聴講者は会場に溢れる盛会であつた。

同夜下関市迎賓館に於て地元各団体主催の講師歓迎懇親会が開かれ会する者50余名、歓を尽し九時過散会す。

翌21日午前地元側の案内にて大洋漁業冷蔵庫及び工事中の関門国道海底トンネルを見学す。

福　岡

後援福岡建築士会、建築学会九州支部
福岡県建設業協会　5月20日　自10時至17時
会場福岡市立記念会館　聴講約170名

司　会　本会九州支部副支部長　薄与壮氏
開講挨拶　福岡県建築部長　宮脇晴美氏
新構法　京都大学教授　工博　横尾義貫氏
住　宅　日本損害保険協会大阪支部技術課長　中村綱氏
材　料　大阪大学教授　工博　奥島正一氏

引続きメーカー側講師として新光レイヨン稲垣氏（アクリライト）東洋リノリウム安田氏（リノリウム）田島応用化工松本氏（アスファルトタイル）関西ペイント長久氏（防塗と色彩調節）夫々専門的な立場より興味ある講義あり。

薄氏地方建築界に清新の気を吹込み意義極めて深かつたと全員講師に拍手を送り終講の挨拶後閉会。

尚同夜県庁警固分館に於て講師を囲み懇親会が催された。出席19名。

長　崎

後援長崎県建築士会、長崎県住宅協会
建築学会長崎支所　5月22日　自10時至17時
会場長崎町村会館　聴講約210名

開講挨拶　長崎県建築課長　小栗治平氏
新構法　京都大学教授　工博　横尾義貫氏
住　宅　日本損害保険協会大阪支部技術課長　中村綱氏
材　料　大阪大学教授　工博　奥島正一氏

次で田島応用化工松本氏及び関西ペイント長久氏より夫々メーカー側として専門材料につき講義あり。

終講挨拶　長崎県建築士会々長　今泉佳三郎氏

早朝来雨模様であつたが聴講者の出足頗る良く200名を突破する盛会であつた。

同夜地元有志の主唱で異国情緒豊な中華園に於て講師歓迎晩餐会が催され、記念写真を撮り楽しい数刻を過した。

熊　本

後援熊本県及び熊本県建築士会　5月22日
自11時至17時　会場熊本県税務講習所　聴講約190名

司　会　熊本県建築士会　本司貞介氏
開講挨拶　熊本県建築課長　板井公威氏
住　宅　大阪市建築局長　伊東五郎氏

（49頁上段に続く）

(48頁より続く)

新構法　竹中工務店設計部長　日野勝好氏
神戸大学教授　工博　伴　潔氏

引続き東洋リノリウム安田氏、朝日石綿工業中村氏藤森工業宮原氏、日本油脂近藤氏より夫々材料につき講演、板井課長閉会挨拶後解散。同日は午前同所で建築士会総会が開催され時間不足のため一部講習を割愛の止むなきに至つた事をお詫申上げる。

この日気遣われた雨は終日降り止まざりしも開講前熊本県建築士会総会が行われたのと地元の御配慮よろしきを得て遠くは天草、小国、人吉等より泊りがけの来講者もあり、この種会合としては珍らしい盛会であつた由である。

尚同夜水前寺東亰屋に於て地元主催講師の歓迎懇親会が開かれ、民謡の紹介などあり主客交々和かに一夕を過した。

◎各メーカー提供のサンプルは各地共支部、県庁、市役所、関係学校等に夫々寄贈、非常な好評を博した。

アスファルト防水工事に就て

社団法人アスファルト同業会関西支部編

1. 古い歴史のアスファルト防水工事　建築の防水工事に於て其の材料は、其る構造に適応して果して如何なるものが理想的であるか、又其の施工は如何なる方法が合理的であるか、之れに就ては相当に尚今後共研究を要する難しい問題であるが、概して今日迄の実績に於て、セメントに防水剤を混入した工法よりアスファルトを主体とした工法が比較的理想である事は古くより今日に到る迄防水工事の主流をなしている事に依り実証される。

所謂セメント防水工法も比較的小さい建築物又は施工場面の狭い場所には適応出来るかもしれぬが、大きな建築物に使用した場合は建築物の波動伸縮又は震動等に依るクラックの必然性に対して何等抗張力を有していない為、折角の防水皮膜それ自体に亀裂を生じて漏水又は浸水の因をなす事を防止する事は仲々困難の様である。

之れに反しアスファルトを主体とせる工法はルーフイング類の補強材料及アスファルト自体が相当の抗張力を有している故、コンクリートに多少の亀裂を生じた場合も或る程度之れに堪え完全に防水力を持続する事が出来る。

然もアスファルトが永久的材料である例は紀元前二千数百年、エジプト人が王の死体を布片にて被覆したものにアスファルトを以て塗布して永久保存の用に供し、是等の遺物は今尚ミイラとして保存されている事は普く知られた事実である。斯様な極めて安定した、永久的の材料を以て施工したる所謂アスファルト防水工法が古来より又欧米先進国に於ても永続し又普及発展している事は当然である。

2. 戦時及終戦後のアスファルト防水工事　当時の凡てのものが劣化せし例に洩れずアスファルト防水工事も主材たるアスファルト及ルーフイング類の不足と品位の低下其の上施工技術も極度に粗雑なりし悪因は近来所々に露呈し、アスファルト防水工事の真価に付最近浴び批判を受けて居る事は業者として深く反省している次第であります。

3. 然し現在は　アスファルト防水工事の主材たるアスファルトは近来急激に増産され品位も戦前と同品質又はそれ以上のものが生産されつつあり又、甲、乙ブロウン自由に希望撰択出来る様になり又ルーフイング類も防水工事用のものとして高級品続々各メーカーより生産され画期的良質のが市販され、加うるに施工技術も世の中の落着きと共に幸にも良心的に復帰しアスファルト防水の真価を充分発揮信用恢復の好機になつて居ります。

4. でも現況は　最近の自由競争の弊害はアスファルト防水界も例外とせず近来工事は減少し業者は乱立して如何に設計仕様をゴマ化すかに専念する者続出し、又元請の一部には斯かる業者を歓迎しているやに見受られる誠に嘆かわしき現況であります。

それでは折角信用恢復の絶好のチヤンスを逆に戦時及終戦直後時代以上の悪因を造つて居る次第で真面目なる業者一同は心より苦慮している次第であります。

5. 完全なるアスファルト防水工事は　上記の現況に対して勿論業者の反省が第一ではありますが真面目なる業者一同は下記の事を申合せ設計及現場管理者諸賢並に元請業者の御賛成を衷心より御願する次第であります。

(一) 現場所要材料を算出の上一時又は分割持込させ是れを確認し其の全部を使用さす事。

(二) 下記連名の者はアスファルト同業会員にしてアスファルト防水工事を主営業とし業界の信用失墜は自己の破滅を痛感し、何時でも施行現場に於て切取検査を受くるも差支なき自信ある良心的施工を誓い万一違反の場合は同業会より除名を申合せて居ります。防水仕様設計の節是非施工業者も下記の内より設計書に指命を書入れ御願したき事。

(三) 施工上の細目の注意事項は近々日本建築協会より防水工法に関するパンフレットが発刊される計画に付是非御高覧の程を。

(社団法人アスファルト同業会関西支部会員連名参照)

会　　務（5月分）

講習部会（記念事業委員会）

2日2時於分室、伊東部長外講師共14名松江開講打合せ。

主　記　会

2日3時分室、伊東、青木、中野、伴、理事分掌其他主記事項協議。

松江講習会（記念事業委員会）

5月10日～5時松江産業高等学校にて別項の通開催。

和歌山支部総会

8日2時市内労働会館にて栗林副支部長外30余出席、支部長以下役員改選、予算決算事業審議した、尚本部より大和常務理事列席記念事業協力援助方依頼した。

表彰と祝賀部会（記念事業委員会）

9日2時於電気クラブ、鈴木末尾、池田宮彦両部長外委員10、会場としての同クラブ調査方其他万般協議、開催日を理事会に一任する事に申合せた。

ノイトラ氏講演会

9日5時於朝日新聞社講堂、建築学会と共催来聴者堂に溢れ盛会。

定例理事会

14日1時30分於ニューオーサカ東畑副会長外17名細則10条中個人会員並団体会員の文字を入れる事を協議した委員委嘱。事務局員昇給、午餐会定例日変更、入退会詮衡其他協議後諸報告を了した。

竹腰会長渡欧歓送茶話会

14日2時30分同所にて今回欧米に出張される会長歓送茶話会開催、東畑副会長外20余名、東畑副会長歓送の辞につぎ竹腰会長挨拶あつた後歓談暫し、最後に乾杯会長の健康と一路平安を祈つて散会。

見学部調査（記念事業委員会）

16日東海方面見学先並岐阜白川方面見学会下調査打合せのため竹内孝委員並戸川書記2班に分れ夫々現地に出張。

会勢委員会見学会

17日2時より御堂筋工事中の淀川製鋼ビル竣功建物大和ビル、並蝶理ビル見学会開催参加凡50人。

九州方面講習会（記念事業委員会）

記念事業地方講習会は20日下関市と福岡市。22日長崎市と熊本市に於て別項の通り夫々開催各地共200～250名盛会、尚大和常務理事は17日より先発各開催地準備打合せ、当日は山田、岩下両事務局員2班に従い出張した。

東海方面見学会（記念事業委員会）

予て計画中の上記記念事業見学会は23日早朝上六集合松本部長外一行凡30名出発別項の通り四日市、常滑、名古屋を経て24日解散。

竹腰会長渡米出発

既報の通り竹腰会長はMRA出席のため27日大阪駅発東上29日羽田空港より渡米された。

懸賞図案審査会（記念事業委員会）

記念事業の一としてかねて募集中の小住宅設計応募図案審査会は29日午後より9時迄大阪建設会館で開催当選者6月号掲載の通り決定、当日出席の審査委員は伊東五郎、小林清、森忠一、塚本猛次、滝沢真弓、中野順次郎諸氏

大阪府建築士会

予而本会に事務を嘱されている大阪府建築士会本月の行事概要下の通り。

5月10日午後本会天神橋分室にて渡辺会長、大林、中西、藪中、各理事、府建政課本会事局員等会合今後進行方につき種々協議。

5月27日3時より於大阪建設会館評議員懇談会開催、渡辺会長外20名出席経過報告後諸般事項につき種々懇談した。

5月29日2時より於朝日ビル本会事務所近畿建築士会協議会開催、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀各士会より出席日本建築士連合会の件につき協議した。

前会長片岡先生霊前報告

5月25日故片岡先生御命日を期し協会を代表して浅海治平理事記念事業委員会代表、表彰部長池田宮彦氏並大和常務理事は桃山の片岡邸を訪問し、みつえ夫人に親しく御挨拶を述べ、故人の霊前に額き故会長の在りし日の御功績に感謝の念を捧げ今次挙行の記念事業等につき報告参拝。御生存中の面影をお偲した。

記念事業東海方面見学概記

予告のプログラムに依り5月23日午前8時半上六発11時四日市着日本板硝子工場差廻し自動車で同工場着堤工場長説明後懇談中食の饗応に接し工場見学後、辞去バスにて同地東海ゴム工場着、宮坂工場長説明案内後茶菓の接待を受け辞去、4時半名古屋着中央ホテルに東海支部会員諸氏と共に集合、玉置東海支部長、佐藤四郎、染木正夫副支部長等の歓迎挨拶、松本見学部長の謝辞後一同、ビールの満を曳き、乾盃歓談後東海会員と別れを告げ7時半常滑着、宿舎丸久旅館に寛ぐ、一浴后疲を慰し懇親晩餐会開催席上、伊奈製陶向井専務より歓迎の辞ありたる後同社員幹部の紹介あり、松本見学部長感謝の挨拶の後、各自隠し芸披露などありて盛会、24日朝8時半伊奈製陶工場着タイル、衛生陶器モザイック製造行程見学したが次のコースの関係上、竹内孝委員謝意を述べ辞去、名古屋に急ぐ。

12時熱田神宮前下車、トヨダ自動車工場差廻しの観光

正会員　佐竹則蓁君の訃



本会理事佐竹則蓁君昭和27年6月14日心臓麻痺で59才を一期として急逝されましたことは誠に痛恨の極みであります。

君は八幡浜商業を出身後明治末期上阪夙に電気界に身を投じて大阪電燈株式会社に入社まもなく株式会社立花商会を創設社長となり後近畿電気工事株式会社設立されるやその社長に推され大いに手腕を振われた。一面大阪商工会議所、日本電気協会、中央電気クラブ、高視高等学校、灘購買会其他各会の理事、評議員等多くの名誉職に推挙されるなど関西電気界に重きをなされていました。

本会にも早くから籍をおかれ昭和22年より理事に当選今日に及び種々尽力され特に電気部門と本会との連繋に協力されるなどその御功績は実に大なるものがあり、愛会の念また極めて強い方でありました。

君資性温厚な円満家で情誼に厚く然も人格高潔で多くの人に敬愛されていた。君の他界は各方面からいたく惜まれ本会としても君の如き協力者を失つたことは大きな損失であります。

去る17日2時から四天王寺本坊で近畿電気工事並びに立花商会の合同社葬がおごそかに営まれ列する者堂に満ち、3時からの告別式には会する者踵を接し近来稀に見る盛儀で今更ながら故人の徳が偲ばれた。本会よりは竹腰会長渡欧中のため東畑副会長、大和常務理事が葬儀に参列、東畑副会長下記弔辞を供して焼香、青木友一、浅海治平、栗原信虎各理事、戸川書記其他役員、会員多数が立礼その他参拝して弔意を表した。

茲に故人の肖像を掲げて在りし日の御功績を感謝し謹みて御冥福をお祈り申上げます。

弔　辞

時昭和27年6月14日本会理事佐竹則蓁君突如として急逝されましたことは全く青天の霹靂で洵に痛惜の極みであります。君夙に本会に籍をおかれ昭和二十一年以来評議員、常務、理事、委員等に屢々当選、現に理事の一人としての会の枢機に参画本会今日の隆盛に寄与されました。就中戦後多難時代の主計担当又は事業委員長として新な事業企画或は本会と電気部門との連繋を密にするなど献身お尽しになりました御功績は大なるものがありまして永く本会の記録に残されることゝ信じます。

今や35年記念事業真中にしてその他進行中の各般の事項につきましても君に俟つもの益々多からんとする秋忽然として長逝されましたことは惜しみても余りあることで遺憾に堪へないところであります。

去る11日開会の役員会には共に席を同うして熱心に協議されましたのが、今尚眼前に彷彿としているのに須臾にして再びその温容に接する機なく全く感慨無量愛慕の念禁じ難いものがあります。

茲に四千有余の会員を代表して謹みて哀悼の誠を捧げ惜別の情を披瀝御冥福をお祈りして最後の御別れの言葉といたします。

昭和二十七年六月十七日

法団法人**日本建築協会**

副会長　**東畑謙三**

（50頁より）

バスにて挙母市の同工場着中食饗応後玉置氏並に今枝取締役御両氏の案内で、ユタカプレコン工場と東洋一を誇るトヨタ工場を、時間の都合上かけ足で見学した、小憩茶菓の接待を受け名古屋駅に出で5時過ぎ解散、自由行動に移り本見学の幕を閉じた。

本見学は余りにも盛沢山となつたので時間に不足を来たし見学先に非常な迷惑をかけ、又参加各位にも大変忙しい目に遭わせユックリと見学の出来なかつたのは誠に遺憾で申訳ない事でした。然し至る所十二分の御歓待に接し個人としてなかなかに出来難い効果的な見学で参加者各位が裨益された所が多かつたのは幸とする所であります。終りに見学先御関係各位の至れり尽せりの御案内と種々、御接待に預りました御厚志に対し、紙上を通じ厚く厚く御礼申上げます。

27. 6. 20 委員記　　（紙面の都合で参加者氏名略）

日米学生建築意匠交換展示会企画

在阪中の米人ブランド氏が協会に来訪され、日米両国の建築学生に依る作品交換展を申込まれたので、協会として滝沢教授並中野・中村両理事を始め村上清氏・徳田顕氏等に依てその企画達成に各方面と接渉中である。

大阪を中心とした建築研究団体

都市計画研究会　中沢誠一郎教授等に依て多数のメンバーが出来つつある此の研究会は月に1回各種の研究をしている。入会希望者は日本建築協会編集部迄問合せられ度い。尚お会費は集合度びの実費制度である。

デザイナーの会　安井建築事務所、渡辺建築事務所等の方々に依て毎月1度集会されている。非常に有意義な会合である。入会希望者は同じく協会編集部迄申込まれ度い。此の会もやはり集会度びの実費である。

室内工芸研究会　室内装飾関係としては誠に力のある多数のメンバーに依て構成されている熱心な会である。此の研究会の御世話は大阪府工業奨励館企画課長加藤清澄氏、日建設計工務岡村実氏等がして居られる。

意見・批判・論文・感想を募る

「建築と社会」の為に皆様からの御原稿を協会編集部（朝日ビル）は御投稿（原稿用紙200字詰、10枚迄）を御待ちしています。

テーマは自由ですが、例へば下記の如き題材も結構です。

1. 法隆寺の再建
2. 米国式建築に就て（レーモンド・ノイトラ・ライト・其の他）
3. 日本趣味と建築
4. 建築の防災
5. 新しい建築材料
6. 新構法
7. 都市計画

編集後記

予告の通り沖縄工事関係の記事と、企画を特別に変更して、ノイトラ氏の特集とした。依て非常に協会予算より厚いものになつたが記録的な事だから出来る限りの事をしてみた。依て不意の企画の為め少々編集が遅れたが次号の都市不燃化問題特集の御原稿は既に手元に揃つて発行を待つて居るから期日は取り戻せると思つている。

尚、その次の企画は古建築と法隆寺復源問題を取り上げ準備中である。

出版豫告

尚本委員会では下記の通り逐次出版企画中である。希望の方は予め部数御申込願えれば出版計画上誠に好都合である。

1. 空気連行コンクリートとその施工
1. アスファルトとセメント防水剤について
1. 衛生工事について

何れも青年技術者を対象とした実際に直ぐ役立つ簡易要諦のパンフレツトである。

◎追而昨年くれ第1回出版の「建築法規索引」は各学校教材として又其他からも多数申込まれているが、仁遺憾既に品切れとなりました。目下の処再版企画ありません。

映畫會豫告

建築協会では今秋9月に下記の如き映画会を開催せんと準備中である。尚お此の映画は既に東京に於て多大の反響を呼んだもので、関西の各位も必ずや期待して頂けるものと信じている。

映画プログラム

T・V・Aの建築・カンベラの建設（C・I・E提供）
日活国際ビルの建築　（竹中工務店提供）
モスクワの建築・花咲くウクライナ（日ソ親善協会提供）

企画予定

所、毎日会館　時、9月11日午後5時より8時
主催、日本建築協会・日本建築学会近畿支部

建築と社会
第33輯　第7号
売価1部80円（送料共）
昭和27年6月25日印刷・昭和27年7月1日発行
編集発行人　沖田誠一
発行所　社団法人　日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話　北浜㉓1334～9番
振替口座大阪39975番
大阪市北区堂山町66
印刷者　網野栄
大阪市北区堂山町66
印刷所　株式会社研文社　電話曹崎㉗2056番

1. 仮設工事　2. 土工事　3. 杭打工事　4. 防水防湿工事　5. 鉄骨・鉄筋工事　6. コンクリート工事　7. 焼瓦・タイル工事　8. 石工事　9. 木工事　10. 左官工事　11. 薄鈑工事　12. 金属工事　13. 建具工事　14. 塗装工事　15. 内装工事　16. 硝子工事　17. 屋根葺工事　18. 衛生工事　19. 電気工事　20. 暖房工事

1 仮設工事

		円
真竹	(1束)	
	4寸 (1束12本)	350
	3 (同 24本)	300
	2.5 (同40本)	300
ヨシズ	1枚6×12尺 (皮付)	500
鉄網	(網目1.5cm21番線) 1.8×9m	1100

2 土工事

砕石 (省駅レール渡1立坪)

号別	規格	一般砕石	水洗砕石
1号	2～5mm	1650円	1600
2	5～10	1590	1550
3	10～20	1540	1500
4	20～30	1480	1500
5	30～50	1420	1450
6	50～80	1370	1400
7	80～120	1320	1350

割栗石 (都内現場持込1立坪)

小割	6800
中割	7000

玉石

3～4寸 (都内省駅レール渡1立坪)	5500
5～6〃	6000
7～8 (1ケ)	25
9～10〃	30

間知石 (レール渡1個)

0.8～1.2尺	55
0.9～1.5	70
1.2～2.0	350
1.4～2.5	450

ヒューム管 (1本)

内径mm	管厚mm	長m	
200	27	2	1100
300	30	〃	1700
450	38	2.4	3600
600	50	〃	5800
900	75	〃	13000
1000	82	〃	16000
1200	95	〃	23000
1500	112	〃	32000
1800	127	〃	39000

半円形2枚組合せは2割増，曲管は5割増丁字管は10割増，カラーなしは1割引，北海道は2割増のこと

エタニットパイプ (1本工場渡し)

直管

内径mm	管厚mm	長m	D級
50	10	3	885円
75	10	〃	1169
100	12	〃	1848
150	16	4	4164
200	21	〃	7030

異型管 (ゼボルトジョイント付工場渡し)

曲管

径mm		径mm	
50×90	663円	50×50	805
75×〃	917	75×75	1112
100×〃	1477	100×100	1950
150×〃	2588	150×150	3460
200×〃	3973	——	——

T字管

継手 (工場渡し)

内径	ゼボルトジョイント	モヲタルカラー	シンプレツクス
50mm用	282円	220円	250
75	344	270	290
100	570	400	420
150	910	680	——
200	1380	——	——

陶管

直管 (丸1本)

2寸	内径4.5m	長1.5尺	25
3	7.5	〃	40
4	10	2尺	80
5	15	〃	110
6	18	〃	150
8	23	〃	240
10	30	〃	350

曲管 (1本)

2寸	25円
3	40
4	80
5	150
6	200

枝管 (1本)

2寸	38
3	60
4	120
5	220
6	300

半陶管 (角1本)

3寸	長45cm	45
4	〃	65
5	〃	90
6	〃	115
8	〃	170
10	〃	250

曲管は直管と略同額，枝管は直管の50%増

素焼土管 (1本)

2寸×1.5尺	20円	3寸×1.5尺	35
4寸×2.0	64	5寸×2.0	88
6寸×2.0	120	8寸×2.0	192

石綿煙突 (1本)

3吋	180円	6吋	600
3.5	200	7	800
4	300	8	1000
4.5	350	10	1400
5	400	12	2000

3 杭打工事

用松丸太 (1石)

3寸上	長6尺	1300
	9	1400
	13	1550
4寸上	15	1800
	18	1900
4.5寸上	21	2200
	24	2500
5寸上	30	3000
	36	3400
	40	3500
	50	4500

コンクリート基礎杭 (ニコパイル・大同パイル1本)

長 m	末口径 mm	元口径 mm	肉厚 m	安全荷重 ton	重量 kg.	約
5	200	242	50	35	354	4400
6	258	308	60	46	664	6700
7	250	308	〃	46	745	8300
	330	365	〃	64	953	9700
8	335	375	〃	67	1148	11170
9	330	375	〃	67	1286	13300
10	330	380	〃	72	1462	16800
	400	400	70	83	1832	19500
11	335	390	60	74	1649	18200
	400	400	70	83	2072	21300
12	330	390	60	74	1806	20100
	400	400	70	83	2259	23200
	500	500	75	110	3093	29800

鉄矢板 (1屯)

日鉄製		3型	65000
		4型	60000
		5型	55000
ラルゼン	輸入新品	2型	63000
	〃	3型	63000
中古品	1,2,3型		35000～50000
賃貸	1m1日に付		2.8～3.0
	〃 厚物		3.0～3.5

4 防水防湿工事

アスファルトルーフィング (1本)

1号 22Kg 21.2平方米	850～900

アスファルトフエルト (1本)

1号20Kg 42.4方米	950～1000

ターフエルト (1本)

10Kg 42.4平方米	350～400
20〃〃	850～950

砂付ルーフイング (1本)

30kg 10.6平方米	800～900

ヘシヤンクロース 46吋×100尺1巻10坪分平

8オンス	4800～500
10	5300～5500
12	5860～600
16	7000～7200

ギルソイドルーフィング (1本)

30kg 21.2平方米	1250～1350

石綿フエルト (1本)

30kg 42.4平方米	3000～3100

石綿ルーフィング (1本)

35kg 21.2平方米	2500～260

メタロイド金属ルーフィング（1本）
61m×30m 約6坪 3600
シルバーグラスマット（1本）
1m×30m 1800
スーパーメタロイド
61cm×30m 4500
セメント防水剤（50音順）
ウータイト 18立 1300
〃 B 1600
クイックウオータイト 18立 1600
クニ防水液1号2号 18立罐 1800
3号 〃 1600
礦素 50kg袋 300
シーカー 3立罐 400
シフカーA 18立罐 1500
B 〃 1400
急結ボース 18立入 1400
防水ボース 18立入 13000
マノール 40封度 1300
〃（急結） 50〃 1300
パーフェクト 1号（一般防水）18立 1300
3号（仕上塗） 1400
2号（急結） 1500
モルナイト
黒色 17kg罐 1600
灰白色・鶸色 20kg罐 3500
液状モルナイト 18立罐 1800
モルナイト防水層（1坪） 約1000～1100
トタンシール 18立罐
黒色 2400
錆色 3500
アスファルトプライマー 18立 1300
アスファルト乳剤（含有量50%）20立 3000
アスファルト（1噸）
甲ブローン針入度 軟化点
0～5度 130度以上 36300
5～10 110 〃 34300
10～20 85 〃 28500
20～3 75 〃 27300
30～40 65 〃 26400
乙ブローン針入度 軟化点
0～5度 120度以上 34600
5～10 90 〃 32900
10～20 65 〃 24000
20～30 60 〃 23000
30～40 55 〃 22000
アスファルト防水層（小口工事は割増のこと）
2層張 1坪（手間共） 1200～1600
3〃 1600～20000

5 鉄骨工事

等辺山形鋼（1噸）
小形 3×40mm 48000
中形 4×50mm 47000
6又は8×50mm 41000
辺50mmを越え100以下のもの 40000
大形 辺100を越えるもの 39000
不等辺山形鋼（1噸）
中形 辺の和の1/2が50mm以上100以下のもの（但し125×90を除く） 42000
大形 辺の和の1/2が100mm以上のもの 42000
I形鋼（1噸） 大形 51000
溝形鋼（1噸） 高さ フランデ
中形 75×40 51000
100×50 48000
平鋼（1噸）
小形 厚6mm幅19以上65以下 48000
厚9又は12mm 48000
リベット（1噸）
径12mm 長35mm 78000
16 50 70000
19 65 67000
丸鋼（1噸）
9mm 39000
13mm 39000
16mm 39000
19以上28以下 39000
32〃48〃 42000
ナマシ鉄線（1噸）
#8 53000 | 20 64000
10 55000 | 21 66000

6 コンクリート工事

セメント（1袋50kg）
普通ポートランド 450
硅酸又は高炉 420
早強ポートランド 550
白色ポートランド 860
砂利（都内各駅レール渡1噸）1立坪÷10噸
洗8分 770
〃1.0寸 730
〃1.2 700
切込砂利（1噸） 540
砂（都内現場持込1立坪） 5500
火山砂利（レール渡1立坪）
1寸 700 0寸 8500
8分 750 4〃 9000
コンクリート製組立塀
（地上6尺地下2尺控柱付）
1間当り 3300
1尺毎に 500～600
舗道用コンクリートブロック（1ケ）
JISA 5304に依る
30×30×6cm 50
33×33×6 60
米国式コンクリートブロック（1面坪）
外壁用 3000
間仕切用 2000
施工賃（鉄筋を含まず） 850
反枠キンチョウキ（爪付1ケ）
22セパレーター（1ケ）
4寸 1.80
5 2.00
6 2.20
7 2.50
仮枠パネル（松及び杉材1枚）
2 ×6尺 310
1.5× 〃 285
1 × 〃 210
2 ×3 210
混和剤
硅藻土 12kg袋入 160
塩化石灰 30〃 690
砂利（1立） 16.5
AE剤（空気連行剤）
ダレックス 1ドラム55ガロン入 37000
プロテックス 55ガロンダブル 48200
スプーマ 1斗罐 20000
ヴインソル NUX1ドラム55ガロン入 16000

7 煉瓦・タイル工事

赤煉瓦 上焼2等 1本 8
並 7.0
古煉瓦 1本 6.0
耐火煉瓦 #30 1本 30
#32 36
耐火モルタル #30 50kg1叭 300
#33 〃 300
壁用タイル（1坪）
白半磁器 4寸6分角 4300
〃 2寸5分角 5250
色物同クッション3寸6分角 5850
テラカッタ（内装）2寸5分角 4900
SFモザイック 1寸3分角 5200
SFモザイック6分角又は4分5厘角 6300
FTアートモザイック2.5角 7500
FT壁面モザイック 18900以上
墨釉ブルノーズ（笠木） 1尺 50
〃 コーブ（幅木） 1尺 50
外装タイル（1坪）
5mmモザイック 6分角 1800
〃濃コバルトグリーン 3200
磁器質 モザイック8分2丁掛 2000
〃 モザイック8分6角 2200
陶器質 3寸6分角 2600
〃 5寸角 2900
外装タイル
二丁掛平（テラカッタ釉引）A 6600
B 5200
C 4400
〃（タペストリー釉引）A 4000
B 3000
〃（スクラッチ釉引） 3300
〃（〃 無釉） 2400
〃（食塩焼） 2600
四丁掛平（テラカッタ釉引） 7200
その他
クリンカータイル6寸角 1坪 2000
階段辷止タイル 陶器製 1尺 60
鼻付 70
陶器製 50
66ダイヤモンドセーフテイタイル 4分×6寸×3寸（1枚） 30
施釉テラカッタ 平物 1平方尺 約500
繰型物 1尺 約450
上記単価は積算に付随諸雑役物の多少により坪当りに増減あり相屑のみ
タイル工事賃（使用品種役物等に差異あれども凡そ下記の如し）
外装タイル張り（1坪） 750～1500
但し窓台，窓額，パラペット等は含まず
内装タイル張り（1坪） 750～1200
（但し流し浴槽等は含まず）
3尺便所1ケ所当り（腰は含まず） 1000～2000

8 石工事

軟石（市内着駅レール渡）
大谷石 5寸×1尺×3尺 1本 180
〃 6寸×1尺×3尺 1〃 200
伊豆青石 〃 1切 200
藏塚石 〃 1本 190
房州石 6寸×1尺×2尺7寸〃 170
生命石（栃木）6寸×1尺×3尺 〃 200
三国石 〃 〃 200
中軟石（1本）
白河石 6寸×1尺×3尺 150
須賀川石 〃 180

硬石

花崗石	(稲田)	1切	400
	(沢入)	〃	350
	(塩山)	〃	350
	(北木)	〃	800
花崗板石	(厚3—4寸)	尺坪上切	100～20
黒花崗石	(稲島)	5切未満1切	700～500
〃	(三春)	〃	900～100
〃	(勿来)	〃	700～800
万成石		〃	800
小松石	(眞鶴)	5切未満1切	400
本小松石		〃	700
横根沢石		〃	250
月出石		〃	250
白丁場		〃	300

砂岩

日の出石	2切未満1切	約300
銚子石	〃	300
立房石	〃	300
多胡石	〃	380

大理石 (厚8分貼手間共1坪方尺)

岩手大理石	800～1000
寒水石	800
美濃産大理石	800～1000
長州産霰	800～1000
四国産大理石	800～1000
トラバーチン(宇流間石)	800～1000

蛇紋石 (1坪方尺)

秩父蛇紋石	900
貴蛇紋石	1000

抗火石(天城山1ケ)

板型	1寸×5寸×1尺	23
煉瓦型	2×3.3×7寸	23
抗火石ブロック		
内壁用	3.3×4.15×8.8寸	23
外壁用	6.4×6.4×13.0寸	85

鉄平石 (施工費共1坪)

方形薄手	2800
厚手	2600
乱形薄手	2500
厚手	3200
小口張り (割) 天然丹波石	4500～5500

テラゾ (施工費共尺坪)

敷ブロック (厚8分)	350
立上り 〃	380
大便隔 (厚1寸)	750
小便隔 (厚1寸)	850
甲板 (厚1寸2分—5分)	480
カーブ (厚5分)	700
凝石 〃	300
アングル・チャンネル (厚8分)	330

(両面仕上)

人造石ブロック (施工費共尺坪)

富国石	平壁角物厚1寸	300

引金及び太柄金物類1貫 約300

9 木工事

製材品 (本場相場)

板 (1坪)

(秋田) 杉厚2分3厘長6.3尺幅尺

赤一無	1400
白一無	1200
赤一上小	1350
白一上小	1150
赤一小	1150
赤二上	1100
赤二並	315
赤三	270

板割 (1石)

杉丈2厚4分幅6寸

	7	2700
	8	2800
厚5分	6	2950
	7	2660
	8	2750
厚8分幅尺		3000

貫 (1石)

杉丈30.5×3.5寸	一等	4000
	二	2400
	三	1300
0.5×3.3寸	一等	1750
	二	1450
	三	2350

小割 (1束42本)

杉12～13尺 5×6分		1800

垂木 (1石)

松13.2尺1.5×1.3寸	一等	480
	二	2250
13.2尺1.8×1.5	一等	2250
	二	2500

木摺 (1束100丁)

6尺 1.2×0.23寸二等		2500

敷居木 (1石)

松13.2尺 3.5×1.5寸	一等無上小	400

押角 (1石)

杉13.2尺	3.0寸	4000
	3.5	1500
	4.0	1450

正角 (1石)

杉

10尺	3.3～3.5寸	一等	1500
		二	1450
13.2尺	3.5寸	一等	1500
		二	2400
		三	2150
	4.0寸	一等	2200
		二	2100
		三	1850
	4.5寸	一	2350
		二	2150
		三	1700

(尾鷲) 杉

10尺	2.5寸	一等	2300
	3.0	〃	2300
	3.3寸	〃	2150
	3.5寸	〃	1900
	4.0	〃	2000
13尺	3.5寸	〃	2100
	4.0	〃	2700

正角 (1石)

(紀州) 檜

13.2尺	3.5寸	一等	2700
		二	2600
		三	2600
	4.0寸	一	2600
		二	2750
		三	2600
	4.5寸	一	2250
		二	2700
		三	2000

(尾鷲) 檜

10尺	2.5寸	一等	2620
	3.0	〃	2800
	3.3寸	〃	2650
	3.5寸	〃	2250
	4.0	〃	2200
13尺	2.5寸	〃	2500

丸太 (1石)

薬用(東北)松13尺末径4～6寸込			1650
	16	4.5～6込	1900
	19	5～6込	2150

足場丸太 (1本尾ワシ)

中径2.5寸	長22～24尺		200
	26～28		240
	29～31		280
3寸	23～25		250
	26～23		280
	29～31		330

素材 (1石)

秋田杉丸太	尺5上1.2等		4700
	尺上込材		3450
東北杉丸	太5.5寸		1200
	中目		1400
	尺上込		1650
近県杉丸太	中目込		1580
	尺上込		1900
東北松丸太	尺上込		1800
木曾檜丸太	尺下込		4500
	尺上込		6000
	尺5撰材		7700
	2尺上撰材		8500

ベニヤ板 (1坪)

ナラ・樺厚4mm	3×6尺	850～900
桧・タモ・シナ	3×6尺	600～650
ブナ	3×6尺	380～450
	3×3尺	250～300
松	6×3尺	340～380
	3×3尺	290～320
ラワン	3×3尺	390～400
厚物(セン・タモ)	6mm	800～850
	9	1300～1000
	12	1800～2400

床板 (1坪)

幅2寸,2.5寸,3寸 厚6分(5分は1割引)

セン	1級	2000	ナラ	1級	2900
カツラ	2	1700		2	25003
トチ	3	1300		3	1900
ブナ					
タモ	1級	2700	マカバ	1級	3200
シホジ	2	2300	アサダ	2	2850
	3	1700	サクラ	3	2200

フローロングブロック (施工共1坪)

ブナ	3200
ナラ	3800

寄木 (ナラ)施工共1坪 5500～15000

内地濶葉樹 (素材1石)

	ケヤキ類	セン類	ナラ・サクラ・ニレ類	カシイス
板類	300円	230円	250円	350
挽割類	330	253	275	385
角類	321	246	263	375
四ツ割	250	200	220	300

南洋材 (素材1石)

	アピトン級	アナカン級
板類	250円	230
挽割類	275	253
挽角類	268	240
四ツ割	220	200

但し特種ものは次の割合にて加算する。

板類 厚4分—3分3割増, 2.3分以下8割増

直径

3寸未満は3寸計算 1尺未満 2割増

2.5～3尺1割増, 3～3.5尺 2割増

3.5～4 3割増, 4～1.5 5割増

長さ 6尺未満は6尺計算, 18～24 2割増

24～30 3割増, 30尺以上 5割増

木

天井板（1丁）

春日杉	6500～15000
神代杉	5000～15000
吉野杉	3000～18000
秋田杉	1200～14500

落掛（1丁）

春日	1350～3500
吉野	850～1850
桐	2000～3500
〃（貼）	650～1200
桑	850～1850
楓	550～1850
縞柿	1500～2800
黒柿	4500～8500

床框（1丁）

桑	1350～3500
〃（貼）	1000～1800
楓	1850～3800
〃（黒）	2300
黒柿	2200～8500

床柱（1丁）

春日	8000～25000
尾州檜	8500～18000
唐木類	25000～60000
桑	8500～60000
楓	4000～18000
〃（黒）	1800～ 3500
絞り丸太	4000～38000
黒柿	20000～38000

欄間（1組）

桐	4000～5000
桑	1500～1800
彫刻ラシマ杉	2500～5000
楠（彫刻）	2800～3800

床板（1枚）

欅	4500～20000
松	4000～13000
栃	3000～12000

棚板（地板・地袋）

欅	4000～20000
松	3500～12000
栃	2500～9000

面皮柱（1本）北山・吉野　700以上
磨丸太（1本）北山・吉野　600以上

タルキ（1尺）

北山	40
吉野	15

丸太（1本）

香節	120～2300
エゴ	45～ 120
花林	45～ 120
桁	1100～ 3600
出節	2500～ 4000

網代（1坪方尺）　30～200

銘竹

角竹 3寸，3.5寸	1350～ 2300
晒竹	1350～ 2300
黒竹	18～ 200
錆竹	650～ 950
亀甲竹	850～ 1350

10 左官工事

漆喰材料

貝灰	20kg袋	150
石灰（特選・1等）	〃	130
角又	1貫目	850
浜苧	10 〃	5800
下げ苧	1,000本	140

人造石材料（1坪）

研出用小砕石	50kg	490
洗出用 〃	〃	290
〃 豆砂利	〃	600

プラスター材料（1袋）

		下塗用	上塗用
マルコプラスター	20kg	160円	175
三共プラスター	25	160	175
日本プラスター	30	特上	295
		並上	275

石膏プラスター（特級）		
上塗用	25kg	460
下塗用	25kg	390
石膏	25kg	790

特殊壁材

真綿壁	3坪分	270
清光壁	1坪分	140
栄壁	〃	140

木舞壁材料

篠竹	1束100本	200
縄	1巻3貫目	150～160
藁苧	約4貫	190
荒木田土	1立坪（持込）	6000
木舞掻き（手間共1坪）		800～900

壁色剤

着色漆喰	1坪分	115
色土	1斗	360
西京土	2斗5升俵入	350
着色剤マイン（1袋）		
緑	500g	440
青	500	350
黄	500	175
エビ茶	450	60
赤	500	120

パーム　500

漆喰用アルガ糊（1貫目入）　800

塗壁工費（手間共1坪）

漆喰塗	（木摺下地並にコンクリート下地，天井蛇腹除き）	1050
プラスター塗		900
木摺壁（並木摺下地）	漆喰	1100
〃	大津	900
塗り替え砂物漆喰仕上	但し以上は20坪以上の場合に限る	750
人造石洗出（ラス張りより仕上まで）		2500
人造石研出	〃	3500
リシン塗	〃	2200
モルタル塗	〃	1400
セメント吹付		200
ドロマイト塗		600
テラゾー塗（手間共1平方尺）		240

11 薄鈑工事

亜鉛板（1瓩）

厚4.5mm×3×呎	670000

薄鋼板（1瓩）　3×6呎　30吋×6呎

厚0.29	60000	0.70	52000
0.35	60000	0.90	55000
0.40	60000	1.0	53000
0.45	63000	1.2	50000
0.50	53000	1.6	53000
0.55	60000	2.0	56000
0.60	53000	2.3	53000

亜鉛鍍平銅板（3×6尺1枚）

26番	550	30	380
28	490	31	330
29	435		

亜鉛鍍生子板（1枚但し3×6は100円高）

28番	495	30	385
29	440	31	335

銅板（瓩板1kg）

厚0.26×365×1200mm	48
0.28 〃	48
0.30 〃	48
0.40 〃	460

菊富士銅板（1枚1尺×1.2尺）

厚 0.22mm	120
0.27	130
0.31	150
0.36	50

真鍮板（銅板に溶ず110円安）

アルミニューム平板（1枚）

厚0.5mm×3×6尺	750
0.8	1100

アルミニューム波板（1枚）

小波厚0.3×910×1820mm	500
24山厚0.5×910×1820mm	750
大波（12山，10山）	750

デュラルミン板（1kg）

厚0.5mm×1m×2m	350
0.8	340
1.0	340

ステンレス板（1枚）

18—80cr片面磨板1×2m	
0.8mm	21000
1.0	22000
1.5	27000
13cr.片面面磨鈑 3×6尺	
0.8mm	5000
1.0	6000
1.5	7500

浴板 厚1.6，2，3mm1kg　185
半田 1kg　570

パンチングメタル（1坪方尺）　鉄製 90　真鍮製 400

耐酸メタル（1坪方米）

波板#26幅300mm長18.1，2.12，2.42m		
材料のみ	12山半	1250
葺材料手間	木骨の場合	80
	鉄骨 〃	150
棟包，谷樋，雨押類（1坪方米）		
28		1100
26		1300

軒樋，竪樋（1米）

軒樋	円	竪樋	円
径 90mm	厚28 210	厚29	395
105	〃 242	28	455
120	26 322	〃	610
135	〃 360	〃	680
150	〃 385	26	750
165	24 490	〃	820
180	〃 530	〃	890

荷造現場取付費は含まず

ベンチレーター（1個廻轉式及び固定式）

3吋	330円	6	850
3.5	360	7	970
4	430	8	1300
4.5	560	10	2000
5	680	12	2500

銅鈑製は上記の約3倍

12 金属工事

構造用鉄物

丸釘

長	直径	1樽60kg入
6分5厘	1.4mm	4000
7	1.4	3900
8	1.6	3700
1.0寸	1.8	3600
1.2	2.0	3500
1.4	2.3	3400
1.6	2.6	3300
2.0	2.9	3250
3.0	3.2	3150
3.2	4.0	3100
3.5	4.0	3050
4.0	4.5	3050
5.0	5.0	3050

屋根釘

3.0寸	3500
3.2	3500
3.5	3500

丸合釘 (単価は丸釘の各々100円高)

平小鋲・山小鋲 (1貫目) 185

ボールト類 (ナット・角座2枚付1本)

長	経4分	経5分
4寸	17.50円	30.00
5	19.00	32.50
6	20.50	35.00
7	22.00	38.00
8	24.00	41.00
9	27.00	43.00
10	27.50	46.00
11	31.00	50.50
12	32.50	55.60
13	34.00	56.00
14	36.50	62.00
15	38.00	64.70
16	40.00	65.00

鎹 (1本)

	33丸	12丸
4寸	4.5円	15.5
5	5.3	17.5
6	6.0	18.5
7	——	17.5
8	——	19.0

アンカーボールト・羽子板ボールト・丹冊・箱金物・曲金物類 (1貫目) 300

普通鉄線 (100kg)

規番6	直径5.0mm	5200
8	4.0	5200
10	3.2	5300
12	2.6	5500
16	1.6	6200
18	1.2	6500
20	0.9	6700

鉄条網#14 (25l丸) 1800

亜鉛引鉄線 (50lgg丸)

		100kg当り
規番6	直径5.0mm	6200
7	0.5	6000
8	4.0	5900
10	3.2	6200
12	2.6	6400
14	2.0	6600
15	1.8	6700
16	1.6	6800
17	1.4	7000
18	1.2	7200
19	1.0	7400
20	0.9	7600
21	0.8	7900

銅線 (1kg)

#20	435
#18	425

ワイヤロープ (1米)

直経	4号 (19×6) 鍍金	
6	〃	75
8	〃	100
9	〃	120
10	(24×6)	150
12	〃	175
14	〃	250
16	〃	260
18	〃	370

金網 (1巻)

繊網銅	5東目	11200
ブロンズ	4〃	16800
真鍮	5〃	1200
亜鉛引	5〃	3220
〃	4〃	3640
青エナメル	5〃	2800

亀甲形網

3分目	23番線	3×100尺	2660
4	24	〃	1260
5	24	〃	1260
8	〃	〃	980
1寸目			583

亜鉛引菱形金網 (6尺巾)

10	950
12	700
14	465

ワイヤーラス

モルタル壁用20番 時半 1坪	75
同上用釘 #16 8分 1貫目	300

メタルラス (日本工業規格JISA5505R) 1坪

平ラス	1号	140
	2	160
	3	270
コブラス	1号	160
液状ラス	1号	200
リブラスA	1号	530
	2	600
	3	670
リブラスB	1号	850
	2	1000
	3	1200

軽量チャンネル (1坪)

2重壁	材料 3500円	手間	500
1重壁	〃 2200	〃	250
天井下地	〃 2600	〃	350

真鍮パイプ (1gg)

径1.5吋	厚2mm	500
2.0	〃	500

同上 (ニツケル鍍金1尺)

3分	30	8牙	90
4	40	10	110
5	48	12	140
6	60		

ステンレスパイプ (1尺)

外径 1吋	厚mm (13cr)		120
〃		(18—8 cr)	600
2吋	厚1mm (13cr)		200
〃		(18—8cr)	1000

コーナービード	真鍮 6尺		200
ジョイナー	鉄 〃		50
	アルミ 〃		50
継手クロス	鉄 〃		8
	アルミ 〃		8
階段辷止金具	鉄 1尺		120
	真鍮 〃		190
	アルミ 〃		100
床目地金具	真鍮 6尺		200
通釣金物	宇首3.5寸	1本	5.0
	〃4	〃	5.5

13 建具工事

木製建具

和風建具本 (規格品1枚)

玄関水腰格子戸	900～1200
玄関腰付格子戸	700～1000
腰付横桟子戸	550～750
腰付八枚桟子戸	520～750
水腰横桟子戸	750
腰高六枚桟子戸	430～780
腰高開桟子戸	500～800
肘掛窓横桟子戸	300～450
肘掛窓八枚桟子戸	220～450
二八窓横桟子戸	220～320
二八半窓桟子戸	180
二八窓六枚桟子戸	170～320
便所尺五窓桟子戸	120
便所尺二窓桟子戸	80
便所掃出窓桟子戸	60
尺二櫛間窓桟子戸	200
長雨戸	420～950
肘掛雨戸	400～950
ベニヤ引違無良戸	680
ベニヤ開舞良戸	650
便所板戸	400～950
ベニヤ帯戸	720
ケンドン吾妻障子	950
肘掛ケンドン吾妻障子	650～900
横繁無地障子	350～430
縦繁無地障子	460～530
横繁額入障子	380～480
縦繁額入障子	480～600
横細桟子障子	350～480
横ケンドン障子	700～950
クグリ付門戸	2500～4500

洋風建具 (規格品1枚)

腰唐戸	1100～1800
唐戸	1300～2000
フラッシュ額入	2500～4000
無地	2400～3900
ベニヤ合板額入	1850～2300
無地	1350～2000
片面張額入	1600～2000
太鼓張額入	1800～2500

襖 (規格品1枚)

片面押入用引違及開	380～680
両面間仕切用引違及開	440～750

鋼製建具

スチールサッシュ (20平方尺のものを基準)

嵌殺 (1平方尺)	250～300
廻転 〃	400～450
辷り出し 〃	400～450
両開 〃	650～750
上げ下げ 〃	950～1100
引違 〃	650～750

スチールドアー (1平方尺) 1050～1200

都内現場取付費はサッシュ及びドアー共上記の額に1～1.5割を加算すること。但し運賃は含まず

スチールシャッター (1平方尺)

ケース付100平方尺を基準とす 900～1100

ネットシャッター (1平方尺) 900～1100

現場取付費は上記の1～1.5割を加算すること。但し運賃は含まず

ホールディングゲート (1平方尺) 500

金庫扉及び防火扉 (1ヶ所)

錬鋳鉄製倉庫入口用金庫扉

枠内法	4×6×1.2尺
扉厚	6寸錆止塗 240000

鋼鉄製倉庫入口用金庫式扉
枠内法 4×6×1尺
扉厚 4寸錆止塗 140000
同 片開キ
枠内法 2.8×5.8×0.25尺
扉厚 0.25尺 65000
枠内法 2.8×5.8×0.8尺
扉厚 0.35尺 105000
錬鉄特製金庫窓用防火扉
2号 枠内法2.2×3×1尺
格子付,扉2段,受枠3段 25000
3号 枠内法1.6×2.4×1尺
格子付扉2段,受枠3段 23000

建具用金物

扉用金具

真鍮角蝶番	3吋	1ケ	40
	3½	〃	65
	4	〃	85
	5	〃	160
真鍮蝶番ギボシ付	4吋	1ケ	160
	5	〃	260
	6	〃	420
自由蝶番両	3	1組	270
	4	〃	340
	5	〃	500
	6	〃	660
軸釣金物 No.120		〃	4000
函錠	2½	大形 1組	700
	2	合形 〃	600
	1½	中形 〃	550
シリンダー	2½	大形 〃	1700
	2	合形 〃	1600
空錠	2	合形 〃	550
	1½	中形 〃	420
ナイトラッチシリンダー(1組)			950
板鍵		1ケ	300
戸当り		〃	90
ドアーストップ		〃	400
上ゲ落シ1尺×5寸		1組	150
押板 6寸		1枚	110
8〃		〃	140
1尺		〃	260
ドアーチェック		1ケ	2000
		1組	1500

引戸用金物

レール	2分鉄丸	6尺	30
	〃鉄甲丸	〃	25
	〃真鍮	〃	130
戸車	1寸普通	1ケ	8
	1寸真鍮	〃	18
引手			
真鍮打出し	2.5寸	1ケ	10
〃鋳物	3寸	〃	45
締金物	大形 1¾	1組	600
錠	中形 1¼	〃	400
	小形 1	〃	370
捻シマリ	寸	1ケ	15
差込捻シマリ中折		〃	25
堰金		〃	17
釣戸レール		上 6尺	500
		下 〃	230
四ツ車			420
ローラ			50
受金物			76

窓用金物

上ゲ窓下ゲ窓			
蝉車	鉄製	1ケ	40
重錘		1貫目	160
紐		1尺	10
手掛		1ケ	35
締金物		〃	60
片開キ窓用			
蝶番 真鍮3吋		1ケ	40
〃 4		〃	85
鉄 3吋		〃	11
〃 4		〃	20
ハンドル付締金物		〃	70
七ツ目調整器		〃	80
廻転窓及び廻転欄間用			
回転金物		1組	40
キャッチ		〃	55
フック棒		1本	65
紐止捻足		1ケ	15

カーテンレール(6尺)

真鍮 附属付	250～500
鉄	

ロールブラインド (1平方尺) 60～75

通風日除 (1平方尺)

布製	250
スチール	220
軽金属 ラツカー塗	200
木製 素地	60～85
エナメル塗	120～150

ロールスクリーン (1平方尺) 400

14 塗装工事

油類 (容器共を含む1缶)

ボイル油	16kg	3800～4400
速乾ボイル油	16	3200～3500
地塗用 〃	15	2000～3000

調合ペイント類 (25kg1缶)

白亜鉛ペイント	A	8500
	B	5000
白鉛ペイント		4000

オイル・ワニス類 (16kg1缶)

ゴールドサイズ	A	4500
	B	3300～3800
コーパルワニス		3500～4200
スパーワニス		3800

酒精ワニス類 (15kg1缶)

白ラックニス	4000～4500
薄め用ニス	2500～3000
速乾ニス	3500～4000

油性エナメル類 (25kg1缶)

白エナメル	5800～8000

人造樹脂塗料類 (20kg1缶)

フタル酸白エナメル	7500～8700

錆止塗料類 (1缶)

含鉛錆止酸化鉄ペイント	25kg	475～5400
錆止ペイント	〃	3200
外装用アルミペイント	16kg	42000

エマルジョン塗料 (15kg1缶)

外部用各色	3800～4300
内部用2	800～3000

水性塗料 (2kg1袋)

水性塗料白色	75～100
〃 淡彩	150

ニトロセルローズ塗料 (1缶)

フイニッシュラッカー	16kg	7000
クリヤラッカー	〃	7000
刷毛塗用クリヤラッカー	〃	6000
ラッカー白エナメル	18kg	8000～9000
黒	16	7000～8000
赤	16	7500～8500
リターダー	15	6200

オイルステイン(15kg1罐) 1800～2500

雑類 (1缶)

糊状ドライヤー	30kg	3300
液状 〃	16	3500
ペイント剝離剤	15	4000
パテ	30	1500
堅練白亜鉛	A	7500～9000
	B	4500
〃白鉛	A	6500
	B	4300
	C	3100

防腐剤 (1缶)

コールタール	18kg	550
クレオソート	15	600～700

漆 (1貫目)

精製漆	12000～15000
下地用生漆	9000～12000
国産漆	10000～12000
外地産漆	8000～10000

柿渋 (桶上1樽1斗) 5000～6000

塗装工費 (1面坪・單價円)

	1回	2回	3回
鉄木部ペイント塗	377	491	658
鉄骨及屋根 〃	168	359	——
テックス面 (油性)	519	833	——
外部壁体面 (〃)	305	553	634
内部 〃 (〃)	164	290	——
水性ペイント塗 (一般)	147～177		
〃 (テックス面粗面)	167	259	——
エマルジョン塗	200	303	395
オイルステイン塗及油拭仕上	119	303	446

	3回	4回	5回
木部ステイン・ワニス塗	486	653	859
エナメル・ラッカー塗	1408	1877	2348
木鉄部エナメル塗 木部	6回	1156	
鉄部	7回	1259	

	5回	6回	7回
クリヤラッカー塗	1105	1397	2131

15 内装工事

壁紙張及び布張

下張用紙	2×3尺	1枚中物	6
石州	0.82×1.15尺1帖		40
西内	1.43×0.96尺1帖50枚		120
障子紙㊎2間4枚分			150
鳥の子紙	3×6尺	1枚中物	200
紙布(模様入)	〃	〃	90～500
三菱壁紙		1巻2坪分	300～400
生麩		1貫目	400

壁張用 (1坪)

和紙	短繊維	巾3.5尺	長30尺	1360
	中			1440
	長			1700
綿布	短繊維	巾2.9尺	長30尺	2260
	中			2340
	長			2560

襖張用 (1枚)

和紙	短繊維	巾3.5尺	長6尺	550
綿布	〃	巾2.9尺	長6尺	1030

4 〃 470
セミハード 4分×3尺×6尺 530
ハード 2.7分×3尺×6尺 520～530

味の薬吸音板 (1坪)
4分×1尺×1尺 1800

目地棒 6分×6尺 1本 20
〃 1箇 15

木毛セメント板 (1坪)
太木毛 3分×6尺×2尺 400
4 〃 450
5 〃 530
細木毛 3分×6尺×2尺 470
4 〃 〃 520
6×3尺物ハ30円高

タイカボード板 (1坪)
1.5分×6尺×3尺 480
2分 ×6尺×3尺 500
3分 ×6尺×3尺 950
2分 ×1m×2m(1枚) 325
2分 ×3尺×8尺(〃) 380
2分 ×4尺×8尺(〃) 500

石綿スレート大平板 (1枚)
6又は7.5×910×1820mm 460～540

岩綿 (1枚東京工場渡し)
保温板 25mm×2×3尺 230
保冷板 50mm×1.5×2尺 240

ミネラルフェルト
50mm×1.5×2尺 300
岩綿板 5mm×1×1m 特 380
〃 1号 300
ラスボード 2吋×2×3尺 330
壁材 厚10mm塗壁(手間共)1400

ロックウール (1kg)
屑状綿 19～22
1号～2号 16～22
鉱滓綿 12～22

コルク
厚3分板 (1坪) 3300
4分〃 3800

断熱炭化コルク板 (1枚)
2吋×2×2尺 350
3吋 〃 550

コルク粒 (吹付用5厘目 1貫目) 450

新畳

特級品	床	500～600円	1250～1600
	表	450～550	
	縁	100～150	別=運賃敷込
	工賃	200～300	諸掛 50円
1級品	床	450～500	
	表	350～430	1080～1250
	縁	100～120	別=30
	工賃	180～200	
2級品	床	350～400	
	表	250～300	800～950
	縁	80～100	別=30
	工賃	120～750	
3級品	床	330～230	
	表	200～230	690～780
	縁	60～80	別=30
	工賃	100～120	
特価品	床	300	
	表	160	600
	縁	50	別=30
	工賃	90	

表替ハコレヨリ床代及運賃敷込諸掛ヲ差引キ工賃ハ大略2割引

青表 (琉球1枚) 1級品 400～500
2級品 350～400
並品 300 前後

洗綿類 (1坪方尺)
緞通 900～1500
ウイルトン 400～600
フックラッグ 170～300
パイラー 400～600

リノリューム (市尺長1幅)
茶色 厚2.5mm 1425
〃 3 1600
〃 4 2000
色物 (グリーンジヤスペー)
厚2.5mm 1700
3 1800
4 2250
施工費 (1坪) 400以上

リノタイル (1坪)
厚4mm 1尺角 4250
施工費 500以上

リノリューム糊 20kg 1罐 3300

ゴムタイル (ラバータイル) 1尺角1枚 約200

ラバリューム 手間共1坪 7200

レキセリューム チヨコレート色手間共)
1平方米 850

アスファルトタイル (1坪工賃共)
12〃×12〃×1/8 黒・黒褐色系統3500
9〃× 9〃×1/8
12〃×12〃×1/8 赤・緑・青
9〃× 9〃×1/8 其他色物 4500

ザンライト (1坪) 3×6尺×1.3分 690

メラミン化粧板デフラ
A 標準厚み 1.5mm
B 標準寸法3尺×3尺1枚 ¥1,980
3尺×6尺1枚 ¥3,960

16 硝子工事

板硝子

品種	品等	一箱入数(百平方呎)	一箱=付
並厚透明	A	7枚～16枚	4810
	〃	17～103	3700
	B	7～16	3990
	〃	17～103	3080
摺	…	〃 〃	3280
3耗透明	A	4～6	4700
	〃	7～16	7410
	〃	17～26	5710
	〃	27～103	5420
	B	4～6	8100
	〃	7～16	6190
	〃	17～26	4760
	〃	27～103	4520
5耗透明	A	4～6	20750
	〃	7～16	16030
	〃	17～26	13410
	〃	27～103	12050
	B	4～6	17280
	〃	7～16	13370
	〃	17～26	11170
	〃	27～103	10040
6耗透明	A	4～6	28270
		7～16	22440
	〃	17～26	18850
	B	4～6	23570
		7～16	18690
	〃	17～26	15700
薄型板	—	17～103	3390
厚型板	—	4～17	6830
綿板	—	〃～〃	8960
網入縞板	—	〃～〃	15900
網入型板	—	〃～〃	15900

5耗6耗磨板1平方尺につき

特選	4～6	513	
〃	7～17	424	
〃	18～39	347	
〃	40～49	329	
〃	50～75	296	
〃	76～103	212	
〃	104以下	172	
標準	4～6	490	
〃	7～17	406	
〃	18～39	331	
〃	40～40	315	
〃	50～75	283	
〃	76～103	202	
〃	104以下	164	
磨網入板	—	4～6	511
	—	7～17	423
	—	18以下	347

硝子ブロック (硬子彊瓦1個)
200×200×95mm 350～700

床硝子 (1個) 280
角型 4寸角 150～280
丸型 径4寸 150～280

ステインドグラス (1平方尺) 1000～4000

色板ガラス (1箱100平方尺) 25000～40000

熱線ガラス 1平方尺 700～1000

エッチング硝子 1平方尺 300～1500
5～6mm厚硝子を標準とす但し硬子代は含まず

光り波形ガラス (1枚)
厚約5mm×2.4×3.3尺 1800
施工手間共 2000

多泡硝子板 (1枚)
75mm×600×600 440
50mm× 〃 293
25mm×300×300 36

風防ガラス・アクリライト板

(1平方尺)		mm mm
1mm	242円	500×350
1.5〃	330〃	600×900
2〃	352〃	2000×1000
3〃	497〃	〃
4〃	662〃	〃
5〃	772〃	〃
6〃	926〃	〃
7〃	1080〃	〃
8〃	1234〃	〃
9〃	1389〃	〃
10〃	1213〃	〃
15〃	1815〃	〃
20〃	2424〃	〃

(30mmまであり色板は上記10%高)

17 屋根葺工事

柿板	松 2把1棚	320～380
	杉 〃	350～420
杉皮	1束	180
檜皮	〃	190

日本瓦 (1枚)

	地瓦	三州瓦	塩焼瓦
桟瓦	18～ 21円	19～ 29円	20～ 25
唐草	33～ 37	35～ 40	40～ 46
一文字瓦	70～ 75	70～ 75	80～ 90
ケラバ	23～ 37	35～ 45	42～ 45
丸瓦	19～ 21	20～ 25	24～ 27
ノシ	15～ 18	18～ 23	19～ 24
重箱	53～ 65	65～ 76	81～ 93
冠	32～ 35	34～ 36	45～ 48
鬼	140～170	160～300	200～350
トンビ	50～ 60	60～ 70	80～ 90
巴	50～ 60	60～ 70	70～ 80
葺上 1坪	1800	2000	2200

洋瓦

	フランス型	S型
桟瓦	32～ 35円	35～ 38
ケラバ	65～ 75	65～ 70
重箱	70～ 80	半瓦30～ 35
雁振	65～ 75	7寸50～ 60
巴	100～150	90～130
三ツ又	250～180	250
鬼	300～350	トンビ130～250
面戸	15	
葺上 1坪	2200	2600

釉薬瓦 (青緑色) 同S型 (青緑色)

桟瓦	50～ 55円	60～ 65
ケラバ	100～120	100～130
重箱	140～160	半瓦 45～ 55
雁振	120～140	7寸100～120
正	200～250	250～300
三ツ又	300～400	500～600
鬼	450～500	トンビ300～350
面戸	20	(両種共緑色は1割安)
葺上1坪	4500～5000	4000～4500

天然スレート (葺上共)

ウロコ型	0.6×1尺	1550
	0.5×0.7	500
一文字型		1500

セメント瓦 (1枚色物ハ1円増)

	和型	和型
平瓦	13～15円	13～15
ケラバ	26	28
棟	26	30
巴	35	35
葺上1坪	1100～1200	1000～1200

厚型スレート (1枚 色物ハ1割高)

平瓦	23円	巴(中)	30
軒瓦	33	(小)	30
ケラバ	38	ノシ	27
重箱	50	三ツ又	250
山形棟	38	鬼(大)	250
二重棟	50	(中)	170
巴(大)	50	(小)	130
葺上1坪		1000～1200	

綿スレート (1枚)

大波板	8×700×1820mm	550
小波板	8×717×1820	460
リブスレート	6.5×833×1820	490
〃	A品9×748×985	260
小平板 (16吋)	4×400×400	35～40
	5×400×400	42～55
小平新型	6×400×400	36
アサノ網代板 (灰色白)	33枚1坪	1700
〃 〃 色物	〃	1850
ケラバ	8×150×182mm	300
山棟	9×180×180×970〃	190
隔当	6×150×150×1820〃	250
巴		150
葺上 1坪		
小波板		1500～1600
大波板		1750～1850
リブスレート		1500～1700
〃 A品		1600～1800
小平板		1400～1500
小平新型		1400～1500

スカイライト (硝子屋根1平方尺)
(5mmスダレ硝子使用下部亀甲型金網張り)

	木骨 亜鉛引鉄板製	木骨 銅板製	鉄骨 亜鉛引鉄板製	鉄骨 銅板製
20尺²以下	400円	450円	430円	480円
50 〃	360	410	400	450
100 〃	350	360	350	400
200 〃	290	340	330	380
200尺²以上	280	330	320	370

6mm網入綿板硝子使用の場合は1尺に付鉛50円増し上記単価は市内及近郊とし地方出張取付けの場合は1～1.5割増

18 衛生工事

鋳鉄管

水道用 (1屯)

直算印籠型	75×100mm	56000
	150× 250	56000
	300×1500	56000
〃 両鍔型	75× 100	61000
	150× 250	61000
	300×1500	61000
異型管	75× 300	76000
	350× 820	7700
	0900×1500	77000
〃 Y型	3吋 (1本)	1000
	4〃	1500

排水用直管 (1本) 4〃×1.6m 2600

瓦斯管 (1呎)

径	黒 (ネヂ付)	白 (ネヂ付)
½吋	43円	63
¾	48	76
1	67	98
1¼	89	133
1½	106	150
2	130	200
2½	195	295
3	327	343

継手

エルボ平形 (白1個)

½吋	35.7
¾	51.5
1	73.7
1¼1	13.0
1½	152.7

チーズ (1個)

½吋	40.7
¾	58.1
1	81..3
1¼	122.8
1½	1.684

ユニオン (1個)

½吋	122.0
¾	152.7
1	183.0
1¼	244.8
1½	235.3

鉛管 (1屯)

普通管	180000
合金鉛管	180000
雑用鉛管	180000

弁 (1個)

砲金ゲート弁	1吋	666
〃 ストップ	1	455
鋳鉄ゲート弁	4	8600
〃 ストップ	4	9000

水栓 (1ケ)

都型水栓	½	240
	¾	400
	1	450
アングル弁	½	670
横水栓	½	520
	¾	700
	1	750
立水栓	½	600
胴長水栓	½	540
	¾	770
自在水栓	1½	950
湯水混合水栓	½	2400
散水栓	¾	570
小便水栓	½	800
衛生水栓	½	540
小便チヤッキ付バルブ	½	700
ボールタップ単式	½	600

洗面器

L I 高級型洗面器	20×18	7500
L91 長角型 〃	20×15	3500

手洗器

L 5 平付手洗器	14¾×12⅝	1800
L21 前丸 〃	10×10(込)	500
L60 隅付 〃	9½×11(込)	550

和風大便器

C 1 普通水洗式大便器	10¾×22	4000
C 52 非水洗後穴大便器	11×22	2000

洋風大便器

C15 ウオッシュダウン式	14×18×15H	6000
C38 サイフォンゼット式	14×25½×14½	20000

小便器・ストール

U 5 水洗式小便器	13×10½19H	3300
U53 小型ストール	12×12×34	8300

水槽

S28 四ガロンハイタンク	19×10×12	4000
S31 四ガロンロータンク	19½×7×14¾	7200

非水洗便器

C17 大便器	10½×31 (込)	1000
U 9 小便器受筒附	12½×10	130₀

流　し
SK6　バックなし台所流し
30×18×6½H　8800
バスタブ（1ケ）
BH—13　1015×710×640㎜　85000
BH—10　1675×735×480　83000
BH—20　1525×7.5×480　72000
BH—29　1675×750×480　100000
BH—32　1525×750×480　93000
洗濯器
SK36　570×520×410　17000
以上頭文字は東洋陶器の型録番号2流品は20%安
シャワー金具（1ケ）
固定式　½吋　1200
首振　1020
胴長甲止　550
ミシキングバルブ　4500
フラッシュバルブ　1吋　3300
リードフラッシュ　1550
アンドンサイホン　金具付　1ケ　650
ダブルサイホン　1¼吋　1300
洗滌管　1¼　1650
シスタン　750
トラップ（1個）
洗面　P型　1350
床排水　4吋　610
モーター（日立製）1台
単相反撥　¼HP　14000
誘導　¼　10500
単相反撥　½　20000
誘導　1　18500
3　25200
三相開放　½　15000
普通籠型　1　16000
2　17040
3　23000
5　31000
開放特殊籠型　7.5　41000
動力ポンプ（日立製）
家庭用　浅井戸　1号　50000
〃　深井戸　3号　66000
手押ポンプ（丸八製）　3寸2分　3200
3寸5分　3300

19 電気工事

単線（300米1巻）　第二種　第四種
1.6㎜　3800円　6000
2.0　5100　6900
2.6　6400　11500
3.2　10000
撚線（第二種赤1m）
5.5㎜²　60
8　87
14　120
22　160
裸銅単線（1kg）
2㎜　400
4　400
5　400
ケーブル（1m）
8㎜²　高圧鋼帯3芯　550
14　低圧〃　〃　500
屋内ゴム線（1m）　0.8㎜　23
屋外ゴム線（2本撚電話用1m）　1.2㎜　33
コード（1m）
電燈用　2ツ撚　16
防湿用　〃　170
被鉛電線（1m平型2芯）
1.6㎜　130
2.0　140
キャプタイヤ（1m3芯　二種）
2.0㎜²　110
3.5　180
5.5　240
コンチットチューブ（1本12尺物）
厚1.6㎜　径31吋　365
1.　600
厚2.5㎜　内径¾吋　900
1　1200
2　2800
フレキシブルチューブ（1m）
0.5㎜　⅝吋　40
0.5　¾　50
積算電力計（1ケ1級品検定付）
単相　10A　2250
20A　2300
三相　20A　6000
30A　6300
交流電流計（1ケ）
配電用6吋バック型（10~50A 1級品）　4200
交流電圧計（1ケ）200~300V　4200
開閉器スイッチ類（1ケ）
二極開閉器　30A　埋込型　350
三極刀型〃　60A　〃　600
安全開閉器　15A　62
20A　80
シーリングロゼット
高台6A引掛け磁器製　235
並台6Aネジ込み　580
コンセント　露出　二極10A　15
埋込　〃　26
スイッチ　ブル磁器製　3A　38
電熱用　145
トングル（埋込）　37
ソケット類（1ケ）
キー付　6A　27
防水ソケット　磁器製　32
ホルダー　真鍮　18
テープ類（1巻）
ブラック　¾吋　（15m）　50
ゴム　〃　（7.5m）　80
綿　〃　（30m）　125
リノ　〃　（60m）　605
ヒューズ
糸　10A　125
板（5A）　100ケ　620
碍子類
茶台　低圧用中　一俵80入　1400
大　50　1800
高圧用小　42　1850
ピン　低圧用小　一俵120入　3600
大　40　2400
高圧用　115×115（1ケ）　78
ノップ　小　35×50　一俵150入　44
低圧碍管　9×150（1本）　100
蓄電池　初光電付GS
AR 5~6　7500
木箱蓄電池　AW7~6　12000
標準変圧器（1台）
単相　油入　3　KVA　23000
7.5　〃　35000
10　〃　40000
20　〃　67500
三相　油入　3　〃　28500
5　〃　36500
10　〃　54000
20　〃　100000
扇風機（1台）
16吋　13500
12　10900
8　6300
換気扇（1台）
16吋　8200
12　7800
螢光燈（1ケ）20W　白色　480
40W　660
螢光灯照明器具（マツダ1個）
40W 1灯用工場及一般向
ラインライト照明器具
FT—4107—100　4800
（200）　3300
40W 2灯用工場及一般向
ラインライト照明器具
FT—4127—100F　8000
（200）　5500
40W 2灯用工場及一般向
ラインライト照明器具
FR—4127—100F　10000
（200）　7500
40W 3灯用事務所商店向
照明器具　FR—4134—100F　23500
（200）　20000
〃　〃
FR—4135—100F　23000
（200）　19500

20 暖房工事

放熱器（鋳鉄製JIS）
5細柱（1本）
950㎜　1473　650　923
800　1173　600　850
700　995　500　734
2柱　（1本）
900　1245　650　790
800　990　600　745
700　856　500　640
壁掛型（1枚）　甲　2330
乙　2334
ギルド型（1本）　2850
放熱器弁（1ケ）
アングル型　½吋　880
¾　1050
1　1240
ストレート型　½吋　950
¾　1150
1　1350
空気抜弁（ビーコック1ケ）　60
自動空気抜弁（1ケ）　350
トラップ（1個）
放熱器用　½吋　1200
¾　1495
1　1730
バスケットトラップ
アームストロング型　½吋　1750
¾　1750
1　2000
フロート型　½吋　4000~8000
¾　4000~8000
1　5000~10000
伸縮継手（1個）
シングルルスリーブ型　1吋　2000
2　4000
3　8000
ダブルスリーブ型　1吋　3200
2　6900
3　14500

建材価格表

ボイラー（アサヒボイラー1台）

アサヒ	106	178000
	108	209000
	206	261000
	209	321000
	306	502000
	310	533500
	408	581500
	410	697000
	508	810000
	510	975500

ストーカー

I. M. Coal Sender（1台工場渡し）

# 102	½HP	6～36（KGIH）	85000
# 103	½HP	14～ 81	100000
# 104	1 HP	19～150	155000
# 105	2 HP	26～204	175000
# 106	2 HP	36～290	210000
# 107	3 HP	45～363	235000
# 108	5 HP	57～454	295000
# 110	10 HP	85～680	365000

暖房用ポンプ

温水循環ポンプ

½吋 揚水量 0.113米/分 1HP	15000
2 吋 〃 0.226米/分 2HP	17000
3 吋 〃 0.63 米/分 3HP	22000

上記はモーター直結型（モーターは別）

サイアミーズ コンネクション（1基）

単口	10000～12000
双口	16000～18000

瓦斯器具（1台）

瓦斯ストーブ		1600以上
〃 スペースヒーター		7950 〃
〃 サーキュレーター		35000 〃
〃 レンヂ		13000 〃
〃 湯沸器（ジユピターオートボイラー）		
W—25号	66×23.5×19.7cm	35000
W—101	93×40×29	48000
W—102	99×40×29	55000
W—103	97×51×33	75000

消火器（1台）

泡沫		
2.5 ガロン型	眞鍮製	4700
	鉄製	3500～3700
硫酸		
2.5 ガロン型	眞鍮製	4700
	鉄製	3500～3700
手押ポンプ		
3.5 ガロン型	眞鍮製	5800～6000
	鉄製	4600～4800
四塩化式		
¾ ガロン型	眞鍮製	4200
	鉄製	3500～4600
1 ガロン直転製		5500～5800
4 〃		5000～5500
四塩化ポンプ		
1 ガロン型	鉄製	5000
炭酸ガス	鉄製	4600

建設資材の審査について

本会内に建材審査委員会を設け建設に関係ある新旧資材の審査を行つている。

之は建材の品質につき其良否を審査し需用者側の安心感を得ると共に斯界の向上発達を期せんとするものである。審査の結果優良と認めるものには会誌で報告する外設計施工面の主たる関係先に紹介している。

建材業者の受審申越を熱望すると共に会員各位並に大方の御支援により本委員会を利用される様御協力をお願申上げる。

建材審査委員会規程

1. 本委員会は一般建築資材の調査、研究、試験果をなし審査の結果良否を認定し以て斯界の向上発達を図ることを目的とする。
2. 審査を受けようとする者は一件毎に所定の申込書に別に定める審査会費を添へ現品其の他本会が指定する資料を提出する。
3. 審査の方法は依頼者より説明を聴取し調査研究又は必要に応じ試験分析等をする。
4. 本委員会の意見は全委員3分の2以上を以て決する
5. 審査の結果、優良品に対しては一件毎に別に定める調査費用を申し受け優良証明書を発行する。
   其の他のものに対しては意見を附けて申込者に通知する。
6. 優良証明書を発行した場合は建築と社会に掲載する外諸官庁、設計関係者に周知につとめ尚ほ適当の方法で宣伝する。
7. 優良証明書に対する責任は審査委員会に提出された現品について負うものである。
8. 優良証明書は発行より1ケ年有効とする。
9. 本証明書を不正に利用された実情判明した時は直に取消の通知を発すると共に一般に公表する。

社団法人 日本建築協会

寄贈交換雑誌案内

現在本会に寄贈及交換並に購入している書籍は下記の通りで、同書籍は本会図書室（朝日ビル6階）に備え付けておりますから随意御覧下さい。

新住宅……新住宅社
新建築……新建築社
国際建築……美術出版社
建築文化……彰国社
建築雑誌……日本建築学会
新都市……都市計画協会
建設月報……建設省大臣官房弘報課
金属表面技術……金属表面技術協会
工学技術月報……通産省工業技術庁
管工事工学……日本管工事工業協会
日本学術会議月報……日本学術会議
熔接界……日本印刷出版株式会社
（其の他）

自動車技術……自動車技術会
衛生工業協会誌……衛生工業協会
国立公園……国立公園協会
経済人……関西経済連合会
Chamber……大阪商工会議所
造園雑誌……日本造園学会
軽金属情報……軽金属協会
軽金属資料……同上
セメント……セメント協会
セメント、コンクリート日本セメント技術協会
THE ARCHITECTVRAL REVIEW …購入
THE MAGAZINE OF BUILDING…同上
L' ARCHITECTURE D' AUJOVLD' HOI……同上
LIFE……購入
国際写真情報……購入

●第三三集　第七号　掲載広告一覧（掲載順）

岩住鉄工所
ヤハズラス
磐城コンクリート工業
ダイハツ工業
日本ドアーチエック製造
アスファルト同業会
協和製作所
大阪機工
久保商店
浅沼組
新工務所
大林組
奥村組
鹿島建設
勝呂組
神崎組
熊谷組
鴻池組
郷組
佐藤工業
清水建設
島藤建設

銭高組
大成建設
大鉄工業
竹中工務店
鉄道建設興業
戸田組
間組
藤木工務店
藤田組
松村組
三井建設
森本組
望月組
佐藤組
岡組
八木工務店
長谷川組
昭和鑿泉
第一工業
水野建設
神谷建造工業
不二製作所

大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
斉久工業
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
栄興商会
三晃商会
マンテン
浅海電気産業
近畿電気工事
中央電気工業
立花商会
東海電気土木
大島応用化学工業
河津装飾
衣川鉄工所
大阪コンベス建材社
佐村木商店
川岸窯業
淡陶
豊国建材店

打越建物洗装店
三舟窯業
井上浄夫商店
大阪碇組
大阪耐酸工業所
田中工業
大同鋳造
昭和鋼機
福屋工業所
関城化学工業所
林塗装店
田村商会
山崎建具木工所
田中屋
柴田惣兵衛商店
大阪建材工業
井上工材
岩元工業
開成鋼材
旭化工板製造
石井建材
亀井
日本サッシュ
福島産建工業

平田タイル
火曜会事務所
三高製作所
米谷セメント化工
長岡鉄筋コンクリート
矢橋大理石商店
吉田芳雄商店
ナニワ瓦
東邦商会
室谷商店
井田商事
東京鋼板工業
水島商店
前沢商行
高野アスファルト
和田避雷針製作所
新京建材社
三幸商会
内外土木建材社
藤森工業
木下謹三商店
杉田組協栄
黒川化学工業所
坂本商会

日本セメント防水剤製造所
浪速建材工業
大阪窯業セメント
油脂化工社
大建工業
大阪耐酸工業所
朝日石綿工業
田島応用化工